

口上書譯文

本月廿四日露國公使閣下ヨリ口頭ニテ開陳セラレタル所ニ依リ、帝國政府ヨリ西公使へ發送セシ電信中ニ記載セシ所ノ媾和ノ基礎ハ、若シ日本國ニテ露國政府ガ單ニ望ミ居ラルルガ如ク見ユル所ノ、朝鮮國ノ獨立ヲ認ムルニ於テハ、右ノ基礎ヲ肯諾スルコトヲ清國ニ勸告シ、且ツ他強國ヲ誘勸シテ清國政府へ同様ノ勸告ヲ爲サシムルコトニ付、清國政府ノ贊助ヲ得ベキコトヲ知悉セシハ、帝國政府ノ欣悅スル所ナリ。

露國公使閣下ヨリ此宣言アリタルニ付テハ、帝國政府ハ茲ニ日本國ガ朝鮮國ニ對スル政略方針ハ更ニ變ゼシコトナク、帝國政府ハ名實共ニ朝鮮國ノ獨立ヲ認メ居ルコトヲ宣言スルヲ躊躇セザルナリ。

(別紙天)

千八百四十三年十一月二十八日倫敦ニ於テ布哇

諸島ノ獨立ニ關シ英佛兩國ノ爲シタル宣言

大不列顛及愛蘭聯合王國皇帝陛下及佛蘭西國皇帝陛下ハ、布哇諸島ニ於テ其諸島ト諸外國トノ關係ヲ維持シ得ル政府ノ存在スルコトヲ考量シ、茲ニ相互ニ左ノコトヲ約定スルヲ至當ト認メタリ。即チ布哇諸島ヲ獨立國ト認定シ。且ツ直接ニ又ハ保護國若クハ其他何タル名義ニテモ、該諸島ノ一部若クハ全部ヲ占領セザルベシ。

英國皇帝陛下ノ外務大臣及倫敦駐劄佛國皇帝陛下ノ全權大使ハ、必要ノ權限ヲ受ケタルヲ以テ、茲ニ兩國皇帝陛下ハ相互ニ前記ノ約定ヲ爲シタルコトヲ宣言ス。

(別紙地)

千八百四十七年六月十九日倫敦ニ於テ太平洋中ヒユ
アヒン及ビ其他諸島ノ獨立ニ關シ英佛全權委員ノ爲
シタル宣言

大不列顛及愛蘭聯合王國皇帝陛下及佛蘭西國皇帝陛下は、太平洋中左記ノ諸島ニ關シ紛議ノ
起ルヲ避ケムコトヲ希望シ、茲ニ相互ニ左ノ約定ヲ爲スコトヲ至當ト認メタリ。

第一、「ヒユアヒン」^{「タヒチ」島}「ライアター」及「ボラボラ」^{ノ西北部}及其接近諸島ノ獨立ヲ公然
承認スルコト。

第二、完全ニ又ハ保護國若クハ其他何等ノ名義ニテモ、前記諸島ノ一部若クハ全部ヲ占領セ
ザルコト。

第三、「タヒチ」島ヲ統治スル會長若クハ君主ニシテ、同時ニ前記諸島ノ一島若クハ數島ニ於
テ政權ヲ取り、又ハ前記諸島ノ一島若クハ數島ヲ統御スル會長、若クハ君主ニシテ、同時ニ「タ
ヒチ」島ニ於テ政權ヲ取り得ルコトヲ承認セザルコト。但シ前記諸島並ニ「タヒチ」及ビ其所
屬島ハ相互ニ獨立タルコトヲ確認ス。

英國皇帝陛下ノ外務大臣及倫敦駐劄佛國皇帝陛下ノ全權公使ハ、必要ノ權限ヲ受ケタルヲ以
テ、茲ニ兩國皇帝陛下ハ相互ニ前記ノ約定ヲ爲シタルコトヲ宣言ス。

露國公使ノ提示セル同國政府ノ訓電

閣下ノ電信及西公使ヨリノ談話ニヨレバ、日本政府ハ朝鮮ノ獨立、償金、土地ノ讓與及將來兩國ノ關係ニ關スル條約ヲ締結シ得ベキ全權ヲ有スル清國使節ノ渡來ヲ冀望スルガ如シ。又西公使ハ此事ヲ通知スルト同時ニ、他ノ強國ヘ洩レザルコトヲ請ハレタリ。就テハ若シ日本政府ニ於テ名義上及事實上、朝鮮ノ獨立ヲ認ムベキコトヲ宣言スルニ於テハ、我政府ハ前顯ノ條件ヲ包含スル全權ヲ其使節ニ與フベキコトヲ清國政府ニ勸告スベシ。又他強國ヘモ我政府ト同一ノ手段ヲ取ルベキコトヲ勸誘スベシ。勝利ニ際シ、速ニ平和ヲ結了スルコトハ日本ノ利益ナリト信ズレバ、右ノ件ニ關シ日本政府ノ回答ヲ求メ、速ニ返電アリタシ。

李鴻章ノ委任狀并談判開始期日

外務大臣ノ總理大臣宛電報

電信三月三日後二時十分發

鍋島書記官

外務大臣

總理大臣へ

米國公使ヲ經テ、清國政府ト電信往復ノ末、李鴻章ノ委任狀案ハ英文譯ト同意味ニ改メ來リタリ。此上ハ談判ヲ開クベキ期日ヲ我レヨリ通知スルヲ要スルノミナリ。夫レニ付貴大臣ト種々親シク御相談ノ上相定メ度事項アル故、本大臣ハ一兩日中當地ヲ發シ廣島ヘ赴クベシ。

清國使節談判要件裁可公文

清國使節談判ノ要件

右謹テ裁可ヲ仰グ

明治二十八年三月廿七日

内閣總理大臣伯爵 伊藤博文 印

明治廿八年三月廿日内閣書記官

内閣總理大臣 印

内閣書記官長 印

大藏大臣 印	海軍大臣 印
陸軍大臣 印	農商務大臣 印

客歲隣清ト交戦シテ以來、彼ノ和ヲ請フコト實ニ三回、即チ第一ハ未ダ接見ニ至ラズシテ斥ケ、第二ハ一タビ接見ヲ許シタルモ、彼ハ國際上ノ成例ニ戻レルヲ以テ、會見ノ初ニ於テ談判ノ進行ヲ容サザリキ。而シテ第三ニ及ンデ彼ハ國際法上ノ形式ニ從ヒ、禮ヲ具ヘテ一モ虧損スル所ナク清廷第一流ノ人物ヲ簡派シ、其閱歷重望固ヨリ前使ノ比ニアラス。是ニ於テ我亦更ニ全權辯理大臣ヲ特命セラレ、今次馬關ニ接見スルコト、爲レリ。蓋シ彼ガ和ヲ乞フニ急切ナルハ、國際上ノ成例ニ循ヒ、我ノ満足スル全權ヲ付シ、簡派セル使臣其人ヲ以テスルニ於テモ、亦之ヲ推知スルニ足ル。而カモ今次會見ヲ重ヌル三回ニ過ギズト雖モ、明ニ彼ガ和ヲ乞フノ切實ヲ認メ得タルモノアリ、我廟議素ヨリ彼ニ於テ國際上ノ成例ヲ踐ミ、誠衷ヲ披キテ和ヲ乞フニ於テハ、之ト會同商議スルニアルヲ以テ、此ノ如ク稍其歩武ヲ進ムルニ際シ、會見僅ニ第三

回、不幸兇徒ノ危害ヲ清使ニ加フルアルニ至リ、爲ニ中外ヲ震駭シタルハ洵ニ終天ノ遺憾トス。既ニ苟モ清使ト接見スルニ於テハ、相當ノ待遇ト警備トヲ與ヘ、亦怠弛ナカリシト雖モ、偶々此ノ如キ兇徒ヲ出シタルハ、實ニ洗滌スベカラザル帝國ノ汚辱ニシテ、亦我ニ辯解ノ辭ナキニ苦シム所タリ。

顧ルニ當初以來今日ニ至ルマデ、各國ガ毫モ兩國ノ事ニ干涉セザルハ、一ハ我ノ戰勝ノ結果ニ縁ルベシト雖モ、亦職トシテ各國トノ交際ニ於テ樽俎折衝其宜ヲ得タルニ由ラズンバアラズ。既往ニ於テハ此ノ如ク巧ニ各國ノ干涉ヲ避ケ、兩國ノ事一ニ兩國ノ間ニ決定シ敢テ他國ノ容喙ヲ許サズ、又假令清國ヨリ各國ニ愁訴スルアルモ、各國ハ干涉ヲ試ミルノ口實ヲ有セザリキ。然ルニ今回不測ノ兇變アリタル爲メ、清國ハ干涉ヲ求ムルニ無上ノ口實ヲ得タリ。彼ハ應ニ云フベシ。我和ヲ請フニ殷ナルガ爲ニ、使臣二回ヲ簡派シタルモ、日本ハ辭ヲ國際上ノ成例ニ託シテ之ヲ排斥シ、第三回ニ及デハ日本ノ所謂國際上ノ成例ニ循ヒ、使臣亦隆位重望ノ人ヲ撰デ前往セシメタルモ、會見僅ニ三回ニシテ忽チ兇徒ノ爲危害ヲ加ヘラル。日本ハ文明ヲ口ニスルモ到底直接談判スベキノ對手ニアラズト。事此ニ至ラバ各國亦袖ヲ聯ネテ干涉スルノ口實ヲ得、形勢此ニ一變シ帝國ハ尤モ脆弱ノ地位ニ立タザルヲ得ザルニ至ルベシ。

然リ而シテ清使ガ開口第一ノ提議ハ即チ休戰ノ懇請トス。是レ切實和ヲ求ムルニ於テ、先ヅ豫備トシテ休戰ヲ請フハ國際上普通ノ手續タルヲ以テ、我苟モ會同商議ヲ許シタル以上ハ、絶對的ニ峻拒スベキニアラズ。故ニ我ハ休戰ノ條件トシテ太沽天津山海關及其砲臺兵器ノ引渡、並ニ天津山海關間ノ鐵道ノ引渡シヲ指命シ、以テ其擔保タラシメント欲シタルニ、彼ハ頻リニ其苛重ヲ訴ヘ、迂餘曲折我ニ寛大ノ處置ヲ請フト同時ニ、己レ亦熟考セント云ヒ、我ハ一たび指命シタル條件ハ斷ジテ諭ユルヲ得ズト主張シ、彼ハ會見第三回ノ終ニ至リ、然ラバ寧ロ交戰ヲ續ケツ、平和條件ヲ商議セント言ヒ、乃チ第四回ノ會見日時ヲ約シテ辭別シタルニ、不慮ノ變ハ當日清使ノ歸途ニ生ジタリ。

此一兇變ノ爲ニ帝國ハ甚シキ困難ノ地位ニ立タザルヲ得ザルニ反シ、清國ハ各國ニ對シテ尤モ好口實ヲ得タルヲ以テ、清使或ハ直ニ歸國セン。而シテ彼レ哀ヲ各國ニ訴フルトキハ各國ハ寧ロ友情ヲ彼ニ表シ、翻テ其協同ノ壓力ヲ以テ我ヲ抑制スルナキヲ保スベカラズ。若シ此ノ如クナルトキハ、帝國ノ威光ヲ失墜スルコト極メテ大ナルベキヲ以テ、今日ノ善後策ハ、唯タ清使トノ商議ヲ繼續シ、以テ豫メ各國聯合ノ干涉ヲ避クルニ在リ。其道如何セバ可ナル乎。曰ク宜シク前キニ指命シタル條件ヲ全然拋棄シ、以テ直ニ無條件休戰ヲ許諾スベキナリ。既ニ我ニシテ此無上ノ寛大ヲ施ス時ハ、直接ニ敵國ヲシテ我恩ニ感ゼシメ、間接ニ各國ヲシテ容喙ヲ逞クスルノ餘地ヲ得セシメザルベシ。而シテ一旦鋒鏖ヲ收メ、其間ニ於テ徐々平和ノ克復ヲ商議

スベシ。今日ノ事若シ一步ヲ誤ラバ彼ハ好辭ヲ利用シテ各國ノ干涉ヲ求メ、我ハ各國聯合ノ壓力ノ下ニ千古拭フベカラザルノ汚辱ヲ蒙ルコトナシトセズ。仍テ我レ中外ニ對シテ大國ノ襟度ヲ表示スル爲ニ、終始一徹指命シタル條件ヲ斷然全ク之ヲ拋棄シテ。無條件休戦ヲ許諾シ、以テ豫メ各國聯合ノ干涉ヲ防遏シ、清國トノ和議ヲ進捗セシムルノ外ナキヲ信ズ。茲ニ顛末ヲ略叙シテ閣議ヲ請フ。

休戦ノ要項ヲ列舉スルコト左ノ如シ

- 一、日本政府ハ臺灣ノ遠征ヲ除クノ外休戦ヲ許諾ス。
- 一、休戦ハ三月廿七日ヨリ四月十六日ヲ期限トス。
- 一、成約ノ上ハ日清兩國ノ政府ハ清國ノ北部ニ屯駐スル兩國ノ軍隊ニ敏速ノ方法ヲ以テ休戦ノ命令ヲ下スベシ。

一、盛京省ニ屯駐スル日本軍ハ、休戦命令ヲ接受シタル日ヨリ休戦シ、田莊臺鞍山站連山關賽馬集寬甸縣ニ亘ル拆線以外ニ進出セザルベシ。

一、盛京省ニ屯駐スル清國軍隊ハ、日本軍ヲ距ルコト日本里數十里（清國里數八十里）ヲ越エテ日本軍ニ接近セザルベシ。

以上ノ要項ニ基キ、兩國全權大臣ノ間ニ儼然訂約アルコトヲ要ス。

訪問記話

三月三十一日午後二時三十分、伊藤西郷兩伯相携テ李伯ヲ引接寺ノ病床ニ訪ハル。李伯ハ縑帶ヲ施シ、長椅子ニ横臥セルマ、兩伯ト握手ス、李經芳傍ニ侍シテ專ラ通辯ノ勞ヲ取リタリ。

李伯 (端然トシテ) 今回余ガ遭難ノ事、貴國 兩陛下ノ聖聽ニ達シ、爲ニ 宸襟ヲ惱マシ玉ヒタルコトヲ拜察シ、誠ニ畏レ多シ。殊ニ優握ナル 聖恩ニ浴シ遠ク侍醫ヲ遣ハサル。實ニ望外ノ大幸ナリ。又兩全權大臣閣下ニ於テモ余ノ爲ニ種々配慮セラレタルコト、及ビ一般國民ヨリ懇懃ナル慰問ヲ蒙リタルコトハ余ノ深ク感謝スル所ナリ。

伊藤伯 余ハ閣下負傷ノ當時、直ニ馳セテ訪問シタルモ、閣下ト相見スルハ容體ニ影響スル所アラシク慮リ、僅ニ李參議官等ニ面シ、刺ヲ殘シテ辭シタレバ、今日閣下ト接話スルハ實ニ閣下遭難後初メトス。幸ニ日々恢復セラルルノ報ヲ得、欣喜措ク能ハズ。余ハ其當時特ニ事狀ヲ電奏シ、侍醫ノ派遣ヲ請ヒタルニ
至尊陛下ハ即時聽許シ玉ヒ、且種々叡慮ヲ惱マセラル、趣ニ付、余ハ匆忙トシテ廣島

ニ赴キ親ク宮闈ニ伏奏スル所アリシニ

陛下ヨリハ時々閣下ノ容體ヲ電奏スベキ旨御沙汰アリ。

李伯

聖恩海ノ如シ感荷何ゾ堪ヘン。余モ亦備サニ貴國 皇帝陛下ノ厚キ思召ト侍醫ヲ遣ハサレタル等ノ優恩ニ付我皇ニ電奏スル所アリシニ我皇ニ於テモ殊ノ外満足ニ思召サレタリ。余ハ仍ホ遭難已來兩全權大臣閣下ノ非常ナル厚配ニ對シ、併セテ茲ニ感謝セントス

伊藤伯

閣下ハ豫テ聞知セラレンガ、今回 我皇ヨリ特ニ遣ハサレタル佐藤博士ハ、外科ニ於テ我國中一二屈指ノ名手ナリ。閣下亦博士ヲ信ズルコト厚ク、托スルニ治療ノ事ヲ以テセラル、ハ、余ノ尤モ喜ブ所、而シテ閣下ノ容體日ニ快キヲ以テ、已ニ其必要ナキニ以タリト雖モ、更ニ東京ヨリ、スクリツパ博士ヲ招キタルハ、爾後閣下ノ容體如何ニ依リ、多少ノ補アランコトヲ期シタルニ由ル。唯ダ今日閣下ニ向テ一ノ注意ヲ促シタキハ、閣下齡已ニ高キヲ以テ、創痍未ダ癒エザルニ及ビ、感冒ニ罹ル等ノコトナキ様慎戒セラレヨト云フ是事ナリ。

李伯

厚意多謝、十分慎戒自重セン。余ハ今回佛醫及清醫ヲ伴ヒ來リ、清醫林聯輝ハ現ニ天津病院ヲ宰理スル者、其伎倆我國ニ在ツテハ多ク匹儔ヲ見ズト雖モ、貴國ノ佐藤博士ノ經驗學識ニ比セバ、素ヨリ日ヲ同クシテ論ズベキニアラズ。故ニ余ハ一タビ佐藤博士ノ診ヲ受ケテ以來、一切治療ヲ博士ニ乞ヘルコトハ閣下ノ知ラル、所ノ如シ(語ヲ改

メテ)余ハ平和ヲ商議スル爲ニ使命ヲ啣テ前來シタルナレバ、其目的ヲ達スルニ於テ最モ重責ヲ負フ者ナリ。既ニ幸ニ休戦ヲ許諾セラレタルモ、三週ノ期限決シテ長シトスベカラズ。余ハ此期間ニ於テ平和ノ議ヲ商定シ、以テ未來永劫ノ休戦……即チ互ニ鋒鏑ヲ收ムルノ實果ヲ見ンコトヲ欲スルコト切ナリ。望ムラクハ閣下一日モ速ニ平和條件ヲ指命セラレンコトヲ。

伊藤伯

左レバナリ。余亦速ニ平和商議ニ進移センコトヲ欲スルモ、如何セン會見僅ニ三回ニシテ閣下不慮ノ難ニ逢ハレ、經過佳良ト雖モ、未ダ治癒ニ至ラズ。若シ此時ニ於テ大事ヲ談論スルアラバ、之ガ爲ニ閣下ノ神身激動シ、靜養ヲ妨グルコト殊ニ大ナルベキヲ察シ、余ハ心ナラズモ閣下ノ日々快復セラル、ヲ待テリ。

李伯

閣下ノ厚意謝スルニ辭ナシト雖モ、畢竟無用ノ配慮ノミ。余自身ハ勿論 我皇及政府ニ在テハ、貴國ハ如何ナル條件ヲ以テ我ニ指命セラル、カ、日夜憂念ニ堪エザルヲ以テ、余ハ瞬刻モ速ニ我國上下ヲシテ安慮セシメンコトヲ冀フ。

伊藤伯

余ハ閣下ニ向ヒ茲ニ一ノ内議ヲ試ミントス。夫ハ他ニアラズ。閣下創痍未癒ノ間ハ戶外ニ出ヅルヲ得ザルベク、又固ヨリ歩ヲ會見所ニ移スコトモ難カルベキヲ以テ、此際(李經芳ヲ顧テ……李經芳氏ヲシテ此事ヲ通譯セシムルハ氏モ迷惑ナルベキモ)

李伯

閣下ヨリ李經芳氏ヲ陞シテ全權大臣タラシムルコトヲ 貴國皇帝陛下ニ奏請セラレテハ如何。事ノ重大ナルモノハ直接閣下ト論談シ、其細目ノ如キハ李經芳氏ヲシテ專ラ其衝ニ當ラシムルコト、セバ、談判ノ結了ヲ速カナラシムルノ利便アルベシ。但シ今ノ日場合ニ付、李經芳氏全權委任狀ハ特例トシテ電文ニテ満足セントス。貴意果シテ如何。閣下ノ懇諭深謝ニ堪ヘズ。然レドモ閣下ノ知ラル、如ク、經芳ハ余ガ兒ナレバ余ヨリ全權大臣トシテ奏慮スルコトハ我國ノ感情ニ對シテ憚アリ……閣下ニシテ斯クマデノ厚配アランニハ、閣下ヨリ在北京米公使デンビー氏ヲ經テ、總理衙門ニ通ゼシメラル、ナラバ 我皇ハ必ず聽納セラルベシ。閣下ノ高見如何。

伊藤伯

貴意領ス。早速其ノ如ク取計ラハン。

李伯

實ハ前キニ張蔭桓使來スルニ當リ、經芳モ其一人ニ任ゼラルベキ筈ノ處、偶々疾病ノ爲ニ故郷ニアリシヲ以テ、命ハ邵友濂ニ下レリ……兎ニ角短時間ヲ以テ重大事ヲ商議スルハ尤モ困難ナルヲ以テ、經芳任命ノ前ト雖モ速ニ平和條件ヲ指命セラレタシ。老生ハ我國人安心ノ爲ニ之ヲ切望シテ止マズ。

伊藤伯

閣下條件ノ指命ヲ促サル、コト急ト雖モ、凡ソ條件ヲ開示スルノ前ニ於テ、談判手續等ヲ決定スルノ必要アリ。例ヘバ各條ヲ逐次ニ商議スルカ否ノ如キ、又某々重大ノ事

項ハ閣下ト病床ニ會商シ、某々細目ニ涉リテハ李經芳氏ト商議スト云フ如ク、種々決定スベキノ前提アルヲ以テ、明日先ヅ李經芳氏ヲ會見所ニ遣ハサレテハ如何。

李伯 條件ハ凡ソ幾許條項アルカ。

伊藤伯 確カニ記憶セザルモ凡ソ十條程ナリシト覺ユ。

李伯 貴命ニ從ヒ明日經芳ヲ會見所ニ趨カシメン。但シ何時頃ヲ便トセラル、カ。

伊藤伯 午前十時頃可ナラン……余ハ當日出席スルノ必要ナカラント思惟スレバ、或ハ缺席センモ知ルベカラズ……陸奥子ト李經芳氏トノ間ニ於テ協議セバ足ルベシ。

李伯 明日尊命ノ時刻ヲ期シ經芳ヲ遣スコトニ異議ナシト雖、貴方ヨリハ其時ヲ以テ媾和條件ヲ指命セラル、カ。

伊藤伯 否、前ニ云ヘル如ク、明日ハ談判本議ニ進行スル前ノ手續ヲ商定スル筈ナレバ、其決議後ニ於テ別ニ提出貴覽ニ供スベシ。病床多時ノ談話或ハ靜養ヲ妨グルノ虞レアリ。

本日ハ是マデニテ別辭ヲ告ゲン。

李伯 (伊藤伯ニ向テ輕ク首肯シ、更ニ起テ西郷伯ヲ控エ、願クバ閣下ト數分時間談セント云ヒ懸ケ) 曾テ天津ニ拜別シタル已來、警咳ニ接セザルコト久シ。閣下益々勇健尊貌毫

モ昔日ニ異ナラズ。今閣下海軍大臣トシテ貴國海軍ヲ統轄セラル。余ハ日本海軍ノ顯

著ナル進歩ヲ以テ一ニ閣下ノカナリト感心ス。我政府ハ資力ノ十分ナラザルヨリ、意ノ如ク新發明ノ武器、精巧ナル堅艦ヲ購入スルヲ得ズ。爲ニ貴國海軍ト戰フ毎ニ敗辱ヲ受ケタリ。此點ニ就テハ余ハ全部ナラザルモ、幾分カ余ノ過失タルコトヲ自認スルモノナリ。之ニ反シテ貴國海軍ノ進歩ハ實ニ震駭スルニ堪ヘタリ。殊ニ軍事上ノ成功ハ、閣下ノ才能識量ヲ以テ統轄其道ヲ得ラルルニ職由スベシト雖モ、抑々亦閣下ノ傍ニ賢明ナル宰相アリテ、克ク閣下ヲ補助スルニアラザレバ、焉ゾ此ノ如キ非常ナル結果ヲ觀ルベケン耶。余ハ閣下ガ今後此賢宰相ヲ戴キ、永ク其要局ニ當ラルルニ於テ、貴國海軍ノ更ニ長足進歩スルヲ疑ハザルモノナリ。

西郷伯 (井上外務書記官通辯ス) 過稱敢テ當ラズ。

李伯 (西郷伯ニ向ヒ) 澎湖島ニモ貴國兵ノ上陸シタルヲ聞ク、果シテ眞カ。

伊藤伯 (西郷伯ノ開口ニ先チ) 然リ。我兵己ニ澎湖島ヲ占領シタリトノ公報今朝接受シタリ。

聞ク所ニ依レバ貴國兵ノ戰鬥力甚ダ薄弱ニシテ、格別ノ抵抗ヲモ試ミザリシト云フ。

李伯 或ハ然ラン。我兵數ハ僅カニ千五百バカリ居リシモ、古式ノ兵ニシテ用ニ堪ヘザルモノノミ。

伊藤伯 余ハ今其員數ヲ記憶セザルモ貴說丈ケノ數モナカリシガ如シ。捕虜ハ士官十人……

李伯 或は十一二人、兵卒五六百人ト覺ユ。士官ハ我國ニ後送スル筈ナルモ、兵卒ハ多ク釋放シテ故土ニ歸還ヲ許ス積リナリ。黒旗兵ノ統領劉永福ハ今猶ホ臺灣ニ在ルカ。

伊藤伯 然リ彼ハ臺灣ニ在リ。
伊藤伯 吳太徵ハ戰敗ノ爲ニ北京ニ召サレ、部ニ付シ處罰セラレタリトノ風説アリ。眞否如何。

李伯 閣下ハ吳太徵ヲ知ラルルカ。
伊藤伯 吳ハ元來文官ニシテ武官ニアラズ。故ニ兵ノ司令官トシテハ何等素養ナキヲ以テ、一

敗塗地敢テ怪ムヲ要セズ。余ハ當初彼ガ司令官ニ任ゼラレタル時ヨリ、豫メ今日アルヲ察シ、其器ヲ得ザルヲ一笑シタリ。吳ガ司令官トナリシハ單ニ御史ノ奏薦ニ係ル。
西郷伯 余ガ廣島ヲ去ル時、榎本子モ同地ニ在リテ、余ト共ニ來關シ、親ク閣下ノ病ヲ訪ハン

コトヲ欲シタルモ、子ハ公務ヲ帯ビテ急ニ京都ニ赴クコトトナリタルニ付、余ガ閣下ニ面スル時、同子ニ代リ閣下ニ懇辭ヲ寄セヨト囑託セラレタリ。

李伯 厚意多謝、願クハ閣下榎本子ヲ見ルノ日、余ガ謝意ヲ致セ……閣下ハ猶暫ク滯留セラルルカ。余ハ閣下ノ知ラル、如ク病床ニ臥スヲ以テ、恐ラクハ答禮ヲ缺カン。閣下幸ニ諒恕セヨ。

西郷伯 諾、仍ホ三四日間滯留シ、而シテ後廣島ニ歸ルノ豫定ナリ。
(談話此ニ終リ五ニ握手辭別ス時二三時三十分)

日本要求中奉天南部割地ニ付露國公使意見電報

林外務次官來電

陸奧外務大臣

林外務次官

露國公使ニ面會シタルニ、同公使ハ日本ノ要求ノ中ニ奉天省南部ノ割地アルヲ以テ頗ル不快ノ色ヲ顯ハシタリ。且ツ同公使一箇人ノ意見トシテ曰ク、此日本ノ要求ハ歐洲各國ノ感情ヲ害シ、干涉ノ口實ヲ與ヘ、且ツ日本ノ爲メニ云フモ、此ノ如キ土地ヲ取ルハ不便ナルベシト、又英國代理公使ハ臺灣ノ内ニハ澎湖島モアリヤト問ヘルユヘ、本官ハ勿論ナリト答ヘ置キタリ。

馬關條約原案草稿

媾和條約

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ、兩國及其ノ臣民ニ平和ノ幸福ヲ回復シ、且將來紛議ノ端ヲ除クコトヲ欲シ媾和條約ヲ訂結スル爲メニ、大日本國皇帝陛下ハ……ヲ大清國皇帝陛下ハ……ヲ各其ノ全權大臣ニ任命セリ。因テ各全權大臣ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ、其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ。

第 條

清國ハ朝鮮國ノ完全無缺ナル獨立自主ノ國タルコトヲ確認ス。因テ右獨立自主ヲ損害スベキ從來清國ト朝鮮國トノ間ニ於ケル一切ノ典禮儀式ハ全ク之ヲ廢止スベシ。

第 條

清國ハ左記ノ土地ノ主權、並ニ該地方ニ在ル堡壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス。

一、左經界内ニ在ル盛京省南部ノ地。

鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ湯溝子口ニ至リ、湯溝子口ヨリ北ノ方通化縣ニ互リテ直線ヲ畫

シ、通化縣ヨリ正西ニ向テ直線ヲ畫シテ遼河ニ達シ、右直線ト遼河トノ交會點ヨリ該河

流ニ沿ツテ下リ、北緯四十一度ノ線ニ達シ、遼河上北緯四十一度ノ點ヨリ同緯度ニ沿フ

テ東經百二十二度ノ線ニ達シ、北緯四十一度東經百二十二度ノ點ヨリ同經度ニ從フテ遼

東灣北岸ニ至ル遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ盛京省ニ屬スル諸島嶼。

二、臺灣全島及其附屬諸島嶼。

三、澎湖列島即チ東經百九度乃至百二十度北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼。

第 條

清國ハ左記ノ土地ノ主權、並ニ該地方ニ在ル堡壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス。

一、左ノ經界内ニ在ル盛京省南部ノ地。

鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ三叉子ニ至リ、三叉子ヨリ北ノ方榆樹底下ニ亘リテ直線ヲ畫シ、榆樹底下ヨリ正西ニ向テ直線ヲ畫シテ遼河ニ達シ右直線ト遼河トノ交會點ヨリ該河流ニ沿フテ下リ、北緯四十一度ノ線ニ達シ、遼河上北緯四十一度ノ點ヨリ同緯度ニ沿フテ東經百二十二度ノ線ニ達シ、北緯四十一度東經百二十二度ノ點ヨリ同經度ニ從フテ遼東灣北岸ニ至ル。

遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ盛京省ニ屬スル諸島嶼。

二、臺灣全島及其ノ附屬諸島嶼。

三、澎湖列島即東經百十九度乃至百二十度及北緯二十年三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼

第 條

清國ハ左記ノ土地ノ主權、並ニ該地方ニ在ル堡壘兵器製造所及官有物ヲ永遠ニ日本國ニ割與ス。

一、左ノ經界内ニ在ル盛京省南部ノ地。

鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ安平河口ニ至リ、該河口ヨリ鳳凰城海城及營口ニ互ル折線以南ノ地。

遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ盛京省ニ屬スル諸島嶼。

二、臺灣全島及ビ其ノ附屬諸島嶼。

三、澎湖列島即東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼、

第 條

前條ニ掲載シ、附屬地圖ニ示ス所ノ經界線ハ本約批准交換後直チニ日清兩國ヨリ各二名以上ノ境界共同劃定委員ヲ任命シ、實地ニ就テ確定スル所アルベキモノトス。而シテ若シ本約ニ掲載スル所ノ境界ニシテ地形上又ハ施政上ノ點ニ付完全ナラザルニ於テハ、該境界劃定委員ハ之ヲ更正スルコトニ任ズベシ。

該境界劃定委員ハ成ルベク速カニ其ノ任務ニ從事シ、其任命後一個年以内ニ之ヲ修了スベシ。但シ該境界劃定委員ニ於テ更定スル所アルニ當テ、其ノ更定シタル所ニ對シ日清兩國政府ニ

於テ可認スル迄ハ本約ニ記載スル所ノ經界線ヲ維持スベシ。

第 條

清國ハ軍備賠償金トシテ、庫平銀三億兩ヲ日本國へ支拂フベキコトヲ約ス。右金額ハ五回ニ分チ、第一回ハ一億兩、残り四回ハ各五十萬兩ヲ支拂フベシ。而シテ第一回拂込ハ（本約批准交換後六ヶ月以内ニ於テスベク、残り四回ノ拂込ハ各其ノ前回ノ拂込ムベキ期日ト同時若ハ其前ニ於テスベシ）又第一回拂込ノ期日ヨリ以後未ダ拂込ヲ了ラザル額ニ對シテは毎年百分ノ五ノ利子ヲ支拂フベキモノトス。

第 條

日本國ニ割與セラレタル地方ノ住民ニシテ、右割與セラレタル地方ノ外ニ住居セムト欲スル者ハ、自由ニ其所有地ヲ賣却シテ退去スルコトヲ得ベシ。其ノ爲メ本約批准交換ノ日ヨリ二ヶ年間ヲ猶豫スベシ。但シ右年限ノ滿チタルトキハ、未ダ該地方ヲ去ラザル住民ヲ日本國ノ都合ニヨリ日本國民ト視爲スルコトアルベシ。

第 條

日清兩國ノ一切ノ條約ハ交戦ノ爲メ消滅シタレバ、清國ハ本約批准交換ノ後、速カニ全權委員ヲ任命シ、日本國全權委員ト通商航海條約及陸路交通貿易ニ關スル約定ヲ締結スベキコトヲ約ス。而シテ現ニ清國ト歐洲各國トノ間ニ存在スル諸條約章程ヲ以テ、該日清國間諸條約ノ基礎トナスベシ。又本約批准交換ノ日ヨリ諸條約ノ實施ニ至ル迄ハ、清國ハ日本國政府官吏、商業航海陸路交通貿易工業船舶、及臣民ニ對シ、總テ最惠國待遇ヲ與フベシ。

清國ハ右ノ外左ノ讓與ヲ爲シ、而シテ該讓與ハ本約調印ノ日ヨリ六個月ノ後有効ノモノトス。
第一、清國ニ於テ現ニ各外國ニ向テ開キ居ル所ノ各市港ノ外ニ、日本國臣民ノ商業住居工業及製造業ノ爲メニ左ノ市港ヲ開クベシ。但シ現ニ清國ノ開市場開港場ニ行ハル、所ト同一ノ條件ニ於テ同一ノ特典及便益ヲ享有スベキモノトス。

一、北京、

二、湖南省沙市、

- 三、湖南省湘潭縣、
- 四、四川省重慶府、
- 五、廣西省梧州府、
- 六、江蘇省蘇州府、
- 七、浙江省杭州府、

日本國政府ハ以上列記スル所ノ市港中何レノ處ニモ領事官ヲ置クノ權利アルモノトス。

第二、旅客及貨物運送ノ爲メ、日本國汽船ノ航路ヲ左記ノ場所ニ迄擴張スベシ。

- 一、楊子江上流、湖北省宜昌ヨリ四川省重慶ニ至ル。
- 二、楊子江ヨリ洞庭湖ニ入り湘江ヲ溯テ湘潭ニ至ル。
- 三、西江ノ下流廣東ヨリ梧州ニ至ル。
- 四、上海ヨリ吳淞江及運河ニ入り蘇州杭州ニ至ル。

日清兩國ニ於テ新章程ヲ妥定スル迄ハ、前記航路ニ關シ適用シ得ベキ限りハ外國船舶清國內地水路航行ニ關スル現行章程ヲ施行スベシ。

第三、日本國臣民ガ清國ヘ輸入スル總テノ貨品ニシテ、其輸入者又ハ貨主ノ都合ニ依リ、輸入ノ際又ハ其後ニテ該貨品原價百分ノ二ノ抵代稅ヲ納メタル上ハ、清國各地方ニ於テ政

府官吏公吏一私人會社、若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ、又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラル、一切ノ稅金賦課金取立金ハ、其ノ性質並ニ名義ノ如何ニ拘ハラズ、總テ免除セラレベキモノトス。

日本國臣民ガ清國ニ於テ購買シタル清國生産物ニシテ、輸出ノ爲メナルコトヲ言明シタル上ハ、總テ抵代稅ヲ納ムルコトナク、前記ノ場合ト同様ニ、一切ノ稅金賦課金取立金ヲ免除セラレベシ。而シテ斯ル免除ハ右言明ヲ爲セシ時ヨリ、實際輸出ノ時迄有効ナルモノトス。又清國ノ内地消費ニ供スベキ清國貨品及生産物ヲ日本國船舶ニテ清國開港間ニ運送スルニハ、一タビ現行沿海貿易稅ヲ納メタル上ハ、前記ノ場合ト同様右運送中輸出稅ハ勿論、其他一切ノ稅金ヲ免除セラレベシ。但シ此ノ規定ハ輸入阿片ノ課稅ニ關シ、其ノ時現ニ行ハル、所ノ取極ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ。

第四、日本國臣民ガ清國內地ニ於テ貨品及生産物ヲ購買シ、又ハ其輸入シタル商品ヲ清國內地ヘ運送スルニハ、右購買品又ハ運送品ヲ倉入スル爲メ、何等ノ稅金取立金ヲモ納入スルコトナク、又清國官吏ノ干渉ヲ受クルコトナク、一時倉庫ヲ借入ル、ノ權利ヲ有スベシ。

第五、日本國臣民ガ清國ニ於テ納ムル諸稅及手数料ハ庫平銀ヲ以テスベシ。而シテ右諸稅及

手數料ハ日本國本位銀貨ヲ以テ其代表價格ニ因リテ納金スルコトヲ得ベシ。

第六、日本國臣民ハ清國ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ従事スルコトヲ得ベク、又所定ノ輸入税ヲ拂フノミニテ自由ニ各種ノ器機類ヲ清國へ輸入スルコトヲ得ベシ。

清國ニ於ケル日本國臣民ノ製造ニ係ル一切ノ貨品ハ、各種ノ内國運送税内地税賦課金取立金ニ關シ、又清國內地ニ於ケル倉入上ノ便益ニ關シ、日本國臣民ガ清國へ輸入シタル商品ト同一ノ取扱ヲ受ケ、且同一ノ特典ノ免除ヲ享有スベキモノトス。

第七、清國ハ速カニ専門家ノ説ヲ採用シ、退潮ノ時タリトモ少クモ二十呎^{フイ}ノ差支ナキ通路ヲ絶ヘズ維持スル様、黃浦河口ニ在ル吳淞淺瀬ヲ取除クコトニ着手スルコトヲ約ス。

此等ノ讓與ニ關シ更ラニ章程ヲ規定スルコトヲ要スル場合ニハ、之ヲ本條ニ規定スル所ノ通商航海條約中ニ具載スベキモノトス。

第 條

現ニ清國版圖内ニ在ル日本國軍隊ノ撤回ハ、本約批准交換后六ヶ月内ニ於テスベシ。但シ次條ニ載スル所ノ規定に従フベキモノトス。

第 條

清國ハ本約ノ規定ヲ誠實ニ施行スベキ擔保トシテ、日本國軍隊ガ左記ノ各地ヲ一時占領スルコトヲ承諾ス。

.....

日本國ハ本約ニ規定シタル軍事賠償金ノ第一第二ノ二回拂込ヲ了リタルトキニ於テ、其ノ軍隊ヲ.....ヨリ撤回スベク、又該賠償金ノ最終回ノ拂込ヲ了リタルトキニ於テ其軍隊ヲ.....ヨリ撤回スベシ。

然レドモ通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル後ニ非ザレバ、軍隊ノ撤回ヲ行ハザルモノト承知スベシ。

右一時占領ニ關スル諸費用ハ清國ニ於テ之ヲ支辨スベシ。

第 條

本約批准交換ノ上ハ、直チニ其時現ニ有ル所ノ俘虜ヲ還附スベシ。而シテ清國ハ日本國ヨリ
斯ク還附セラレタル所ノ俘虜ヲ虐待若クハ處刑セザルベキコトヲ約ス。

日本國臣民ニシテ軍事上ノ間諜若クハ犯罪者ト認メラレタル者ハ、清國ニ於テ直チニ解放ス
ベキコトヲ約シ、清國ハ又交戰中日本軍隊ト種々ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ、如何ナル
處刑ヲモ爲サズ又之ヲ爲サシメザルコトヲ約ス。

第 條

本約批准交換ノ後、日清兩國政府ヨリ各戰地ニ在ル兩國軍隊ニ向テ、戰爭休止ノ命令ヲ發ス
ベシ。而シテ兩國軍隊ニ於テ其ノ命令ヲ受ケタルトキハ、各軍隊ノ司令官ハ互ニ右ノ趣ヲ通知
シ、速ニ攻戰ヲ息止スベシ。兩國政府ハ出來得ル丈最モ速ナル方法ニ依テ右ノ命令ヲ發スベキ
コトヲ約ス。

第 條

本約批准交換ノ日ヨリ攻戰ヲ止息スベシ。

(甲案) 第 條

本約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ批准セララルベク、而シテ右批准ハ本日ヨリ
十五日ヲ超ヘズ可成速ニ……ニ於テ交換スベシ。

右證據トシテ兩國全權大臣ハ茲ニ記名調印スルモノナリ。

明治二十八年 月 日 即光緒 年 月 日

下關ニ於テ二通ヲ作ル

(乙案) 第 條

本約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ批准セララルベク、而シテ右批准ハ明治二十
八年 月 日即光緒 年 月 日ニ交換セララルベシ。

右證據トシテ兩國全權大臣ハ茲ニ記名調印スルモノナリ。

明治二十八年 月 日 即光緒 年 月 日
下關ニ於テ二通ヲ作ル

第一款

中日兩國公同認明 朝鮮爲特立自主並公同保其作爲局外之國約明或干預朝鮮內務於其自主有礙或令修貢獻典禮於其特立有礙者嗣後概行停止

第二款

中國允將下管理下開地方之權併將該地方上所有城池公廨倉廠營房及一切屬公物件讓與日本
第一、奉天省南邊四廳州縣地方

一、安東縣

二、寬甸縣

三、鳳凰廳

四、岫巖州

以上四廳州縣所有四至均照原有界址爲據

第二、澎湖列島北至北緯二十四度止南至北緯二十三度止東至英天文臺東經一百二十度止西至英天文臺東經一百十九度止應照英國海圖設經緯四線相交所成小方形之內上茲特聲明以免相混

第三款

前款所載及粘附本約之地圖所劃疆界俟本約批准交換之後兩國應各選派官員二名以上爲公同劃定疆界委員就地踏勘確定劃界若遇本約所訂疆界於地形或治理所關有礙難不便等情各設委員等當妥爲參酌更定

各該委員等當從速辦理界務以期奉委之後限一年竣事但遇各該委員等有所更定劃界兩國政府未經認准以前應據本約所定劃界爲正

馬關條約原案原稿

第四款

中國允將三庫平銀壹萬々兩交與日本作為償給用兵之費該款分爲五次交完第一次交二千八百萬兩嗣後每次交一千八百萬兩第一次約在本約批准交換后起計六個月內交清其餘四次每次交之期均與上次相隔一年共計本約批准四年半內一律文清或於二期前交付均聽其便

第五款

中國讓與日本地方之居民如欲遷往所讓境外居住者聽其任便變賣產業物件退出界外上並不因此勅令輸納公捐稅鈔等項今訂明自此約批准互換后與限兩年俾其辦理此事限滿之日其尚未遷徙者日本可視同日本臣民至中國臣民已由所讓之境退出並不僑居其地而產業物件仍在所讓境內者應由日本政府一律優待保護與日本臣民之產業物件無異

第六款

兩國前此所有約章均以戰停廢今中國日本約明俟此約批准互換之後各派全權大臣會商訂立水陸通商章程其新訂約章即以中國與泰西各國現行章程爲本所有口岸行船稅鈔貨物稅等項悉照中國所待泰西最優之國無異又本約批准交換之日起新訂水陸通商約章未經批准之前所有日本政府官吏商務行船邊界通商工作船隻臣民等與中國最爲優待之國上禮遇護視一律無異其中國政府官吏商務行船邊界通商工作船隻臣民等與日本最爲優待之國禮遇護視亦當一律無異

第七款

日本除照本約第八款暫行佔守軍隊外其現駐中國境內者應於本約批准交換之後一個月內全行撤回

第八款

中國爲保明認眞實行約內所訂條款聽允日本軍隊暫行佔守山東省威海衛俟日本約所訂應賠軍費第一第二丙次交到日本立將軍隊一半撤回末次軍費交清立即全撤

第九款

本約批准交換之后兩國應將是時所有俘虜盡數交還中國約將由日本國所還俘虜並不加以虐待或置於罪戾甲
中國約將認爲軍事間諜或被嫌逮擊之日本國臣民上即行釋放併約此二次交仗之間所有關涉日本國軍隊之中國臣民概予寬貸併飭有司不得擅爲逮擊

第十款

本約一經中日兩國全權大臣畫押之日應即按兵息戰

第十一款 (擬添)

現爲預防將來中日兩國更有爭端戰事或因下解此約或遵行此約彼此歧異又或會議或解釋或遵行第六款內所云之通商行船條約邊界通商條約兩國政府意見不合非會議公牘所能辨結者兩國約明應公請友邦保薦公正人代爲決斷如兩國所擬請之公正友邦仍不能合則由美國總統保薦一人充當公正人代爲中央斷兩國約明公正人所下斷語必當信實遵行

第十二款

此約俟下進呈

大清帝國

大皇帝陛下

大日本帝國

馬關條約原案原稿

大皇帝陛下御覽ニ以爲ニ妥協並御筆批准セラレノヲ後上定ニ於某處其年某月某日互換スベシ今欲レ有レ憑兩國全權大臣畫押蓋印以照ニ信守ス

某年某月某日在下之關訂共計四分

媾和條約

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ、兩國及其臣民ニ平和ノ幸福ヲ回復シ、且將來紛議ノ端ヲ除クコトヲ欲シ、媾和條約ヲ訂結スル爲メニ、大日本國皇帝陛下ハ……ヲ大清國皇帝陛下ハ……ヲ各其ノ全權大臣ニ任命セリ。因テ各全權大臣ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認め、以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ。

第一條

清國ハ朝鮮國ノ完全無欠ナル獨立自主ノ國タルコトヲ確認シ、將來該王國ノ内治外交ニ一切干涉セザルコトヲ約ス。因テ右獨立自主ヲ損害スベキ朝鮮國ヨリ清國へ對スル貢獻典禮等ハ將來全ク之ヲ廢止スベシ。

第二條

清國ハ左記ノ土地ノ主權、並ニ該地方ニ在ル堡壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス。

一、鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ湯子溝口ニ至リ、湯子溝口ヨリ北ノ方通化縣ニ亘リテ直線ヲ畫

シ、通化縣ヨリ西ニ向テ直線ヲ畫シテ遼河ニ達シ、右直線ト遼河トノ交會點ヨリ該河流

ニ沿フテ下リ、北緯四十一度ノ線ニ達シ、遼河上北緯四十一度ノ點ヨリ同緯度ニ沿フテ

東經百二十二度ノ線ニ達シ、北緯四十一度東經百二十二度ノ點ヨリ同經度ニ從フテ遼東

灣北岸ニ至ル。

遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ盛京省ニ屬スル諸島嶼。

二、臺灣全島及其ノ附屬諸島嶼。

三、澎湖列島即東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼。

第二條

清國ハ左記ノ土地ノ主權、並ニ該地方ニ在ル堡壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス。

一、鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ三叉子ニ至リ、三叉子ヨリ北ノ方榆樹底下ニ亘リテ直線ヲ畫シ、

榆樹底下ヨリ正西ニ向テ直線ヲ畫シテ遼河ニ達シ、右直線ト遼河トノ交會點ヨリ、該河

流ニ沿フテ下リ北緯四十一度ノ線ニ達シ、遼河上北緯四十一度ノ點ヨリ同緯度ニ沿フテ

東經百二十二度ノ線ニ達シ、北緯四十一度東經百二十二度ノ線ヨリ同經度ニ從ツテ遼東

灣北岸ニ至ル。

遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ盛京省ニ屬ズル諸島嶼。

二、臺灣全島及其附屬諸島嶼。

三、澎湖列島即東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼。

第二條

清國ハ左記ノ土地ノ主權、並ニ該地方ニ在ル堡壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス。

一、鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ安平河口ニ至リ、該河口ヨリ鳳凰城海城及營口ニ亘ル折線以南

ノ地。

遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ盛京省ニ屬スル諸島嶼。

二、臺灣全島及其ノ附屬諸島嶼。

三、澎湖列島即東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼。

第三條

前條ニ掲載シ附屬地圖ニ示ス所ノ經界線ハ、本約批准交換後直チニ日清兩國ヨリ各二名ノ境界共同劃定委員ヲ任命シ、實地ニ就テ更定スル所アルベキモノトス。而シテ若本約ニ掲記スル所ノ境界ニシテ、地形上又ハ施政上ノ點ニ付キ完全ナラザルニ於テハ、該境界劃定委員ハ之ヲ更正スルコトニ任ズベシ。又該委員ニ於テ必要ト認メ、經界線ヲ變更スルニハ其ノ土地ノ限界及價值ノ點ニ於テ彼此相當ノ主義ニ依ルベキモノトス。

該委員ハ可成速カニ其ノ任務ニ從事シ、其ノ任命後一個年以内ニ之ヲ終了スベシ。

但シ該委員ニ於テ更定スル所アルニ當テ、其更定スル所ニ對シ日清兩國政府ニ於テ可認スル

迄ハ本約ニ掲記スル所ノ經界線ヲ繼續スベシ。

第四條

清國ハ軍費賠償金トシテ三億萬兩ヲ日本國ヘ支拂フベキコトヲ約ス。右金額ハ五個年賦トナシ、第一回ニ一億萬兩ヲ支拂ヒ、残り四回ハ各五千萬兩ヲ支拂フベシ。而シテ第一回拂込ハ：
：月：：日ニ於テスベク、残り四回ノ拂込ハ毎年其ノ前年拂込ミ時日ト同時、若ハ其前ニ於テスベシ。又第一回拂込ノ期日ヨリ以來拂込ヲ了ラザル額ニ對シテハ、毎年百分ノ五ノ利子ヲ支拂フベキモノトス。

第五條

日本國ニ割與セラレタル地方ノ住民ニシテ、右割與セラレタル地方外ニ住居セムト欲スル者ハ、自由ニ其ノ所有地ヲ賣却シテ退去スルコトヲ得ベシ。其ノ爲メ本約批准交換ノ日ヨリ一個年間ヲ猶豫スベシ。但シ右年限ノ滿チタルトキハ、未ダ該地方ヲ去ラザル住民ヲ日本國ノ都合ニ依リ、日本國臣民ト視爲スコトアルベシ。

第六條

日清兩國間ノ一切ノ條約ハ、交戦ノ爲メ消滅シタレバ、清國ハ本約批准交換ノ後、速ニ全權委員ヲ任命シ、日本國全權委員ト通商航海條約及陸路交通貿易ニ關スル約定ヲ締結スベキコトヲ約ス。而シテ現ニ清國ト歐洲各國トノ間ニ存在スル諸條約章程ヲ以テ、日清兩國間新約ノ基礎トナスベシ。又本約批准交換ノ日ヨリ新約ノ實施ニ至ルマデハ、清國ハ日本國政府官吏通商航海陸路交通貿易工業船舶及臣民ニ對シ、總テ最惠國待遇ヲ與フベシ。

清國ハ右ノ外左ノ讓與ヲ爲スベシ。

第一、日本國臣民ガ清國ヘ輸入スル總テノ貨品ニシテ、其輸入者又ハ貨主ノ都合ニ依リ、輸入ノ際又ハ其後ニテ該貨品原價百分ノ二ノ抵代稅ヲ納メタル上ハ、清國各地方ニ於テ政府官吏公吏一私人會社、若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ、又ハ其利益ノ爲メニ課セラル、一切ノ稅金賦課金取立金ハ、其ノ性質並ニ名義ノ如何ニ拘ハラズ、總テ免除セラルベキモノトス。

日本國臣民ガ清國ニ於テ購買シタル清國貨品及生産物ニシテ輸出ノ爲メナルコトヲ言

明シタル上ハ、總テ抵代稅ヲモ納ムルコトナク、前記ノ場合ト同様ノ一切ノ稅金賦課金取立金ヲ免除セラルベシ。而シテ斯ル免除ハ右言明ヲ爲セシ時ヨリ實際輸出ノ時迄有効ナルモノトス。又清國ノ内地消費ニ供スベキ清國貨品及生産物ヲ日本國船舶ニテ清國開港間ニ運送スルニハ、一タビ沿海貿易稅ヲ納メタル上ハ前記ノ場合ト同様、右運送中輸出入稅ハ勿論、其他一切ノ稅金ヲ免除セラルベシ。但シ此ノ規定ハ輸入阿片ノ課稅ニ關シ其ノ時現ニ行ハルル所ノ取極メニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ。

第二、日本國臣民ガ清國内地ニ於テ貨品及生産物ヲ購買シ、又ハ其ノ輸入シタル商品ヲ清國内地ヘ運送スルニハ、右購買品又ハ運送製品ヲ倉入スル爲メ、何等ノ稅金取立金ヲモ納ムルコトナク、又清國官吏ノ干渉ヲ受クルコトナク、一時倉庫ヲ借入ル、ノ權利ヲ有スベシ。

第三、日本國臣民ガ清國ニ於テ納ムル諸稅及手數料ハ庫平銀ヲ以テスベシ。而シテ右諸稅及手數料ハ日本國本位銀貨ヲ以テ其ノ代表價格ニ因リテ納金スルコトヲ得ベシ。

第四、日本國臣民ハ清國ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ從事スルコトヲ得ベク、又所定ノ輸入稅ヲ拂フノミニテ、自由ニ各種ノ器械類ヲ清國ヘ輸入スルコトヲ得ベシ。

第五、清國ハ速カニ熟練者ノ說ヲ採用シ、退潮ノ時タリトモ少クモ二十呎丈ノ差支ナキ通路

ヲ絶ヘズ維持スル様、黄浦河口ニ在ル吳淞淺瀬ヲ取除クコトニ着手スルコトヲ約ス。
此等ノ讓與ヲ十分ニ施行スル爲メニ必要ナル諸規則ハ、本條ニ載スル所ノ通商航海條約中ニ
包括セラルベシ。

第七條

日本國軍隊ノ撤回ハ本約批准交換後六ヶ月内ニ於テスベシ。但シ次條ニ載スル所ノ規定ニ從
フベキモノトス。

第八條

清國ハ本約ノ規定ヲ誠實ニ施行スベキ擔保トシテ、日本國軍隊ガ左記ノ各城市ヲ一時占據ス
ルコトヲ承諾ス。

此等各城市ハ本約ニ規定セシ軍費賠償金拂込ノ次序ニ隨ヒ、漸次軍隊ヲ撤回スベシ。即チ每
回拂込ゴトニ一ノ城市ヨリ撤回スベシ。但シ通商航海條約批准交換ノ後迄ハ軍隊ヲ撤回セザル
ベシ。

右一時占據ニ關スル諸費用ハ清國ニ於テ之ヲ支辨スベシ

第九條

本約批准交換ノ上ハ直チニ其ノ時現ニ有ル所ノ俘虜ヲ還附スベシ。而シテ清國ハ日本帝國ヨ
リ斯ク還付セラレタル所ノ俘虜ヲ虐待若クハ處刑セザルベキコトヲ約ス。

日本國臣民ニシテ軍事上ノ間諜若ハ犯罪者ト認メラレタル者ハ、清國ニ於テ直チニ解放スベ
キコトヲ約シ、清國ハ又交戰中日本軍隊ト種々ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ、如何ナル處
刑ヲモ爲サズ、又之ヲ爲サシメザルコトヲ約ス。

第十條

本約批准交換ノ日ヨリ攻戦ヲ止息スベシ。

第十一條

本約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ批准セラルベク、而シテ右批准ハ本日ヨリ十五日ヲ超ヘズ、可成速ニ……………テ於テ交換スベシ。
右證據トシテ兩國全權大臣ハ茲ニ記名調印スルモノナリ。

媾和條約

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ、兩國及其ノ臣民ニ平和ノ幸福ヲ回復シ、且將來紛議ノ端ヲ除クコトヲ欲シ、媾和條約ヲ訂結スル爲メニ、大日本國皇帝陛下……………大清國皇帝陛下……………ヲ各其ノ全權大臣ニ任命セリ。因テ各全權大臣ハ互ニ其委任狀ヲ示シ、其良好妥當ナルヲ認め、以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ。

第一條

清國ハ朝鮮國ノ完全無缺ナル獨立自主ノ國タルコトヲ確認ス。因テ右獨立自主ヲ損害スベキ朝鮮國ヨリ清國ヘ對スル貢獻典禮等ハ將來全ク之ヲ廢止スベシ。

第二條

清國ハ左記ノ土地ノ主權、並ニ該地ニ在ル保壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス。
一、左ノ經界内ニ在ル盛京省南部ノ地。

鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ三叉子ニ至リ、三叉子ヨリ北ノ方榆樹底下ニ互リテ直線ヲ畫シ、榆樹底下ヨリ正西ニ向テ直線ヲ畫シテ遼河ニ達シ、右直線ト遼河トノ交會點ヨリ該河流ニ沿フテ下リ、北緯四十一度ノ線ニ達シ、遼河上北緯四十一度ノ點ヨリ同緯度ニ沿フテ東經百二十二度ノ線ニ達シ。北緯四十一度東經百二十二度ノ點ヨリ同經度ニ從ツテ遼東灣北岸ニ至ル。

遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ盛京省ニ屬スル諸島嶼。

二、臺灣全島及其ノ附屬諸島嶼。

三、澎湖列島即チ東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼。

第三條

前條ニ掲載シ、附屬地圖ニ示ス所ノ經界線ハ、本約批准交換後直チニ日清兩國ヨリ、各二名以上ノ境界共同劃定委員ヲ任命シ、實地ニ就テ確定スル所アルベキモノトス。而シテ若本約ニ掲記スル所ノ境界ニシテ、地形上又ハ施政上ノ點ニ付キ完全ナラザルニ於テハ、該境界劃定委員ハ之ヲ更正スルコトニ任ズベシ。

境界劃定委員ハ成ルベク速カニ其ノ任務ニ從事シ、其ノ任命後一個年以内ニ之ヲ終了スベシ。

但シ該境界劃定委員ニ於テ更正スル所アルニ當テ、其更定シタル所ニ對シ日清兩國政府ニ於テ可認スル迄ハ、本約ニ掲記スル所ノ經界線ヲ維持スベシ。

第四條

清國ハ軍費賠償金トシテ庫平銀三億兩ヲ日本國ヘ支拂フベキコトヲ約ス。右金額ハ五回ニ分チ、第一回ニハ一億兩、残り四回ハ各五千萬兩ヲ支拂フベシ。而シテ第一回ノ拂込ハ本約批准交換後六ヶ月以内ニ於テスベク、残り四回ノ拂込ハ、各其ノ前回ノ拂込ムベキ期日ト同時若クハ其前ニ於テスベシ。又第一回拂込ノ期日ヨリ以後未ダ拂込ヲ了ラザル額ニ對シテハ、毎年百

分ノ五ノ利子ヲ支拂フスベキモノトス。

第五條

日本國ニ割與セラレタル地方ノ住民ニシテ、右割與セラレタル地方ノ外ニ住居セムト欲スル者ハ、自由ニ其ノ所有地ヲ賣却シテ退去スルコトヲ得ベシ。其ノ爲メニ本約批准交換ノ日ヨリ二個年問ヲ猶豫スベシ。但シ右年限ノ滿チタルトキハ、未ダ該地方ヲ去ラザル住民ヲ日本國ノ都合ニ因リ、日本國民ト視爲スコトアルベシ。

第六條

日清兩國間ノ一切ノ條約ハ、交戦ノ爲メ消滅シタレバ、清國ハ本約批准交換ノ後、速カニ全權委員ヲ任命シ、日本國全權委員ト通商航海條約及陸路交通貿易ニ關スル約定ヲ締結スベキコトヲ約ス。而シテ現ニ清國ト歐洲各國トノ間ニ存在スル諸條約章程ヲ以テ、該日清兩國間諸條約ノ基礎トナスベシ。又本約批准交換ノ日ヨリ該諸條約ノ實施ニ至ル迄ハ、清國ハ日本國政府

官吏商業航海陸路交通貿易工業船舶及臣民ニ對シ、總テ最惠國待遇ヲ與フベシ。

清國ハ右ノ外左ノ讓與ヲ爲シ、而シテ該讓與ハ本約調印ノ日ヨリ六個月ノ後有効ノモノトス。

第一、清國ニ於テ現ニ各外國ニ向テ開キ居ル所ノ各市港ノ外ニ、日本國臣民ノ商業住居工業及製造業ノ爲メニ左ノ市港ヲ開クベシ。但シ現ニ清國ノ開市場開港場ニ行ハル、所ト同

一ノ條件ニ於テ同一ノ特典及便益ヲ享有スベキモノトス。

- 一、北京
- 二、湖北省荊州府沙市
- 三、湖南省沙府湘潭縣
- 四、四川省重慶府
- 五、廣西省梧州府
- 六、江蘇省蘇州府
- 七、浙江省杭州府

日本國政府ハ以上列記スル所ノ市港中何レノ處ニモ領事官ヲ置クノ權利アルモノトス。

第二、旅客及貨物運送ノ爲メ日本國汽船ノ航路ヲ左記ノ場所ニ迄擴張スベシ。

- 一、楊子江上流、湖北省宜昌ヨリ四川省重慶ニ至ル。
- 二、楊子江ヨリ洞庭湖ニ入り湘江ヲ溯テ湘潭ニ至ル。
- 三、西江ノ下流廣東ヨリ梧州ニ至ル。
- 四、上海ヨリ吳松江及運河ニ入り蘇州杭州ニ至ル。

日清兩國ニ於テ新章程ヲ妥定スル迄ハ、前記航路ニ關シ適用シ得ベキ限リハ外國船舶清國內地水路航行ニ關スル現行章程ヲ施行スベシ。

第三、日本國臣民ガ清國ヘ輸入スル總テノ貨品ニシテ、其ノ輸入者又ハ貨主ノ都合ニ依リ、輸入ノ際又ハ其ノ後ニテ該貨品原併百分ノ二ノ抵代稅ヲ納メタル上ハ、清國各地方ニ於テ政府官吏公吏一私人會社若クハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ、又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラルル一切ノ稅金、賦課金取立金ハ其性質、並ニ名義ノ如何ニ拘ハラズ總テ免除セラルベキモノトス。

日本國臣民ガ清國ニ於テ購買シタル清國貨品及生産物ニシテ、輸出ノ爲メナルコトヲ言明シタル上ハ、總テ抵代稅ヲモ納ムルコトナク前記ノ場合ト同様ニ、一切ノ稅金賦課金、取立金ヲ免除セラルベシ。而シテ斯ル免除ハ右言明ヲ爲セシ時ヨリ、實際輸出ノ時迄有効ナルモノトス。又清國ノ内地消費ニ供スベキ清國貨品及生産物ヲ日本國船舶ニテ

清國開港間ニ運送スルニハ、一タビ現行沿海貿易稅ヲ納メタル上ハ、前記ノ場合ト同様、右運送中輸出入稅ハ勿論其他一切ノ稅金ヲ免除セラルベシ。但シ此ノ規定ハ輸入阿片ノ課稅ニ關シ、其ノ時現ニ行ハル、所ノ取極ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ。

第四、日本國臣民ガ清國內地ニ於テ貨品及生産物ヲ購買シ、又ハ其ノ輸入シタル商品ヲ清國內地ヘ運送スルニハ、右購買品又ハ運送品ヲ倉入スル爲メ、何等ノ稅金取立金ヲモ納ムルコトナク、又清國官吏ノ干涉ヲ受クルコトナク、一時倉庫ヲ借入ルルノ權利ヲ有スベシ。

第五、日本國臣民ガ清國ニ於テ納ムル諸稅及手数料ハ庫平銀ヲ以テスベシ。而シテ右諸稅及手数料ハ日本國本位銀貨ヲ以テ其代表價格ニ因リテ納金スルコトヲ得ベシ。

第六、日本國臣民ハ清國ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ從事スルコトヲ得ベク、又所定ノ輸入稅ヲ拂フノミニテ、自由ニ各種ノ器械類ヲ清國ヘ輸入スルコトヲ得ベシ。

清國ニ於ケル日本國臣民ノ製造ニ係ル一切ノ貨品ハ、各種ノ內國運送稅内地稅賦課金取立金ニ關シ、又清國內地ニ於ケル倉入上ノ便益ニ關シ、日本國臣民ガ清國ヘ輸入シタル商品ト同一ノ取扱ヲ受ケ、且同一ノ特典免除ヲ享有スベキモノトス。

第七、清國ハ速ニ専門家ノ說ヲ採用シ、退潮ノ時タリトモ、少クモ二十呎丈ノ差支ナキ通路

ヲ絶ヘズ維持スル様、黄浦河口ニ在ル吳淞淺瀬ヲ取除クコトニ着手スルコトヲ約ス。
此等ノ讓與ニ關シ更ニ章程ヲ規定スルコトヲ要スル場合ニハ、之ヲ本條ニ規定スル所ノ通商航海條約中ニ具載スベキモノトス。

第七條

現ニ清國版圖内ニ在ル日本國軍隊ノ撤回ハ、本約批准交換後三ヶ月内ニ於テスベシ。但シ次條ニ載スル所ノ規定ニ從フベキモノトス。

第八條

清國ハ本約ノ規定ヲ誠實ニ施行スベキ擔保トシテ、日本國軍隊ガ左記ノ各地ヲ一時占領スルコトヲ承諾ス。

盛京省奉天府
山東省威海衛

日本國ハ本約ニ規定シタル軍費賠償金ノ第一第二ノ二回拂込ヲ了リタルトキニ於テ、其ノ軍隊ヲ奉天府ヨリ撤回スベク、又賠償金ノ最終回ノ拂込ヲ了リタルトキニ於テ、其軍隊ヲ威海衛ヨリ撤回スベシ。然レドモ通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル後ニ非ザレバ軍隊ノ撤回ヲ行ハザルモノト承諾スベシ。

右一時占領スル諸費用ハ清國ニ於テ之ヲ支辨スベシ。

第九條

本約批准交換ノ上ハ、直チニ其時現ニ有スル所ノ俘虜ヲ還附スベシ。而シテ清國ハ日本國ヨリ斯ク還附セラレタル所ノ俘虜ヲ虐待シ若クハ處刑セザルベキコトヲ約ス。

日本國臣民ニシテ軍事上ノ間諜、若ハ犯罪者ト認メラレタル者ハ、清國ニ於テ直チニ解放スベキコトヲ約シ、清國ハ又交戦中日本軍隊ト種々ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ、如何ナル處刑ヲモ爲サズ、又之ヲ爲サシメザルコトヲ約ス。

第十條

本約批准交換ノ日ヨリ攻戰ヲ止息スベシ。

第十一條

本約は大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ批准セラルベシ。而シテ右批准ハ明治二十八年 月 日即光緒 年 月 日ニ交換セラルベシ。

右證據トシテ兩國全權大臣ハ茲ニ記名調印スルモノナリ。

明治二十八年 月 日即光緒 年 月 日下關ニ於テ二通ヲ作ル。

講和條約艸案

日本皇帝陛下及支那皇帝陛下ハ、兩帝國并ニ其ノ臣民ノ爲メニ平和ノ福祉ヲ回復シ、將來紛爭ノ原因ヲ排除センコトヲ欲シ、日本皇帝陛下ハ……ヲ其ノ全權委員ニ命ジ、支那皇帝陛下ハ……ヲ其ノ全權委員ニ命ジ、双方互ニ其ノ委任狀ヲ開示シ、其ノ正當ニシテ合式ナルコトヲ確認シ、茲ニ左ノ條々ヲ協定ス。

第一條

支那ハ朝鮮ノ完全ナル獨立自主ヲ確認シ、今後同王國ノ内治外交ニ何等ノ干涉ヲ爲サザルコトヲ約ス。隨テ朝鮮ガ獨立自主ヲ損傷シテ、朝鮮ノ支那ニ盡シタル貢獻其他典例儀式ハ將來全ク之ヲ廢スベシ。

第二條

支那ハ朝鮮ノ内治外交ニ干涉セザル永久ノ擔保トシテ……半島ヲ北緯何度ニ至ルマデ、並ニ其範圍内ニ在ル一切ノ堡塞及公有財産及沿海ノ……諸島ヲ永久日本ニ讓與シ、之ヲ日本ノ完全ナル主權ニ歸セシムベシ。

第三條

支那ハ軍事償金トシテ……圓ヲ金貨若クハ同一ノ價格アル金塊ヲ以テ日本ニ拂フコトヲ約ス。此ノ金額ハ之ヲ均分シテ五個年賦ヲ以テ拂ヒ、初年賦ハ何年何月何日之ヲ拂ヒ、殘餘ノ四年賦ハ爾後毎年同月同日ヲ以テ之ヲ拂フモノトス。利子ハ年百分何ノ割ニテ初年賦拂込ノ期日ヨリ殘額ニ對シテ之ヲ拂フベシ。

此外更ラニ何等ノ償金ヲ拂ハザル代トシテ、支那ハ臺灣諸島並ニ……島並ニ該諸島ニ在ル一切ノ堡塞及公有財産ヲ永久日本ニ讓與シ、其完全ノ主權ニ歸セシムベシ。此レ等ノ諸島ニ在ル支那ノ軍隊ハ本條約批准交換ヲ期シテ直チニ撤去シ、日本直チニ該讓與地ヲ占領スルノ自由ヲ有ス。

第四條

日本ニ讓與シタル地方ノ住民ニシテ、讓與地以外ニ其ノ居住ヲ移サンコトヲ望ム者ハ、其不動産ヲ賣却シテ退去スルノ自由ヲ有ス。而シテ此ノ目的ノ爲メニ本條約批准交換ノ日ヨリ、向フ何年間ノ猶豫ヲ與フ。該期限後猶此レ等ノ地方ニ在住スル者ハ、日本ノ任意ヲ以テ之ヲ日本臣民ト視做スベシ。

第五條

日支兩國間ノ一切ノ條約ハ戰爭ノ爲メ廢止ニ歸シタルヲ以テ、清國ハ本條約批准交換後直チニ全權委員ヲ命ジ、何地ニ於テ日本全權委員ト會合シテ、修交通商航海條約ヲ締結セシムルコトヲ約ス。日支兩國間ニ新ニ締結セントスル條約ハ、現ニ支那ト歐洲列國トノ間ニ存スル條約ヲ基礎トスベシ。本條約批准交換ノ日ヨリ新條約實施ニ至ルノ間、支那ハ日本ノ政府官吏通商、

工業船舶及臣民ニ對シテ最惠國待遇ヲ與フベシ。

清國ハ更ニ左ノ讓與ヲ爲ス。而シテ此等ノ讓與ハ本條約批准交換ノ日ヨリ效力ヲ有スベシ。

- 一、日本臣民ガ清國ニ輸入スル貨物ニ關シテハ、其ノ輸入者若クハ所有者ノ望ニ隨ヒ、輸入ノ際若クハ其ノ後原價百分何ノ稅ヲ拂フトキハ、何等ノ名義若ハ目的ヲ以テスルトモ、又何等ノ種類性質タルヲ問ハズ、一切ノ國稅若クハ地方稅ノ賦課ヲ免除スベシ。但シ此ノ規約ハ輸入阿片ノ課稅ニ關スル現行ノ規程ニハ何等ノ關係ヲ及ボスコトナシ。
- 二、日本臣民ハ支那ニ於テ各種ノ製造業ニ從事スルノ自由ヲ有ス。又規定ノ輸入稅ヲ拂フニ於テハ何等ノ機械ニテモ之ヲ清國ニ輸入スルノ自由ヲ有ス。
- 三、支那ハ直チニ専門家ノ意見ヲ開キ、吳淞ノ江口ニ在ル沙灘ヲ取去リ、干潮ノ時少クトモ深サ何呎ノ水路ヲ保存スルコトヲ約ス。

第六條

本條約批准交換後何年何月以内ニ日本軍隊は退去スベシ。

第七條

支那ハ本條約規定ヲ誠實ニ執行スル擔保トシテ、當分ノ間日本軍隊ノ左記ノ市府ヲ占領スルコトヲ承諾ス。

.....

以上記載ノ市府ハ本條約規定ノ償金拂込ニ隨ヒ、順次ニ之ヲ引拂フベシ。即一年賦ノ拂込ヲ終ル毎ニ一個所ヲ引拂フモノトス。然レドモ修交通商航海條約批准ノ交換ヲ終ヘザル間ハ決シテ何等ノ市府モ引拂ハザルベシ。

第八條

日本ハ本條約批准ノ交換ヲ期シテ、支那ニ於テ攻取的ノ軍事運動ヲ止ムベシ。

第九條

講和條約草案

本條約批准交換後直ニ捕虜ノ返還ヲ行フベシ。而シテ支那ハ日本ヨリ返還シタル捕虜ヲ虐待セザルコトヲ約ス。

第十條

本條約ハ日本皇帝陛下及支那皇帝陛下之ヲ批准シ、該批准書ハ何地ニ於テ成ルベク速カニ交換スベシ。但交換ノ期ハ本日ヨリ何日以内タルベシ。

右證據ノ爲云々

年 號 月 日 地名

休戰條約

大日本國皇帝陛下ハ今回不慮ノ變事ノ爲メ媾和談判ノ進行ヲ妨碍セシヲ以テ、茲ニ一時休戰ヲ承諾スベキコトヲ其ノ全權辨理大臣ニ命ゼラレタリ。因テ大日本國皇帝陛下ノ全權辨理大臣、內閣總理大臣從二位勳一等伯爵伊藤博文、全權辨理大臣、外務大臣從二位勳一等子爵陸奧宗光及大清國皇帝陛下ノ欽差頭等全權大臣太子太傅文華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅伯李鴻章ハ左ノ休戰定約ヲ訂結セリ。

第一條

日清兩帝國政府ハ、奉天省直隸省山東省地方ニ在テ、下ニ記スル所ノ條項ニ從ヒ兩國海陸軍ノ休戰ヲ約ス。

第二條

本定約ノ效力ニ依テ休戦スベキ軍隊ハ、實際交戦ヲ停止スル時ニ當リテ、各其ノ屯駐スル所ノ場處ヲ保持スルノ權利ヲ有スベシ。但シ本定約ノ期限内ハ如何ナル場合タリトモ前記ノ場處以外ニ進出スルコトナカルベキモノトス。

第三條

日清兩帝國政府ハ本定約ノ存スル間ハ、攻守ノ熟レヲ問ハズ、各其ノ對陣ノ方面ニ於テ進撃ノ備ヲ加ヘ、或ヒハ援兵ヲ派シ、其他一切戦闘力ヲ増加セザルベキコトヲ約ス。然レドモ現ニ戦地ニ於テ戦闘ニ従事スベキ軍隊ヲ増加スルノ目的ニ非ラザル以上ハ、兩帝國政府ニ於テ新タニ兵員ヲ配置運送スルコトヲ妨ゲザルモノトス。

第四條

海上ニ於ケル兵員軍需及其他一切戦時禁制品ノ運送ハ、戦時常規ニ依リ捕獲セラル、コトアルベキモノトス。

第五條

日清兩帝國政府ハ本定約調印ノ日ヨリ二十一日間ヲ限り休戦ヲ實行スルモノトス。尤兩國軍隊ノ屯駐スル場所ニシテ、電信ノ通ゼザル處ヘハ敏速ノ方法ヲ以テ休戦ノ命令ヲ發スベシ。而シテ兩國軍隊司令官ニテ右命令ヲ受ケタルトキハ、互ニ相其ノ趣ヲ通知シ、休戦ノ措置ヲ爲スベキモノトス。

第六條

本定約ハ別ニ通知ヲ要セズ、明治二十八年四月二十日即光緒二十一年三月二十六日ノ正午ニ於テ終了スベシ。而シテ若右期限内ニ於テ媾和談判不調ナルトキハ、本定約ハ同時ニ終了スルモノトス。

右證據トシテ日清兩國全權大臣ハ茲ニ記名調印スルモノナリ。
明治二十八年三月三十日即光緒二十一年三月五日下ノ關ニ於テ作ル。

大日本帝國全權辦理大臣

內閣總理大臣從二位勳一等伯爵 伊藤 博文

大日本帝國全權辦理大臣

外務大臣從二位勳一等子爵 陸奧 宗光

大清帝國欽差頭等全權大臣

太子太傅文華殿大學士 一等肅毅伯 李 鴻 章
北洋大臣、直隸總督

大日本帝國

大皇帝因見有不幸之事將現在議和之舉暫時延緩今命全權辦理大臣應元暫行停戰特派

大日本帝國

大皇帝全權辦理大臣內閣總理大臣從二位勳一等伯爵伊藤博文全權辦理大臣外務大臣從二位勳一等子爵陸奧宗光與

大清帝國

大皇帝欽差頭等全權大臣 太子太傅文華殿大學士北洋通商大臣直隸總督一等肅毅伯爵 李鴻章議定停戰條款如左

第一 款

大日本帝國

休戰條約

大清帝國政府現元日中兩國所有在奉天直隸山東地方水陸各軍均確照以下所定停戰條款一律辦理

第二款

兩國軍隊應遵設約暫行停戰者各自須駐守現在屯駐地方但停戰期內不得互為前進

第三款

日中兩國現約在停戰期內所有兩國前敵兵隊無論或攻或守各不加增前進並不添派援兵及加一切戰鬥之力惟兩國如有分派布置新兵非遣往前敵助戰者不在此款之內

第四款

海上轉運兵勇軍需所有戰時禁物仍按戰時公例隨時內敵船查捕

第五款

兩國政府於此約簽定之後限二十一日期內確照此項停戰條約辦理惟兩國軍隊駐紮處所有電線不通之處各目設法從速知照兩國前敵各將領於得信後亦可彼此互相知照立即停戰

第六款

此項停戰條款約明於明治二十八年四月二十日即光緒二十一年三月二十六日中午十二點鐘屆滿彼此無須知會如期內和議決裂此項停戰之約交即中止

為此日中兩國

欽差全權大臣今欲有憑即行簽押蓋印以昭信守

明治二十八年三月三十日

在日本下之關訂

光緒二十一年三月初五日

大日本帝國全權辦理大臣

內閣總理大臣從二位勳一等伯爵 伊藤博文

外務大臣從二位勳一等子爵 陸奧宗光

大清帝國欽差頭等全權大臣

太子太傅文華殿大學士北洋通商大臣 李鴻章

直隸總督一等肅毅伯爵

休戰條約草案

大日本國皇帝陛下ハ、今回不慮ノ變事ノ爲メ、媾和談判ノ進行ヲ妨碍セシヲ以テ、茲ニ一時
休戰ヲ承諾スベキコトヲ其ノ全權辦理大臣ニ命ゼラレタリ。因テ大日本國皇帝陛下ノ全權辦理
大臣及大清國皇帝陛下ノ欽差頭等全權大臣ハ左ノ休戰定約ヲ訂結セリ。

第一條

大日本帝國政府ハ臺灣澎湖列島及其ノ附近ニ於テ交戰ニ從事スル所ノ遠征軍ヲ除クノ外、他
ノ戰地ニ於テ休戰スルコトヲ承諾ス。

第二條

日清兩國政府ハ本定約ノ存スル間ハ、攻守ノ孰レヲ問ハズ、各其ノ對陣ノ方面ニ於テ進撃ノ備ヲ加ヘ或ハ援兵ヲ派シ、其他一切戰鬪力ヲ増加セラルベキコトヲ約ス。然レドモ現ニ戰地ニ於テ戰鬪ニ從事スベキ軍隊ヲ増加スルノ目的ニ非ザル以上ハ、兩國政府ニ於テ新タニ兵員ヲ配置運送スルコトヲ妨ゲザルモノトス。

第三條

本定約ノ存スル間ハ、盛京省ニ屯駐スル大日本國軍隊ハ、田莊臺、鞍山站、連山關賽馬集寬甸縣及長甸縣ニ互ル折線以外ニ進出セザルベシ。又該省ニ屯駐スル大清國軍隊ハ前記ノ折線ヲ距ルコト日本里數十里ヲ踰ヘテ、大日本國軍隊ニ接近スルコトナカルベシ。

第四條

海上ニ於ケル兵員軍需及其ノ他ノ一切戰時禁制品ノ運送ハ、戰時常規ニ依リ捕獲セラル、コトアルベキモノトス。

第五條

日清兩國政府ハ本定約調印後第 日ヨリ休戰ヲ實行スルモノトス。而シテ兩國政府ハ敏速ノ方法ヲ以テ各其ノ軍隊司令長官ニ休戰ノ命令ヲ發スベシ。

第六條

本定約ハ別ニ互ニ通知ヲ要セズ、明治二十八年四月十六日即光緒 年 月 日ノ夜半ニ於テ終了スベシ。而シテ若シ右期限内ニ於テ媾和談判不調ナルトキハ、本定約ハ同時ニ終了スルモノトス。

右證據トシテ日清兩國全權大臣ハ茲ニ記名調印スルモノトス

明治二十八年 月 日 即光緒 年 月 日

下ノ關ニ於テ作ル

休戰條約草案

大清國政府ハ大日本國政府ニ對シ和議ヲ提出シ、平和條約締結談判中、日清兩國間一時休戰
センコトヲ申込ミタルニ因リ、大日本國政府ハ……ヲ以テ全權委員トシ、大清國政府ハ……
……ヲ以テ全權委員トシ、双方ノ全權委員ハ各其ノ委任狀ヲ照合シ左ノ各條ヲ訂約ス。

第一條 大日本國政府ハ下記ニ載スル條件ニ從ヒ、何月何日ヨリ何月何日迄各交戰地ニ於テ日
清兩國軍隊ノ休戰ヲ承諾ス。

第二條 日清兩國軍隊ハ休戰中各々左ニ記載スル境界線ヲ超越スルコトヲ得ズ。
某々地ニ於テ……ヨリ……迄……日清兩國政府ハ各其軍隊各司令官ニ對シ前條ニ規定シ
タル休戰開始ノ日ヨリ少ナクトモ何日前迄ニ休戰ノ命令ヲ發スベシ。
若シ休戰ノ命令各軍隊司令官ニ到達ノ日ニ於テ、右ニ記載スル境界線外ニ屯在スル軍
隊アルトキハ、其斥候隊タルト否トヲ問ハズ、休戰開始ノ日ヨリ以內ニ各其境界線內ニ
引退セシムベシ。

休戰中右ニ記載スル境界線ヲ超越スル軍隊アルトキハ直チニ境界線內ニ引退セシムベ
シ。

第三條 大清國政府ハ威海衛ノ軍港、砲臺、北洋艦隊ニ屬スル第一等及第二等甲鐵艦及一切ノ
武器彈藥ヲ休戰開始ノ前日迄ニ大日本軍隊ニ引渡スベシ。

第四條 大日本國軍隊ニ引渡サル大清國北洋艦隊ノ船舶及大清國北洋艦隊ニ屬セザル他ノ各
艦隊ノ船舶ハ、休戰中グリーンウキツチヲ中心トシ、經緯何度以外ニ出ヅルコトヲ得ズ。

第五條 大日本國艦隊ハ休戰中グリーンウキツチヲ中心トシ、經緯何度以外ニ出ヅルコトヲ得
ズ。

第六條 大清國政府ハ大日本國政府ニ於テ一師團ニ超過セザルトコロノ軍隊ヲ山海關ニ上陸セ
シムルコトヲ承諾ス。依テ山海關屯在ノ大清國軍隊及同港碇繫ノ大清國軍艦ハ休戰開始
日マデニ某々所迄引拂フベシ。

第七條 山海關警備ノ堡壘並ニ之ニ附屬スル總テノ武器彈藥ハ大日本國軍隊ニ引渡スベシ。
大清國政府ハ休戰中威海衛及山海關ノ周圍十哩以內ニ軍隊ヲ配置スルコトヲ得ズ。

第八條 日清兩國ノ軍隊ハ休戰中新タニ防禦工事ヲ爲シ、又ハ從來ノ堡壘ヲ改築修繕スルコト
ヲ得ズ。

第九條 休戰中ハ大清國政府ハ大清國各地ニ屯在ノ大日本軍隊ニ糧食供給ノ爲メ充分ノ便益ヲ與フベシ。

第十條 大日本國政府ハ大清國政府ニ於テ本條約第三及第六條ノ條件ヲ履行シタル後ニアラザレバ平和條約ノ談判ニ着手セザルベシ。

第十一條 平和條約締結ニ至ラズ、再ビ開戰ニ及ビタルトキハ本條約第三條及第六條ニ記載シタル大清國政府ノ甲鐵艦及一切ノ武器彈藥ハ戰利品トシテ之ヲ押收スベシ。

第十二條 休戰中平和條約ノ談判整ハザルトキハ、休戰最終ノ翌日ヨリ再ビ開戰スルコトヲ得。

休戰條約草案

支那帝國政府ハ日本帝國政府ニ向ヒテ講和ノ談判ヲ開カンコトヲ懇請シ、且講和條約締結ノ談判ニ先チ、戰鬪ヲ中止センコトヲ懇請シタルニ由リ、日本帝國政府ハ……ヲ支那帝國政府ハ……ヲ休戰條約締結ノ爲メ各々其ノ全權委員ニ任ジタリ。而リテ兩國全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ開示シ、其ノ正確ニシテ方式ニ協ヒタルコトヲ認定シ、茲ニ左ノ個條ヲ商議締結シタリ。

第一條

日本帝國政府ハ下文ニ列載スル要件ニ從ヒ、各交戰地ニ於テ何月何日ヨリ何月何日ニ至ルマデ、日本支那兩國軍隊ノ間ニ戰鬪ヲ中止スルコトヲ承諾ス。

第二條

休戦期限内ニ於テ日本支那兩國軍隊ハ左ニ記載ノ區劃線ヲ踰越スベカラズ。

.....

日本支那兩國政府ハ前條ノ規定ニ遵ヒ、休戦開始ニ先ツコト少クトモ何日前ニ、各々其ノ軍隊司令長官ニ休戦ノ命ヲ發スベシ。

軍隊司令長官休戦ノ命ヲ接受シタルトキ、先鋒タルト否トヲ問ハズ、凡ソ其ノ軍隊ニシテ前項記載ノ區劃線外ニ在ルモノハ休戦開始前ニ之ヲ該線内ニ撤去スベシ。

休戦中軍隊ノ前記ノ區劃線外ニ出ルモノアルトキハ、直チニ之ヲ該線内ニ召還スベシ。

第三條

支那帝國政府ハ休戦開始ニ先ツコト少クトモ一日前ニ、威海衛ノ要港並ニ砲臺及北洋艦隊ニ屬スル一等二等甲鐵軍艦並ニ之ニ備付ノ兵器彈藥ヲ日本帝國軍隊ニ引渡スベシ。

第四條

支那軍艦ハ日本軍隊ニ引渡シタルモノヲ除クノ外綠威基點東徑何度以東ニ進航スルコトヲ得ズ。

第五條

日本帝國軍艦ハ、綠威基點東經何度以西若クハ北緯何度以北ニ進行スルコトヲ得ズ。

第六條

支那帝國政府ハ休戦開始前ニ於テ日本帝國政府ガ一師團以内ノ兵ヲ山海關ニ上陸セシムルコトヲ承諾シ、且山海關駐屯ノ支那軍隊及ビ同港内ニ在ル軍艦ヲ何々地ニ撤去スルコトヲ承諾ス。

山海關ノ防禦ニ備ヘタル堡塞、並ニ之ニ備付ノ兵器彈藥ハ總テ日本帝國軍隊ニ引渡スベシ。

第七條

支那帝國政府ハ威海衛及山海關ノ周圍十哩以内ニ其ノ軍隊ヲ駐屯セシムベカラズ。

第八條

日本及支那兩國軍隊ハ休戰中各々防禦工事ヲ爲シ、若クハ其ノ堡塞ヲ變更修繕スベカラズ。

第九條

休戰中支那帝國政府ハ其ノ境土内ノ各地ニ駐屯スル日本軍隊ニ向テ、糧食供給ノ爲メ充分ノ便宜ヲ與フベシ。

第十條

日本帝國政府ハ支那帝國政府ガ第三條並ニ第六條ニ規定ノ要件を執行シタル上ニアラザレバ講和條約締結ノ談判ヲ開カザルベシ。

第十一條

講和條約ヲ締結セズ、再ビ戰鬥ヲ開始スル場合ニ於テハ、第三條並ニ第六條ニ記載スル甲鐵軍艦威海衛要港並ニ砲臺、山海關堡塞、及支那帝國政府ニ屬スル兵器彈藥ハ、日本軍隊ニ於テ戰利品トシテ之ヲ占有スベシ。

第十二條

講和條約ノ談判不調トナリタル場合ニ於テハ、休戰期日ノ盡クルヲ期シテ再ビ戰鬥ヲ開始スベシ。

李鴻章總理衙門間其他來往祕電 三十七通

七月十二日天津發 午後四時三十分

汪公使宛

李鴻章ヨリ

總署現與小村議商、據稱候政府復、英俄・法（露・佛）美（米）德（獨）均電飭駐倭使、力勸撤兵、何如、鴻

七月十二日東京發 午後十時十分 コレナリ

李氏宛

汪公使ヨリ

頃密探報稱、倭以各一國出勸、已定議、撤兵和商、云枰轉署、

七月十四日前七時三分天津發

汪公使宛

李氏ヨリ

倭日逼韓、革內政、似無撤兵意、如何定議、祈確示、

七月十五日 午前一時五十分東京發

李氏宛

汪公使ヨリ

密探覆稱、刻日大鳥電、以勉辦案、款韓已悉遵、應否撤兵爲請、伊藤川上謂我願既遂、可即收戈、刻探撤兵之說、本此昨晨、俄使又奉三國電、往商、午後復會議、陸奧井上輩、據自由黨議、堅謂韓僅靡從、撤兵非計、伊藤不致固爭、刻議遂寢、云祈轉署、

祕電三十七通

二六七

一千八百九十五年四月四日 午後十時十七分上海發 翌五日馬關 着

李鴻章總督

友澆(邵なるべし)

訪^ヒ得^{タリ}譚^官參^名將^人有^名勝^ニ前^ニ在^ニ湘^果營^ニ以^テ祝^由術^ヲ取^リ槍^彈一^極神^效擬^請其^來伊^甘出^結包^醫不^痛友^濼曾^請其^爲友^人治^瘡吸^取血^塊應^手而^愈似^非妄^談求^速復^一

此蒸
信
電
三月五日總
四月五日

奉^旨李^鴻章^連日^密議^款十^條均^已閱^悉日^本要^挾過^甚索^費苛^重索^地太^廣萬^難遷^就允^許此^次伊^藤陸^奧同^任全^權待^該大^臣情^愛不^薄該^大臣^想當^與之^盡心^一聯^絡竭^力磋^磨此^事諒^匪一^二次^辦論^所能^來電^稱擬^辨駁^數千^言俟^交閱^後見^其如^何答^覆再^爲酌^商○早^美使^田貝^致總^署愈^云○駐^倭使^臣電^日本^擬下^請添^派李^經芳^爲全^權大^臣隨^同李^鴻章^與日^本商^議和^約此^節於^事是^否有^益伊^藤陸^奧有^無論^及該^大臣^體應^如此^辨理^即日^電覆^候旨^定奪^一

四月六日午後總來

奉^旨現^在李^鴻章^傷痛^未癒^著添^派二^品頂^戴前^出使^大臣^李經^方爲^全權^大臣^一隨^同李^鴻章^與日^本派^出全^權大^臣商^議和^約欽^此文^{十二}日

一千八百九十五年四月六日午後二時 臺北發

下 關

李鴻章總督宛

文

○彭^戰三^日勢^孤援^阻遂^至不^守臺^防加^密敵^未來^犯軍^民心^固似^可無^虞昨^忽傳^敵力^索

秘電三十七通

臺將允其請之說或係謠言而臺民駭慟誓不兩立謹呈近狀以備鈞酌議款如何祈示幸甚〇〇想已復元〇〇〇〇〇〇〇〇

四月六日午後

李發

昨將駁覆說帖送交伊藤等。今午接覆答稱。所交說帖並匪和約底稿逐條覆答之詞。亦未將中國所欲允之意說明。用兵以後。所索之款匪尋常議事同比。望即將款能否全數應允。或某々款不能應允。實在說明。勿再延緩等語。鴻查說帖大意。於讓地一節言奉天南邊割地太廣。日後萬相安。賠償一節言。中國財力短絀。萬辦不到。匪大加刪減不可。通商權利一節言。子口半稅減為值百抽二。並將一切稅鈔豁除。與各國定章不符。又機器電。改造土貨。運入內地免稅。亦難准行。以上已擬要回覆。而彼嫌未說明所欲允之意。注意仍在讓地賠費兩條。實在著落。答欲和議速成。

賠費恐須過一萬〇讓地恐不止臺灣。但鴻斷不敢擅允。想求集思廣益。指示遵行。停戰期祇贖十餘日。事機急迫。求代奏請旨示覆。為幸。鴻文中 十二日午後四時

四月七日發

臺北巡撫衛門

密新。彼力細臺未允惟無確報正在焦慮接電知軍民心固可保無慮慰甚盼甚仍將近情隨時電知議款尚無頭緒傷疵漸痊鴻文戊 十二日

臺北ハ臺灣島内臺北府ヲ指ス同地ニ巡撫公署アリ同署巡撫ヨリノ發信ナリ

秘

電

七日夜到

奉旨、李鴻章十一日電奏、悉、據稱、現交說帖、不過總統辯論、請將賠割地必不能允之數、斷酌密示等語、兩端均關重要、即如割地一端、奉省乃陪都要地、密邇京師、根本所關、匪宜輒讓、臺灣則兵爭所未及之地、人心所繫、又何忍輒棄資敵、雖不能悉行拒絕、亦應權其利害輕重、就該大臣之意、決定取舍、迅即電覆、至於賠費一節、萬萬以外已屬拮据、彼若不肯多讓、則力難措辦、可將實情告之、該國既欲議和、諒不致始終固執、想必該大臣相機、操縱何如、至通商一條、緩商最妥、已由總署密飭「赫德」籌酌、各國皆末告知、至口岸七處、重慶沙市、梧州、可允、京師、湘潭、大有妨礙、蘇杭兩處均係內河、亦多不便、駁則俱駁、稅則應仍照各國通例、若有減少、則各國均需、進項愈虧、賠款更難措手、此層須先與申說、李鴻章日來第祝眠食如何、起居能照常否、再議覆及、欽此、元、申、午後四時、

奉旨、昨據李鴻章十一日電奏、已將讓地一條、由該大臣決定。取舍、電覆、需費通商各節應行磋商之處、亦大概論知矣、復據二十二日申刻電奏、所交說帖、但云奉天南邊割地太廣、而於臺澎如何置辦、並未叙及、電後又稱讓地恐不止臺澎、畢竟說帖數千言中、及面晤伊藤等時、曾否辨論及此、電語過於簡略、要之南北兩地、朝廷視為並重、非至不得已、極盡駁論、而不能得、不忍下輕論、割棄資敵、願太奢、不能盡拒、該大臣務須將何處可允、何處萬難照允、直將已見、詳功敷陳、不得下退避不言、以割地一節、歸之中旨、該大臣接奉此旨、一面將籌定辦法及意中所欲言者、切實奏覆、一面遣李經方前往、先將讓地應以一處為斷、賠費應以三萬萬為斷、與之竭力申說、彼信中有某々款不允之語、不嫌反覆辨駁、至三停戰期限、該大臣傷痛未痊、似與之商議展期、在我亦屬有辭、著李鴻章測量辦理、欽此、元、申、十二日

奉旨。據依克唐阿電稱。初七早倭兵三千餘。至鞍山站交戰竟日。別隊至吉峒峯前。

接來電云。倭於初八專人函告停戰。為華軍所阻。彼時華軍尚未得戰之信。倭軍應先得信。何以初七日尚復進兵。又據劉坤一電奏內。時有倭船游變錦州海口天樹廠。釣魚臺等處近岸。放槍礮。並帶小船等語。停戰期內不應如是。著李鴻章詰問伊藤等。飭禁為要欽此。元申。十三日午後六時

八日總來

第六款通商稅則。但云輸納值百抽二抵代稅。一切諸費均當豁除等語。似盡廢正稅。半稅之通例。來電僅云。子口半稅減為值百抽二。恐有誤會。昨飭總稅司核計。去年各稅關二千餘萬。若統按值百抽二計算。須短徵一千萬。歲入少此鉅款。非特國用頓虧。且現籌償款。匪指關稅訂借。更難指辨。彼雖云以西約為本。可執此力爭。萬不可允。至讓地一節。如讓奉南。則宜多留北地。如海城亦不肯讓。則西界應至海城為止。將牛莊。營口及遼之全河統歸中國。可保徵稅之利如讓臺。澎前澎西各小島坐落。必須詳細查考。畫分清楚。如彼所指經緯度。恐有吞吞。若按緯度。則南澳汛頭均可混入。

澎界總以英圖經線一百十九度以東為止。便可不至混至裝造、機房等項。尚不關要。可酌允。十三日午後六時 西正。

四月八日 午後 李發

前電甫發。伊藤專人請經方到寓密談。謂此次停戰。由伊力持乃允。各武員預兩兵馬。軍械齊足。必欲分路直攻北京。再行議和。現期已迫。斷難再展。經方即將現擬各款大略告知。想讓地賠費兩項。須俟面議再定。伊謂此二款最為緊要。尊意欲將奉境全行收回。萬辦不到南北兩處拘要割讓。僅讓一處。亦斷不行。該國已用兵費實係太鉅。所索三萬萬。即欲減小。能減無幾。此我國上下文武熟商而定。特據實密告。經方與反覆辨駁。毫不口。嚮。將此兩款如何還併。切實聲明。方可再行會議。倘中朝嫌我開併太大。不欲商允。則我國當別有辦法。時自甚迫。限於明日一回信。勿再遲延誤事等語。經方只得將原擬約款。節略帶回別辨。鴻再四籌思。時迫事急。姑據

鄙見。將奉天之鳳凰廳。安東。寬甸。岫巖。四處邊境割讓。海城。倭後再說。較之伊所割經緯線界。已小大半。澎湖既被佔據。亦暫允見。賠費即遵電諭一萬萬應之。明日再將約稿送交。看其能否轉圖會議。後再詳晰電奏。讓北地以海城為止。賠費以二萬萬外為止。倘彼真不足意。始終堅執。屆時能否久添一乞預密示。否則只有罷議而歸。停戰展期已絕望。請飭各將師及時整備為要。請代奏。鴻寒。酉正。

八日總來

納內暫留兵隊費由華給。恐亦不少。如能說定償款若干。總在內較妥。再赫德言。江沙控深二丈。若不費無數之銀。即不能控如此之深。若不控深。將引為違約之咎。疆我所難。未可輕許。須與商酌為要。交。

四月八日 正午 李發

元。申。兩電。奉旨敬悉。據伊藤等專員來稱。須先將某款應准駁應。逐條切實聲明。送交閱校。方能約期會議。現已據鄙見。將原約各款斟酌。而將讓地、賠費兩款提出。別函請訂期會商。並將擬駁原約各節。詳細回覆。別備節略。一併於今晚送交。俟其回信如何。方能面議。澎湖已失昨接唐撫電。敵未來犯。軍民心固。似可堅守。鴻斷不敢輕先割棄。已於具備節略中駁論及此。但窺倭意仍逐日由廣島運兵出口。恐添赴臺。將有南北並吞之志。旨飭讓地以一處為斷。極是正論。自應如此立言。不知將來能否辨到。倭原圖所畫奉天經緯線度。竟連遼陽。田莊臺。營口。均包在內。遼陽未失。尚易辨駁。此外倭兵已據之地。彼已設官安民。極力爭論。未易退讓。只可俟會議時。察酌妥議。似難由我預為決定。總之。敵所已據處爭回一分。是一分其所未據處。絲毫斷不放手也。賠款一節。前說帖今節略內。均將力難多措。實情告之。而伊等十二函覆。竟稱中國自家為難之處。並不在此。此次應議之列。狡強可知。通商一節。前後節略均令將稅則照各國一律添。口僅先允重慶一處。餘俟會

議時一再酌。停戰期迫。廿日後相機商展。若彼不願議和。恐難多展。姑爲嘗試。傷痛情形。傷口已痊生肉。第祝尙可勉支。想眠食俱減。未能照常。若訂期會。當密授機宜。令經方代往。元西電遵告知伊藤等。但原約並未禁倭船游變海面。請代表。鴻寒午。

總來十日夜

奉旨、李鴻章十四日午刻電、十五午辰刻三電、均悉、所稱、敵所已據處、爭回一分、是一分、所未據處絲毫斷不放鬆、李鴻章於此事、通籌熟計全局、駁論允許、皆有實驗、與朝廷規畫之處、度能深相體會、閱之稍慰系懷、至請豫示允添之處、底難即時懸定、仍恐使李鴻章相機應變、規其措詞緩急、以爲迎拒之方、彼既垂涎金州臺灣之礦、此利尤鉅、該大臣現與力爭、兩處土地不允固善、必不得已或許倭以礦利、而土地人民仍歸我有、此姑備一說、無非爲保全境土起見、伊藤口稱雖緊、爲武員所迫、觀其避人密語、稍似尙

可與言、總應以中東和齋、大局收關、母令西國收漁人之利、所索條款、往返磋商、正爲將來不肯爽約永保和局地步、令李經芳將此意向伊反覆開陳、勿爲無益費詞遂商之止、停戰展期仍當以傷痛未痊、據情與商、陸奧和照鞍山站一事、已電謝長順等、通飭各營、勿得違約生事矣、欽此、諫、十六日

李發十日夜

伊藤約同會議言停戰期迫即時約款酌減改空可勿再有改易內開一讓地劃界須鴨絲江口起溯至安平河口又從該處通涉鳳凰城及營口畫成折線以南地方所有名城市邑皆包括在界線內並遼東灣東岸及黃海北岸盛京省所屬各島嶼又臺灣全島及所屬諸島嶼又澎湖列島照英圖東經一百十九度起以至東經一百廿度及北緯廿三度起以至百廿四度之間諸島嶼鴻查此劃界寬甸已不在內營口至金州均在界線之內一中國將庫平二萬萬兩賠償日本軍費分八次交清第一第二次各交五千萬在本約批准交換後起每六ヶ月交清一次其剩款約六年內分交仍按十二個月交一次從交款第一次起未經交完之款

按年加每抽五之息但中國無論何時可將應賠之款全數 幾分交清照算免想一保明認真實行約內所訂條款允日本軍隊暫佔守威海衛又於所訂第一第二次賠款交清通商行航約章批准交換後清國政府商定辦法將通商口岸關稅作為剩款本息之抵押日本允撤回軍隊倘不確定抵押辦法未經交清未次賠款之前日本應不允撤回但通商行船約章未經批准交換以前雖交清賠款仍不撤回軍隊所有日本軍隊佔守一切需費應由中國支辨以上三條伊藤聲明此係文武熟商再三校減盡頭辦法請三日內回信兩言而決能准與不能准而鴻與反覆辯論兩點鐘中伊毫不相讓看其口氣過強鴻復申論營口為通商口萬不能讓伊云兵力所得舉國炊爭我亦不能讓鴻云臺灣日兵所未及亦不能讓伊云彼水陸雲集無慮不能得應請早讓賠款二萬萬鴻勸其再減五千萬亦堅不允似此乘勝貪求患 不顧實非情理所能論伊云三日回信倘不准定即添兵廣島現泊運船六十餘隻各載兵數萬小不明 觀專候此信即日啓行鴻力竭計窮懇速清人日定奪再東文約條約尚未細看大致於通商添口重慶沙市蘇州杭州四處已減三處原約第三條稅則亦自刪去餘俟查明縱電望速校酌電復為幸清代奏鴻諫亥

李發十一日午時

頃細閱 伊藤昨改訂 第六款通商除刪去順天、湘潭、梧州、添口外餘四處照舊蘇杭生意久已歸、似無甚礙、又將原約通商第三條所稱進口出口值百抽二抵代稅一概行刪除係因連日辨論通例正半稅不容減改、故自行刪去、而將第四第五第六原條向移置其第七條、疏浚吳淞江亦刪現約通商共只五條可無甚駁改、又原約第八款、留軍軍佔守奉天一府、亦經駁刪、僅暫佔威海衛一處、其留軍、需費議在償款內、總算、伊仍不允、應二俟事定、試明人數再議、再諫電奉旨敬悉、金州已據固難爭回、彼壓三測臺灣甚久、似非允以礦利所能了事伊等驕狂太甚、屢々以西人攬利開導、毫不為動、經方亦無能解說、英已坐視、未知俄廷意見如何、請代奏、鴻、洽、午、十六日午時

十一日午後夜發

頃接伊東函稱、昨呈所改約款、實係既尾盡頭辦法、務祈四月內、切實回復前交節略所

稱中國爲難情形、我已細看細想、故至無可再減之處、賠款減三分之一、分交款一期較長、留軍佔守、減去奉天一處、賠償贖款抵押不指地而指關稅、不提內地釐稅、不提控吳淞、此皆貴國易於籌款、便於償費、又滿洲奉天前索地界、設戰事日進一日、將來無所底止、到時再行議和、斷不能如此便宜等語、鴻思所索各款、想臺灣倭兵未到、即款相讓、無理已極、斷難輕允、伊昨面談、語已決絕、今又來此函、似是、不明美、更應如何應交之處、伏候速示、遵辦、諸代表、鴻、洽、

四月十二日 午前 李發

頃伊藤送閱野津大將十七海城電云。遵照戰法備文與華將。派青木參謀往商。華將終不承認不認已飭該參謀即回海城。但留函與華將。聲明我軍紮守境界最外線。爲蘇甸城、高爐溝、長嶺子、雪裏站、把會寨、鞍山站、馬家店、田庄臺、營口、等外。倘來紀擾。即是中國違約請轉告李欽差等語。伊謂停戰期迫。倘華將再此如悻認。只得

布告各國廢止停戰約云。鴻嘯。十八日

一千八百九十五年四月十二日 午前十一時五十分 北京發

下ノ關

李 總 督

三月十八日ハ、セリ 嘯電悉、華宮不諳西例、故不就商、停戰之事前已電令前敵各軍、在原紮處所、專兵不動、現又加電諭囑、諒不至有違停戰之約、希轉告伊藤爲要

巧 三月十八日

一千八百九十五年四月十二日 午後五時 馬關發
上海

沈子梅

ナシ

昨電承^レ忱傷已收^一口轉^レ邁電悉如仍在^レ滬乞妥爲^ニ照料調^〇〇^ニ即回^レ揚和議棘手成否難^レ知

儀

嘯 三月十八日

一千八百九十五年四月十二日 午後十一時二十分 上海發
下ノ關

李中堂

諫電由^レ轉來男十三發^レ熱頗重未^レ赴^〇頃稍痊已令^ニ張士達往接^一俟到^レ再稟^レ現議棘手可^レ冀^ル成^ル否^レ忱切

邁

虎代

虎が邁に代りて發したることなるべし

嘯 三月十八日

四月十二日 午後 總來

奉^レ旨、李鴻章十六十七兩日電奏三件、均悉、日本繼^ニ若改定酌減條款、難^ク通商各條所^ニ爭
回^一者、甚爲^レ有益、想兩大款關係最重、賠費已減^ニ三分之一、若能再與磋磨、減^ニ少若干、更有^ニ
稍紓^ニ財力、讓地一節、臺澎外欲^ニ全佔^ニ奉省^ニ減退無^レ幾、殊覺^ニ過貪^ニ、前電姑許^ニ礦利^一、該大臣
慮^ニ其不^レ充、爲^ニ今之計^一、或允^ニ其割^ニ臺之半^一、以^ニ近澎臺南之地^一與^レ之、臺北與^ニ廈門^一相對、仍

歸中國、奉天以遼河爲三省貿易之路、牛莊營口在所必爭、著該大臣將以上兩節、再與謁力辯論、冀可稍益大局、伊藤連日詞氣極迫、儻事至無可再商、應由該大臣一面電聞一面即與定約、該大臣接奉此旨、更可放心爭論、無虞決裂矣、欽此、嘯、

四月十三日 午前 李發

頃接嘯電奉旨敬悉。伊藤十七晚送哀的美敦書。詞已決絕。無可再商。昨雖覆函駁論。亦置不理。即使會晤再行磋商。割臺之半。奉省劃界至營口而止。牛庄已不在內。營口稅利所在各節。自當力與辨論。皆恐難望轉圓。且停戰第六款內稱。如期內和議決裂。此約亦即中止云。若議不合。必立決裂。察看近日倭人舉動。已遣運兵船廿餘艘。由馬關出口。赴大連灣。並令法美觀戰探事人隨隊往。前敵其意可知。事必至於無可再商。恐非一面即與定約不可。不得先奏明。鴻效未。十九日午前十一時

四月十三日 午後 李發

頃派伍廷芳往伊藤外告知。總署已電飭前敵將帥。勿再違約。據伊面稱。華軍不諳公法。動輒妄爲。恐不俟停戰期滿。已先開仗。並催允定和約復信。謂廣島已派運兵船三十餘艘出口赴大連灣。小松親王等明日督隊繼進。若再商改約款。故意遲延。即照停戰款內和議決裂。此約中止。辦法等語。是其愈逼愈緊。無可再商。應下否即照伊藤前所改訂條約定約。免誤大局。乞速請旨電飭遵辦。鴻效。十九日午後六時

頃陸奧專員來稱。接海城兵官電、准遼陽統文稱已接到總署停戰信、想鞍山站被日兵佔據、係在停戰畫押之後、應請退出、該統陽現有練三十萬、散布各處、一時知照不到、恐其生

事尋、請速退往海城等、語、陸奧以日兵據鞍山站、係未得停戰信前之事、斷難退出、設再生事、關係甚重、恐停戰亦成虛文貽累他處、鴻謂、由砂山站、送信至遼陽約在四日、不知趕得及否望速電致依將軍爲要、再奉署元酉變兩電、咸豐十年英法留兵未別給費擬援此例駁之、吳淞控沙亦難酌許、擬商改正半稅通例斷不容減爲值百抽二、奉南讓至海城爲止、恐彼猶不足、其窺覷者營口關稅之利金州礦產之多、不獨海口險要也、至澎湖附近各小島、倭圖甚明、經緯度亦有界畫、不至混入南澳汎頭鴻刪辰、

四月十四日 午後 李發

効三電尙未奉覆。未初。伊藤專員來催。以前限定四日回復限期已到。立等覆信。不得已令經方往伊寓密陳一切。先許以臺灣礦利餌之。伊以民人不歸節理。礦亦無用。又遵電旨割之半。以近澎臺南之地與之。伊謂一島兩國分治。後患甫大。且我國兵力正厚。原冀開拓疆土。半臺亦萬不能允。又商讓營口稅關。磋商再四。伊亦堅拒。謂前兩函已說定無可商改。此等費辭何益。廣

島運兵船六十餘艘。現裝十萬人。已陸續開駛。由小松親王等帶往大連灣旅順。準兩進攻。若不照我前改約款。我之權力實係無法禁止。務即日會商定訂。經方謂。鴻傷痛甫愈。第祝委頓。今日不及往晤。伊謂本不能改。因爾請託。姑候至明日四點鐘面晤定議。過期即作罷論。事關重大。答照允。則京師可保。否則不堪設想。不敢不候電復即行定約。電諭想已在途。明日午前當到。鴻不至失信。庶無決裂。請代奏。鴻芻酉

四月二十日 午後總來電

臺灣爲兵爭所未及。無理強索。大拂民心。今既無可挽回。將來交涉。殊多費手。希於定約後。先與聲說。中國退讓以後。祇能將日本未認准百姓內遷。及變賣田產兩節。曉諭明白。倘庶民不服。因而生變。即與中國無涉。此層必須辨論在前。免亦他日再生枝節。皓^{十九日}

四月十四日 夜到總來電

奉旨。李鴻章十九日三電。均悉。十八日諭各節。原冀爭得一分有一分之益。如竟無可商改。即遵前旨。與之定約。欽此。二十日號。

四月十六日 午前 李發

馬兩電悉。昨與伊藤商定讓地。劃界一節。未添營口之遼河以河心爲界。則東岸屬彼。西岸仍歸我。賠款一節。未添如從條約批准互換日起。三年內能全數清還除將已付兩年半利息。於應付本銀和還外。餘仍全數免息云計尙可省息銀一千數百萬。想洋外款不易借貸。伊藤亦知中國支絀。謂外國借債可三四年分還期長利輕。力亦稍紓。可備參酌。又第五款讓地遷民一節。未添臺灣省應於本約批准互換後。兩國立即各派大員至臺。限於本約互換後兩個月內交接清楚云。礎磨再

四。始元照辦。鄙見似宜派唐巡撫就近與日員妥議。至臺民願遷否。曉諭不服。恐生事變。與華官無涉。伊謂交接後責在日官。必不怪華。唐撫前電。有臺民誓不兩立之說。務祈密諭。未交接以前妥爲撫循開導。又第六款通商內地租棧一節。刪去官員事得干預。又納稅用庫平與關平不合。日本銀圓難強收。此條全刪。又日商僅准在通商口岸用機器製造。合置聲明。至日本連兵船多隻由馬關出口赴灣旅屬實。原約雖定於批准互換後停戰。未互換前。彼此均應按兵不動。明日畫押。當再商辨。經迪請假省親。自係未知已定約畫押。請飭勿來。乞代奏。鴻二十二日養午前八時辰

四月十五日 午前到着總理衙門來

二十日酉戌來電。悉。昨奉旨。十九日三電均悉。十八日所諭各節原希爭得一分有一分之益。如竟無可商改。仍遵前旨。與之定約。欽此。以二十日午刻電發。想此間必可接到。希仍遵旨辦理以免貽誤。馬。二十一日

電文譯

伊東聯合艦隊司令長官ヨリ左ノ電報アリタリ。虎列刺病ノ現狀、第一聯隊第一大隊ハ其後病勢益々衰退シ、同第二大隊モ昨日以來著シク減退シ、第十二聯隊第二大隊モ稍々減少ニ趣キ、山砲中隊モ亦發病者少數ニシテ、一般ニ追々撲滅ノ徵候ヲ呈セリ。四日

大本營

樺山參謀官

四月九日午後四時三十分接受

四月十五日 總來

停戰廿六日期滿。如已定約畫押。此後前敵各軍如何佈置。貴大臣應與日使商定辦法。本即電覆以便知照各營遵守。馬。

四月十七日 李發

本日已正齊集公所。議定約後。彼此前敵各軍如何辦法。伊藤等訂明再展停戰廿一日。以俟批准互換。並於約後別立專款。一併畫押蓋印。如不批准立行廢止。又展至廿一日互換。即四月十四日半夜。初彼此會同畫押。鴻意請旨。如定可批准互換。必無他虞。前敵各軍新募之營。似可逐漸抽撤。以省餉需而免沿途擠生事。伊等諄請何日批准。何日派員互換。俟鴻到津探明。先給電報。不必再由田貝轉電。並候酌辦。擬未刻到輪。即行開駛。和約原本到大沽口。先專員馳呈軍機處核辦。再正發電間。廿二日 午後六時奉 養 酉電敬悉。事已定。押已畫。不及候旨。頑軀傷已收口。想

秘電三十七通

槍子未出。筋終牽掣。有華醫奇術來獻。擬帶至津試辨。到津後。即奏請假廿日調界。請先代奏。鴻漾廿三日未午後二時

十九日午時 李發

頃又據伊藤函稱。十七晚送去一信。原欲貴大臣知現在確實情形。盡頭地步。但問允不允而已。無可再商事。開來函似誤會。尙有可商之處。率再重言申明。十六面遞改定條款實係無可商無可改。此打仗後約款。與尋常議約不同。前照送來節略。減改數處因爲和局起見。若再誤會。仍可商改。致有決裂。其責成非日本之咎。更有言者。來函所稱各節。日本不以爲然。無庸再行商議等語。事至無可再商。似只有遵旨。即與定約。請代表。鴻。效。午。十九日

四月廿日夜 李發

午前接十九、二十皓。馬電並號電旨敬悉。即約伊藤在公所會商。賠款讓地二端。無可商改。遵旨即與定約。大致照三月諫洽。兩電。改定各款。而拾第六款通商小節目。酌加刪易。僅有四條。威海衛駐軍一節。試其人數日一萬。餉數日歲二百萬。再四磋商。允兩國各認一半。鴻僅允給五十萬。伊謂此約批准在煙臺。互換限廿日。留軍費始可照允。蓋因原約第十款批准互換日起。始安兵息戰。兵端屬久。各處恐生事端。故急催互換。應否准行乞速電示遵辨。現議廿二繕清約稿。廿三已正畫押。萬難久持。鴻於畫押後即登輪回津。再將和約原本專員送京。敬候批准。請代表。鴻。馬。廿日亥。

明治廿八年四月廿四日廣島大本營ニ
提出シタル露獨佛三國ノ勸告ニ對シ
我ノ執ルベキ方策三案

四月二十四日廣島大本營ニ提出案

露獨佛三國ノ勸告ニ對シ、我ノ執ルベキ方策ハ、左ノ三策ノ外ニ出デザルベシ。

第一、絶對的ニ之ヲ拒否スル事。但此場合ニ於テハ、三國ト兵力ヲ以テ雌雄ヲ決スルノ覺悟ナカルベカラズ。差向目下彼等ノ有力ナル艦隊ニ對シ如何ノ防禦策ヲ樹ツル歟。

第二、金州半島ノ占領ヲ撤却スルハ、條約ヲ會議ニ提出シ決定スル事。但此場合ニ於テハ如何ナル會議ヲ何レノ地ニ開クベキカ。三國公使ト談判ノ上之ヲ定ムベシ。尤會議ヲ開

クトセバ、英國ノ之ニ加入ヲ求ムルコト論ヲ俟タズ。支那ヲ加フルヤ否、姑ク疑問ニ屬ス。縱シ會議ニ附スルモ我ニ在テハ批准交換後ヲ以テ得策トス。然レドモ會議ニ於テ批准交換後トスルハ到底豫期スベカラズ。則主權移轉ノ上、我ノ權利ヲ鞏固ナラシムルヲ以テナリ。而シテ又金州撤回ノ報酬ヲ求ムルコトヲ試ムベシ。加之他ノ條件ヲ支那政府ガ完全ニ實行スル迄ハ、擔保トシテ占領スルニ在リ。

第三、三國ノ勸告ヲ全然容レテ、我ヨリ恩惠的ニ支那政府ニ向テ同政府ノ他ノ條件ヲ完全實行シタル上ハ、金州半島ヲ還與スル事。

第一

過日廣島行在所ノ閣議ニ於テ、我が政府ハ方今ノ事宜ニ於テ、清國ノ外他ノ第三國ト交戦ニ至ルコトヲ避ケザルヲ得ズトノ決議ヲ履行シ、露獨佛ノ三國政府ニ向ヒ、別紙回答ヲ提出シ、多少ノ讓與ヲ表明シタレドモ、若シ露國政府等ハ到底我が政府ニテ遼東半島ノ寸土モ占領スルヲ

肯ゼザルノ決心アルモノトセバ、如何程樽俎ノ間ニ折衝スルモ、遂ニ其決意ヲ翻シ得ザル場合ナキヲ保セズ。然ルトキハ我國ハ清國トノ媾和條約ハ未ダ批准交換ニ至ラザル際、更ニ他ノ強國ト鬩端ヲ啓キ、遂ニ該條約全體ノ廢滅ニ歸スルヲ防グ爲メ、寧ロ露國政府等ノ要求ニ對シ、極度マデ讓與シ、即チ遼東半島ノ全部ヲ放棄シ、露國政府等ノ干涉ヲ斷絶シ、勉メテ日清媾和條約ノ全體（遼東半島ノ讓與ヲ除キ）ヲ完結スルノ政略ヲ執ルベキ事。

第一

我が政府ハ第一條ニ云フ如ク決心スルモノトセバ、設令露國政府等ト協議中懸案ノ姿トナリ、急ニ結局ニ至ラザルモ、其極度ハ豫定スル所アルガ爲メ、決シテ彼等ト事端ヲ生ズベキノ虞ナキヲ以テ、其間若シ日清媾和條約批准交換ノ期日經過スルカ、又ハ其以前ニ於テモ、清國ガ形勢一變ノ機ニ乗ジ、批准ヲ拒絕スルニ至ルカ、孰レニシテモ交戦ヲ再ビセザルベカラザル時機ニ遭遇セバ、我が征清軍ハ猶豫ナク直チニ交戦ヲ開始シ、斷然清國ニ對スル我が最初ノ目的ヲ實行スルノ決心ヲ示サザルベカラズ。

第二

批准交換ニ關シ清國未ダ何等ノ進言ヲ發セズ。故ニ他ノ第三國ノ關繫如何ニ拘ハラズ、我政府ハ約條ニ遵ヒ、速ニ批准交換ノ使臣ヲ豫定地ニ派遣シ、清國ニ向ヒ批准交換ヲ促サシムベキ事

帝國政府ハ露國皇帝陛下ノ特命全權公使閣下ガ其本國政府ノ名ヲ以テ帝國政府ヘ差出サレタル覺書ニ對シ、最モ慎重ニ査閲シ了セリ。

日本國皇帝陛下ノ政府ハ、露國皇帝陛下ノ政府ノ友誼ノ勸告ヲ熟考シ、且茲ニ再ビ兩帝國間ニ存スル親密ノ關係ヲ重視スル證據ヲ表彰セシト欲スルガ故ニ、下ノ關係約ノ批准交換ニ因リ、日本國ノ名譽ト威嚴トヲ完フシタル後、別ニ追加定約ヲ以テ、該條約中ヘ左ノ修正ヲ加フルコトニ同意ス。

第一、帝國政府ハ其ノ奉天半島ニ於ケル永代占領權ハ、金州廳ヲ除ク外ハ總テ之ヲ放棄スルコトニ同意ス。尤モ日本國ハ其ノ放棄シタル領土ニ對シ、之ニ代フベキ報酬トシテ相

當ノ金額ヲ清國ト協議シテ之ヲ定ムル事アルベシ。

第二、然レドモ帝國政府ハ、清國ニ於テ日本國ニ對スル其ノ條約上ノ義務ヲ全然履行スル迄

ハ、擔保トシテ前記ノ領土ヲ占領スルノ權アルコト、知ルベシ。

今回露獨佛ノ三國公使ヨリ我政府ニ提出セル勸告ハ、我若シ聽カザルニ於テハ彼等ハ口ヲ東洋ノ平和ニ藉リ、辭ヲ清韓兩國ノ安危ニ託シ、寧ロ兵力ヲ以テスルモ、其志望ヲ貫徹セントシ、專ラ其準備ヲ努ムルモノ歷々徵證スベキナリ。而シテ彼ガ我ノ諾否ヲ促ス此ノ如ク急ナルニ於テハ、我ヲシテ此儘經過スルヲ得ザラシムベク、清國亦其機勢ヲ察シ、遲々トシテ批准交換ノ期ヲ虞ル、愆アルヲ以テ、我ハ斷然三國ノ勸告ヲ許容スルカ、將タ峻拒スルカ、二者其一ヲ撰バザルベカラズ。徒ラニ外交的擒縱手段ニノミ頼ルベカラザルナリ。而シテ熟々惟フニ、今日ノ事斷乎トシテ三國ノ勸告ヲ容ル、ヲ以テ利トスト雖モ、既ニ兩國全權ノ會商ニ依リ、妥結調印ヲ經、批准交換ノ日亦目前ニ横ハルニ於テ、今更其遂行ヲ猶豫スベカラザルハ敢テ論ヲ待タザル所、仍テ左ニ舉示スル所ノ趣意ニ據リ、別ニ答書ヲ具シテ、三國公使ニ酬ヒ、更ニ斷然タル

ル廟謨ヲ一定スルコト、實ニ刻下ノ急務ナリ。

一、三國ガ東洋ノ平和ヲ重ジ、清韓ノ安危ヲ慮リ、陽ニ我ニ對シテ表明スルノ好意ヲ謝シ、

其勸告ヲ容ル、ノ寛弘ヲ示ス事。

二、然レドモ兩國全權ノ會商ニ依リ、妥結調印ヲ經タル條約ヲ其儘不定ニ付シ難キニ付、清

國ヲシテ必ズ其指定期日マデニ批准交換ヲ行ハシムル事。

三、批准交換ノ後、我ハ三國ノ勸告ヲ容ルベシト雖モ、其詳細ニ至テハ、日清兩國更ニ直接

其事ニ當ルベキ事。

右ノ概要ニ從ヒ三國ニ對シテハ假ニ其勸告ヲ容レ、清ニ向テハ批准交換ヲ實行セシメ、一ト先ヅ其事局ヲ結ブヲ要ス。而ル後チ直接清國ト再ビ商同シ、結局遼東半島ヲ返還ストスルモ、務メテ列國ノ干涉ヲ避クルノ方針ヲ取ラザルベカラズ。若夫レ三國ノ勸告ヲ排斥セシ乎。彼等必ズ清ヲ使嗾シテ批准ヲ拒マシメン。又之ニ反シテ望ヲ前途ニ繋ガシメ、先ヅ批准交換ヲ行ヒ、然ル後更ニ兩國商議スル所アラント云ハバ、三國ハ寧ロ清國ニ勸告シテ批准ノ交換ヲ促スベシ。今日ノ急務ハ唯タ一面三國ノ勸告ヲ斥ケズ、一面批准ノ交換ヲ行ヒ、早ク我ノ地歩ヲ鞏メ徐々ニ後圖ヲ爲スニ在リ。若シ又斷然三國ノ勸告ヲ排斥セントナラバ、先ヅ國ヲ賭シテ三國ト戰フノ決心ナカルベカラザルヲ以テ、急遽出征ノ將士ヲ召還シ、全國ノ防備ニ充テザルヲ得ズ。仍

テ今別書ヲ具シ、特ニ閣議ヲ請フ。

日本 皇帝陛下ノ政府ハ、露國皇帝陛下ノ政府ガ日本 皇帝陛下ノ政府ニ於テ、遼東半島ヲ一定不易ニ所屬スルコトニ關シ、更ニ切實親交ナル證トシテ與ヘラレタル勸告ニ對シ、茲ニ謝意ヲ表シ、且露國皇帝陛下ノ政府ガ、極東永遠ノ平和ニ重キヲ置カル、ノ盛意ヲ敬承ス。而シテ其好意ニ對シ、日本 皇帝陛下ノ政府ハ、露國皇帝陛下ノ政府ノ切實ナル勸告ヲ容ル、ニ躊躇セザルベシ。

日本 皇帝陛下ノ政府ハ、今ヤ日清兩國全權大臣ノ訂結シタル新條約批准交換ノ期迫ルヲ以テ、速ニ其事ヲ結局シ、而ル後清國皇帝陛下ノ政府ト更ニ直接商議スル所アルベキヲ茲ニ聲言ス。

黑田樞密院議長ヨリ東京閣臣ノ意見 電報

四月廿四日午後三時三十分東京發

總理大臣 黑田議長

三國宣言ニ對シ、已ニ御成算アルベシト雖モ、取敢ヘズ在京各員ノ意思左ニ御參考ニ供ス。
已ムヲ得ザル場合ニ於テハ、金州ヲ放棄スルモ妨ゲナシ。
但シ左ノ條件ヲ要ス。

- 一、金州ニハ清國ニ於テ今後軍港ヲ置カザル事。
- 一、金州ハ今後如何ノ場合ニ於テモ、清國ニ於テ他國ニ讓與セザル事。

東京閣臣ノ意見電報

三、金州差戻ノ報酬トシテ、若干兩ヲ清國ヨリ拂フベキ事。
 右三件ハ外交上ノ手段ヲ以テ、清國ヨリ我ニ請ハシメ、我之ヲ承諾シテ批准ヲ交換スル事、又
 一策ハ馬關條約ノ儘ニテ、彼ニ批准セシメ、然ル後我ノ好意ヲ以テ金州ヲ彼ニ返ヘス事。
 三國ヨリ勸告ニ付内々交渉ヲ爲スモ（コンフエレンス）ハ務メテ之ヲ避ケタキ事。

三國干涉ノ理由ヲ在英加藤公使及
 在米栗野公使ヘノ告知

明治二十八年四月廿六日發

陸奧外務大臣

在 英

加藤公使

日本國ガ遼東半島ヲ永久占領スルコトニ對スル佛獨露三國ノ抗議ハ左ノ理由ニ依ル。

第一、朝鮮國ノ獨立有名無實トナルコト。

第二、歐洲通商貿易上ノ利益ヲ害スルコト。

三國干涉ノ理由ヲ加藤栗野兩公使ヘ告知

第三、清國ノ都ヲ危フスルコト。

第四、極東ノ平和ヲ危険ナラシムルコト。

日本國政府ハ歩ミ合セノ手段トシテ、左ノ取捌キヲ提議ス。

第一、日本國政府ハ日本國丈ケニ關シテハ、朝鮮國ノ獨立ニ付キ、歐洲諸國ニ對シ確然タル保證ヲ與フベシ。

第二、日本國政府ハ、營口及遼東半島ニ於テ、一港ヲ以テ自由貿易港トナスベシ。左スレバ國境稅ハ普通ノ海關稅ヨリ低廉ナル上ニ、一ヶ所ノ港ハ年中絶エズ開ケ居ルガ故ニ、日本ノ占領ハ歐洲通商貿易ノ利益ヲ増進スルヤ明ナリ。

第三、遼東半島ノ占領ハ、北京ヲ危フスルモノト見做スコト能ハズ。然レドモ萬一何等ノ事情ニ因リ、北京ヲ危フスルモノト考ヘラル、モ、右ハ重ニ清國ニ關係スル事件ニシテ、清國ニ於テ鐵道ヲ布設セバ、因テ以テ斯ノ如キ危険ヲ防グニ餘リアリトス。

第四、各國ト清國トノ間ニ境界線ヲ劃定セルコトハ、各國ノ經驗ニ於テモ見ルトコロニシテ之ヲ以テ極東ノ平和ヲ危フスルノ虞アリト言フベカラズ。而シテ日本國政府ニ於テハ、能ク注意シテ境界線ヲ劃定スルトキハ、清國ノ隣邦トシテ平和ヲ維持スルコト能ハズトノ理由ヲ見ズ。

閣下ハ以上歩ミ合セノ提案ヲ、内密ニ英國外務大臣ニ告ゲ、且ツ日本國政府ハ本件ニ付キ、英國ノ利害ハ他ノ歐洲各國ノ利害ニ卓越シ居ルコトヲ認メ、特ニ前顯第二項ニ於テ、右ノ利害ヲ調和セント勉メタル旨ヲ申聞ケラレタシ。

若シ閣下ガ有効無害ト思考セバ、滿洲ノ北東ノ地及朝鮮國ノ北部ニ對スル露國ノ窺視ハ、其ノ今回ノ要求ニテ察スルニ餘リアル旨、英國外務大臣ニ告ゲラルベシ。且ツ閣下ハ同大臣ニ向ヒ、事既ニ危急ニ迫リタル旨ヲ述べタル上、若シ日本國ガ前述ノ意味合ニテ三國ニ回答ヲ與ヘタル節ニハ、日本國ハ何レノ點マデ英國ノ援助ニ依頼シ得ベキヤ尋問セラルベシ。

閣下ハ本訓令ニ付キ最モ急速ニ處置ヲ執ラレ、其結果ハ直チニ電報スベシ。

四月二十六日發

在 米

栗野公使

外務大臣

貴官ハ國務長官ニ面會シ、日本政府ハ今ノ時ニ當テ合衆國政府ノ友誼アル意嚮ニ對シ、深ク謝スル旨ヲ傳ヘ、日本政府ハ友誼アル各國ノ條理アル抗議ハ、決シテ之レヲ默々ニ付スルヲ好マズト雖ドモ、然レドモ清國政府ニ於テ奉天半島ヲ日本ヘ讓與スルコトヲ約シタル平和條約ハ、已ニ我 皇帝陛下ノ御批准相濟ミ居ル今日、該半島ヲ放棄スルコトハ日本政府ニ取リテハ、非常ナル難事ニシテ、復タ目下ノ事情ハ強テ之ヲ放棄スルノ必要アラシムルモノト認ムルコト能ハズ。合衆國政府ハ此迄始終平和結了ノ爲メニハ好意ヲ以テ斡旋セラレ居ルコトナレバ、此際露獨佛三國政府ヘ（就中露國政府ヘ）日本ノ奉天半島永久占領ニ對スル其抗議ニ付テハ、再考アラシムコトヲ夫々一樣ニ勸告スルノ勞ヲ執ラレナバ、本件モ亦満足ナル結局ニ至ルベシト信ズ。獨佛露三國政府ノ舉動ハ、清國政府ヲシテ平和條約ヲ拒絕スルノ心ヲ誘ヒ、隨テ交戦ノ再演ヲ來タスベシトハ、日本政府ノ深ク畏ル、處ニシテ、可成的如此キ結果ニ立至ラザルコトヲ望メバ、此時ニ當テ合衆國政府ノ友誼アル助力を與フベキハ日本政府ノ深ク信ズル所ナリ。

奉天半島放棄ニ付三國政府ニ提出シタル條件

日本帝國政府ハ……國政府ノ友誼アル忠告ヲ容レ、若シ清國政府ニ於テ左ノ條件ヲ承諾スルニ於テハ、奉天半島ヲ永久ニ占領スルコトヲ放棄スベシ。

- 一、平和條約ハ現在ノ儘之ヲ批准シ、且ツ約定シタル日ニ之ヲ交換スルコト。
- 二、新占領地ヲ放棄スルニ於テハ、之ニ對シ相當ノ追加償金ヲ拂フコト、但シ之ニ關スル拂入方法等ノ條件ハ此後定ムル所ニ遵フベシ。
- 三、旅順口ハ日本兵撤回ノトキ、直ニ其ノ砲臺軍備等總テ之ヲ破毀シ、再ビ軍備ヲ爲サルコト。
- 四、奉天半島ハ平和條件遵守、及ビ追加償金拂入レノ擔保トシテ、日本兵ニ於テ暫ラク之ヲ占領スルコト。
- 五、右占領中ノ入費ハ總テ支辨スルコト。

奉天半島放棄ニ付三國政府ニ提出シタル條件

遼東半島放棄ニ付テノ詔勅案

朕嚮ニ清國皇帝ノ請ニ依リ、全權辦理大臣ニ命ジテ、其ノ簡派スル所ノ使臣ト會商シ、兩國講和ノ條約ヲ訂結セシメタリ。

然ルニ露西亞獨逸兩帝國及法朗西共和國ノ政府ハ、日本帝國ガ遼東半島ノ壤地ヲ永久ノ所領トスルヲ以テ、朝鮮ノ獨立ヲシテ空名ニ歸セシメ、清國ノ首都ヲ危殆ノ地ニ置キ、因テ東洋永遠ノ平和ヲ妨グルノ虞アリトシ、交々朕ガ政府ニ懲懣スルニ、其ノ地域ノ永久保有ヲ拋棄セムコトヲ以テシタリ。

顧フニ朕ガ恆ニ平和ニ眷々タルモ、竟ニ清國ト兵ヲ交フルニ至リシモノ、洵ニ朝鮮ノ獨立ヲ扶持シ、東洋ノ平和ヲシテ、永遠ニ鞏固ナラシメムトスルノ目的ニ外ナラズ。而シテ露西亞獨逸及法朗西三國政府ノ友誼ヲ以テ切憇スル所、其ノ意專ラ東洋平和ノ鞏固ヲ望ムニ在リ。朕平和ノ爲ニ計ル素ヨリ之ヲ納ル、ニ吝ナラザルノミナラズ、更ニ事端ヲ滋シ、時局ヲ艱シ、治平ノ回復ヲ遲滯セシメ、以テ民生ノ疾苦ヲ醸シ、國運ノ伸張ヲ沮ムハ、直ニ朕ガ意ニ非ズ。且清國

ハ講和條約ノ訂結ニ依リ、既ニ淪盟ヲ悔ルノ誠ヲ致シ、我が交戦ノ理由及目的ヲシテ、天下ニ炳焉タラシム。今ニ於テ大局ニ顧ミ、友邦ノ忠言ヲ納レ、寬懷以テ事ヲ處スルモ、帝國ノ光榮ト威嚴トニ於テ、毀損スル所アルヲ見ズ。朕乃チ政府ニ命ジ、露西亞獨逸及法朗西三國ノ政府ニ照復スルニ、其ノ友誼ノ言ヲ納ルベキコトヲ以テセシメタリ。若夫レ半島壤地ノ還附ニ關スル一切ノ措置ニ至テハ、全ク日清兩國間ノ案件ニ屬ス。朕ハ政府ヲシテ特ニ清國政府ト商定セシムル所アラムトス。今ヤ講和條約既ニ批准交換ヲ了シ、兩國ノ和親舊ニ復シ、局外ノ列國亦斯ニ交誼ノ厚ヲ加フ。百僚臣庶、其レ能ク朕ガ意ヲ體シ、深ク時勢ノ大局ニ鑒ミ、邦家ノ大計ヲ誤ルコト勿キヲ期セヨ。

御名 御璽

年 月 日

各大臣副署

三國政府ノ干涉ニ對スル回答案

日本帝國政府ハ、露、獨、佛（獨、露、佛）（佛、露、獨）三國政府ノ友誼アル忠告ニ基キ奉天半島ニ於ケル土地ヲ永久ニ占領セザルコトヲ約ス。

伊東全權辦理大臣へ訓令

今回批准ノ事成ルベク圓滑ニ、且捷敏ニ、其執行ヲ遂グルノ手段ヲ取ラン爲メ、外務大臣ト協議シタル要項左ノ如シ。

一、委任狀書式ノ事

彼ノ帶ブル所ノ委任狀ハ、假令我ノ帶有スル如キ正式ナルモノナラザルモ、形式上ノ爭ヲ避ケテ、交換ノ執行ヲ結了スルコトニ努力スベシ。

二、文字上誤脱ノ事

條約上ノ條件ニ影響スルノ虞アルモノ、外、文字上ノ誤脱ト認メ得ラルベキモノハ故障ナク交換スベシ。

三、皇帝親署ノ事

我ハ御親署並ニ國璽ヲ鈴スルヲ例トスルモ、彼ニ在テハ單ニ國璽ヲ鈴スルニ止マリ、親署ノコトナキハ今回李鴻章ノ齎セル委任狀ニ於テモ明白ナレバ、國璽ノミヲ認メテ交換スベ

四、條約附添ノ地圖ノ事

彼ヨリ提出スル地圖ニシテ、多少ノ誤謬アラバ、寧ロ我ニ收受セザルヲ可トス。彼若シ肯
ンゼザレバ其儘受領シテ交換スルモ差支ナシ。

五、割讓ヲ恣ニ變更シタル時ノ事

例ヘバ金州若クハ臺灣澎湖島ニ於ケル經界ヲ恣ニ變更スル等ノ如キ、條約面ニ戻リ漫ニ加
減シタルトキハ、斷然批准交換ヲ行ハズシテ歸朝スベシ。

六、批准交換ノ爲ニスル約束ノ事

批准交換ヲ行フニ付キ必要ナル約束ハ、國際法上ノ慣例ニ從ヒ、裁酌議定調印スベシ。

七、交換期限ノ事

批准交換ハ五月八日正午ヲ以テ其期トスルヲ以テ、條約ノ明條ヨリ云フトキハ、兩國全權
ハ同日ヲ以テ會同セザルベカラズ。然ルニ病氣其他避ケ難キ事情明白ナルニ於テハ、假令
期日ヲ過グルモ雙方ノ間ニ協議整フトキハ、故障ナク交換スベシ。此場合ニ於テハ實際九
日若クハ十日ニ至リ、交換シタルモ、八日ヲ以テ交換シタルモノトシ、條約上ニ所謂批准
交換後何月何日トアルモノハ、凡テ八日ヨリ起算ス。之ニ反シテ彼期日ニ先チ交換センコ

トヲ望マバ、無論其望ニ應ジ、直ニ交換スベキモ、實際其ノ何日タルニ拘ラズ、條約上ノ
交換期日ハ即チ五月八日トシ、之ヲ起點トシテ規定シアル凡テノ場合ノ期限ハ、五月八日
ヨリ起算ス。但シ右兩様ノ場合ニ於テハ、批准交換議定書中ニ明條ヲ設ケテ、講和條約ノ
起算點ヲ約定スルコトニ盡力スベシト雖モ、若彼全權ニ於テ、之ガ特約ヲ設クルノ權力ヲ
有セザルカ、若クハ之ヲ拒ムニ於テハ、其儘ニ交換ヲ結了スベシ。然レドモ彼故意ニ交換
ヲ行ハズ、若クハ期日ニ至ルモ指定地ニ會同セザル如キ惡意顯然タルニ於テハ、交換ヲ行
ハズ其儘歸朝スベシ。

八、期日ニ先チ芝罘ニ前往シ、彼ノ全權大臣ヲ待受クル場合ニ於テハ、直接ニ李鴻章ニ宛テ
督促其他打合ノ電報ヲ發スルコトヲ得。

九、復命ノ事

批准交換セラレタルト否トヲ問ハズ、歸朝直ニ闕下ニ伏奏スベシ。

十、批准交換ノ結果打電ノ事

批准交換セラレタルト否トヲ問ハズ、其結果ハ先ヅ通常英語ヲ以テ總理大臣外務大臣ニ電
報スベシ。

十一、會同所ノ事

伊東全權辦理大臣へ訓令

會同ノ場所ヲ或ハ彼ニ於テ準備セル所アラント雖モ、若シ其設ケナキニ於テハ外國ホテルヲ借入レ其場所ニ供シ、若クハ乗船内ニ於テ會同スルモ差支ナシ。其レ等ノコトハ全權辨理大臣ニ於テ便宜取計フベシ。

伊東全權辨理大臣ヨリ出使ニ付申出條件

小官儀、明一日夕ヲ以テ京都ヲ發シ、廣島ヲ經テ芝罘ヘ向フベシトノ垂命ヲ敬承ス。

仍テ更ニ左ノ事項御確定書面ニテ垂示セラレ度候。

- 一、全權辨理大臣以下出發ノ日ヲ以テ、其一行ノ氏名ヲ官報ヲ以テ公ケニセラレタキコト。
- 二、全權辨理大臣ノ出發ハ公然清國政府ニ通知セラレタキコト。
- 三、清國政府ノ全權大臣ノ氏名及我全權辨理大臣接遇ニ付テノ準備ノ有無ヲ電同シ、其得タル所ノ回答ヲ全權辨理大臣旅順着ノ日マデニ、同地ヘ向ケ電報セラレタキコト。
- 四、乗船ハ豫定ノ如ク軍艦ヲ以テセラレタキコト。若シ御用船ヲ以テ之ニ代フルナラバ必ず軍艦ヲ以テ警護セシメラレタキコト。
- 五、軍艦ヨリハ全權辨理大臣相當ノ禮遇ヲ爲サシメラレタキコト。
- 六、芝罘滯留中ハ軍艦ヲ繫留セシメラレタキコト。
- 七、陸上ニ於ケル警護ニ付テハ、繫泊軍艦ヲシテ全權辨理大臣ノ命ヲ請ケシメラレタキコト。

伊東全權辨理大臣ヨリ出使ニ付申出條件

- 八、全權辦理大臣旅順着到マデニ、歐米列國トノ關係ノ現況、並ニ日來往復ノ結果ヲ内閣暗號ヲ以テ詳電セラレタキコト。
- 九、批准交換ヲ妨害スル爲メ、途中又ハ繫泊中干涉同盟國軍艦ヨリ何等妨碍ヲ加ヘタル場合ニ臨ミ、我艦隊ヘ下サレタル訓令ノ旨承知シ置キタキコト。

伊東全權ノ電報

京 都 陸奧外務大臣宛

昨朝七時當港へ着、相當ノ照會ヲ爲シタル末、午後ニ至リ伍廷芳及聯芳ノ兩全權ニ面晤シ、更ニ夜ニ入り九時ヨリ十二時マデ會談シ、今早朝批准交換ヲ執行スル爲ニ、豫備ノ取極ヲ終了セントスルニ際シ、清國兩全權ト其政府ヨリ左ノ電報ニ接シタリ。

露國政府ハ批准交換並休戰ノ期ヲ猶豫スベキコトヲ日本政府ニ要求シ、米公使「コロネル

デンビー」亦事其ヲ日本政府ニ電報シタリ。我總理衙門ハ現休戰期ノ滿ツル前ニ、日本政府ノ返答ヲ受領スルコト能ハザルヲ恐ル、ニ因リ、日本全權辦理大臣ニ依頼シテ、日本政府ニ其事ヲ電報セシムベシ。三國ノ干涉ニ由リ日本政府ハ批准交換ヲ延引センコトヲ希望ス。既ニ力ヲ極メテ清國全權ヲ説キ、彼ヲシテ竟ニ一切豫備ノ取極ニ同意セシメタル後、右ノ電報到來シタルガ爲ニ、彼等ハ云フ、更ニ訓令ヲ待ツニ非ザレバ交換ノ事ヲ決行シ難シト。余ハ是非トモ今朝交換ノ執行ヲ主張シテ止マズト雖、此上強迫セバ、唯ダ恐ル事或ハ破裂ニ至ランヲ。依テ今午後ニ至ルマデ、閣下ヨリ何等ノ訓令ニ接セザレバ、三日間猶豫ノ爲ニ適當ノ取極ヲ爲シ置クベシ。

芝罘五月八日午前四時發

伊東全權辦理大臣

京都

陸奥外務大臣宛

當港ニハ刻下露國戰艦八隻、水雷捕獲艦二隻、水雷艇一隻、獨國二隻、佛國一隻、米國一隻、英國二隻繫泊シ居レリ。英米ノ艦長ハ小官ノ着後直ニ來訪シ、露獨佛ハ頻ニ示威運動ヲ爲スモノ、如シ。

芝罘五月八日午前五時

伊東全權辦理大臣

京都

陸奥外務大臣宛

今朝清國全權ニ會晤シ、休戰期ノ滿ツル前ニ交換ノ事ヲ結了スルノ必要ヲ説キ、種々ノ策略ヲ旋ラシテ再ビ彼ニ迫レリ。彼ヨリ誠實ナル依頼ニ應ジテ、午後五時マデ猶豫スル事ヲ承諾シ、夫マデニ交換ノ事ヲ終ラザレバ、直ニ出發歸朝ノ途ニ上ルベキ決意ヲ示シタリ。此強迫ハ餘程彼等ヲ感動セシト見受ケタリ。萬一清國政府ニシテ批准交換ヲ拒マバ、今朝報ジ置キタル通り、延期ヲ許ス爲メニ、清國全權ト取極メヲ爲スノ手段ヲ取ルベシ。

芝罘五月八月午後三時

伊東全權辦理大臣

京都

陸奥外務大臣宛

今朝清國全權ニ對シ、強硬ナル促迫ヲ爲シタル結果ニ由リ、午後ニ至リ彼等再ビ來訪シ、今夜十時マデ猶豫ヲ請ヒ、且證言シテ曰ク、如何様ナル事情ニ陥ルモ必ズ其期ニ至リ交換ヲ執行スベシト。

芝罘五月八日

伊東全權辦理大臣

京都

陸奥外務大臣宛

本夜十時批准交換ヲ執行スル取極ヲ報ズル爲メ、最後ノ電報ヲ發シタリ。後平英語ヲ以テセラレ、五日間休戦ノ期ヲ遷延シタル旨ノ閣下ノ電報ニ接シタリ。此電報果シテ眞實ナラバ、暗號ヲ以テ直ニ其事ヲ報ゼラレタシ

芝罘五月八日午後七時十分發

伊東全權辦理大臣

伊東全權辦理大臣ヨリ來札一通

伊藤內閣總理大臣宛
陸奧外務大臣宛

昨夜外務大臣へ報ジタル英文電信ノ如ク、昨午後當ホテルニ於ケル會見ノ時、伍廷芳聯芳二大臣ハ、今八日中ニ纏マレバ差支ナシトテ、例ノ支那流ニテ準備ヲ遲緩ニ付スルノ傾キアルニ由リ、小官ハ昨日中ニ豫備ノ相談ハ殘ラズ濟マセ、本日ハ午前中に交換ヲ行ハザレバ、休戰期内ニ軍隊ヘノ命令行キ届カザルノ恐レアルヲ以テ、七日中ニ一切ノ書類ハ査閲シ、全權委任ノ照介マデモ濟マセ、今朝ハ儀式上ニ止マルマデニ進行スルヲ要スト、二時間餘諄々説聞カシ、伍聯兩人モ遂ニ同意シ、昨夜夕食後小官彼等ヲ訪問シ、先ノ委任狀ヲ見ルニ、甚ダ不完全ニシテ恐ラクハ天津邊ニテ作爲シタルモノカト疑フベキ形迹アルモ豫テ御訓令ノ趣ニ依リ、寛恕ヲ務メ

準備ノ書類ヲ彼ニ示シテ悉ク同意セシメ、豫備ノ談判殆ンド全ク了ラントスル際、突然總理衙門ヨリ伍ニ電報達ス。伍ハ此電報ヲ譯スル爲ニ三十分間中席シ、復席ノ後彼曰ク、只今衙門ヨリノ電訓ニ依レバ、露國ヨリ貴國ニ對シ休戰及批准交換ノ延期ヲ迫リ、在北京米國公使ヨリモ此事ハ貴國政府ニ申入レタリ。兎モ角批准交換ハ見合スベシト、伍又曰ク余等ハ速ニ此任務ヲ完結セント望ムモ、已ニ此ノ如キ訓電ヲ得タル以上ハ、之ニ反キテ批准交換スルヲ得ズト、事情此ノ如クニシテ伍ガ既ニ小官ト會談中電報ヲ受ケ取リタルハ形迹上疑フベキ餘地ナク、且初メヨリ斯クセント巧ミタリトモ思ハレズ。却テ深夜會見ヲ諾シ、彼亦準備ヲ急ギタルヨリ察スレバ、右ノ訓電ハ事實ナラント想像セラル。然レドモ小官ハ若シ個様ノコトアレバ、我政府ヨリ急電アルベキ筈ナリ。其事ナキ上ハ、念ノ爲メ一面ハ我政府ニ打電スベシト雖モ、本日正午マデニ交換ヲ執行スル爲ノ準備ハ既ニ取極メタル通りニ用意シ置クベシト約束シテ、殆ンド破裂マデノ勢ヲ示シテ昨夜十時彼等ト別レタリ。今朝十時再ビ伍聯兩人ニ我政府ヨリノ電報ナキコトヲ通知シテ、正午マデニ交換ヲ促シ、止ムナケレバ此地ヲ去ルベシト申入レタル所へ、伍聯兩人匆忙小官ノ旅館ニ馳セ付ケ、頗ル喫驚ノ色ニテ、慰諭百方ニ務メタレドモ、小官ハ新ニ命令ヲ受ケザル限リハ、本日交換スルカ、然ラザレバ交換拒絶ノ照會ヲ待テ、之ニ對シ返答ヲ送リテ去ル外ナシ、我ハ飽マデ交換ヲ望ムモ、貴國之ニ應ゼザルニ於テハ如何トモスベカラズ

ト主張シ、辯論ヲ重ネタル末、伍聯ハ周章狼狽シテ、北京ニ打電シテ最後ノ訓電ヲ得ルタメ本日午後十一時マデ猶豫ヲ乞ヒ、我ハ北京打電ヲ許シタルモ、十一時ヲ承知セズ。談判中彼ハ一分時ヲ争フ場合ナリトテ打電ノ後、再ビ三時ヨリ來訪スルコトヲ約シテ去レリ。彼ハ三時ニ來訪シ、種々商議ノ末、北京ノ訓電ノ如何ニ拘ハラズ、今夜十時ヲ期シテ何等ノコトアルモ、責任ヲ取テ必ズ批准交換ヲ行ハント明言シ、且之ヲ我政府ニ豫告スルコトヲモ承諾シテ別カレ、目下取換書類調整中ナルニ、陸奧外務ノ名ヲ以テ、平英語ニテ五日間休戰期及批准交換ヲ猶豫スルコトヲ許諾シタレバ、追テ訓令スルマデ何事ヲモ爲サズシテ滞留スベシトノ電報ニ接シ、甚ダ怪訝ニ堪ヘズ。併シ今夜十時ヲ期シ、彼レ全權ノ爲ス所ヲ見テ決スル所アラントス。此電報ハ態々肥後丸ニ齎サシメ、旅順ヨリ發スルモノ

在芝罘ビーチホテル

伊 東

五月八日 午後八時芝罘ニテ認ム

五月九日 午前十一時四十分旅順ヨリ發ス

總理 宛
外務 宛

(詳報ノ續キ) 五日間猶豫ノ御電報ノコトハ、其前日ノ會合ノ時彼ヨリ云ヒ出シタル所ナルモ既ニ小官斯ル訓電ニ接セザルニ由リ、其通り主張シタルニ、凡ソ二十時間餘リ過ギ、彼ノ如キ訓電ヲ昨日午後六時受取り(京都午後三時發トアリ、本文ハ證據ノ爲メ保存シ置ケリ)タレバ小官ハ或ハ偽造電報ナラント信ジタリ。而カモ右ノ電報ヲ受取ル數分前ニ於テ、先電ノ如ク昨夜十時ヲ期シテ一切ノ事ヲ結了スルコトヲ約シタルナレバ、此際ニ臨ミテ猶豫スベキニアラズ。若シ彼ヨリ此ノ事ヲ云ヒ出シ、猶躊躇スルモ、斷然排斥シテ約ノ如ク十時ヲ期シテ交換ヲ結了セント、益々用意ヲ急ギタルニ、彼ハ九時半ヨリ書類ヲ携ヘテ旅館ニ入り、交換ノ式相濟ミタル後席上ニ於テ「速ニ批准交換スベシ」トノ外務大臣ノ訓電ニ接シタリ。交換ハ十一時半滞リナク濟シタリ。其レヨリ伍聯ノ遼東半島ノコト、臺灣ノコト、批准スルモ條約ノ變更ニ付キ更ニ商議スベシトノ清帝諭命ノコトノ三件ニ關シ、小官ニ宛テタル照會文三通ヲ提出シ、小官ヨリ其趣意ヲ我政府ニ具申スベシト要求シタルモ、小官ハ今回ノ使命ハ單ニ批准交換ニ止マルヲ以テ、他ニ涉リテハ何等公文ヲ受取り又ハ之ニ回答スルノ權能ヲ有セズト突返シ、一時半マデ押問答ノ末、小官ハ此三件ノ照會ヲ受取ルヲ得ザル理由ヲ備ヘタル簡單ナル答文ヲ添へ、出立

ノ際米領事ニ依頼シテ彼ノ兩全權ニ返却セシメタリ。フオスターハ彼ノ顧問トシテ大ニ盡力セリ。天津芝罘ノ米領事リード我ガ爲ニ大ニ利便ヲ與ヘタリ。且リードハフオスターノ親戚ナルヲ以テ、間接フオスターヲ利用スルヲ得タリ。滯在中日夜護衛兵ヲ附シ、途中ハ多數ノ儀仗兵ヲ出シ、旅館ノ外ニ會見所マデ設備シ、尤モ鄭重ニ盡シタリ。之レニ對シテハ夫々報酬シタリ。英米軍艦ヨリハ早速士官ヲ橫濱丸ニ訪問セシメ、又フリマントル自ラ小官ヲ訪問シ、交換濟ノ上ハ報知セラレタシト、フリーマントルヨリノ依頼ニ應ジ、今曉書面ヲ以テ報ジタルニ、彼レヨリモ丁寧ナル書簡ヲ送り來リ、我國ノ爲ニ此好結果ヲ賀セリ。之レニ反シテ露佛獨軍艦ヨリハ遂ニ訪問モセザリシ。此内佛艦ハ同盟運動稍々冷淡ナルガ如シ。此地ニテハ交換結了ノコト全ク意外ニ出テ、待設ケノ用意モ盡ス能ハザリシト聞ク。過刻井上艦隊司令官モ來訪セラレ。其他陸海ヨリ厚待ヲ受ケタリ。肥後丸ヲ先發セシムル等ノ所、交換結了ノ時遅カリシ爲メ、今曉本船ト同發スルコト、ナレリ。小官ハ本船ニテ字品ニ向ヒ、八重山警衛今午後五時此地ヲ發ス。批准書類ハ鄭重ニ保護シ居レバ御安心ヲ乞フ。今朝此地ニテ五日間猶豫ノ電報ヲ聞キ、昨日ノ訓電ノ偽造ナラザリシヲ知レリ。

九日午後四時四十分又旅順發急報

芝罘談判記要

第一

五月七日午後六時三十分「ビーチホテル」ニ於テ

出席者官氏名

全權辦理大臣	伊東 己代治	換約全權大臣	伍 廷 芳
隨員	龍 居 賴 三	同上	聯 芳
同上	佐 藤 顯 理		
同上	榎 原 陳 政		

(双方握手寒暄ヲ叙シ就席ノ後)

伊東 今朝當地ノ道臺へ照會ヲ發シタルニ、早速答示ヲ忝クシ、且丁寧接迎セラレ、設備此ノ如ク鄭重ニセラレ、茲ニ兩全權大臣閣下ト會見スルヲ得ルハ、本大臣ノ欣幸トスル所ナリ。本大臣ハ途旅順口ニ寄り、會テ兩國全權大臣ガ下ノ關ニ於テ會商妥定蓋印ヲ經タル講和條約及別約ハ、已ニ貴國皇帝陛下ガ批准シ玉ヘルヲ聞キ、其互換ヲ執行スル爲メ、尤

モ名譽アル交渉ヲ爲スヲ深ク光榮トス。而シテ貴國皇帝陛下ガ伍聯閣下ヲ欽差セラレ以テ、此重任ニ當テシメラル、ニ於テ、本大臣ハ事ノ圓滿ニ進捗セラル、ヲ疑ハズ。……先ヅ第一ハ双方全權委任狀ノ交換ヲ行フベキコト、第二ハ交換執行シタルコトヲ證明スル所謂交換證書ヲ互換スルコトハ相互ノ任務トス。是レ等普通ノ手續ハ伍大臣閣下ニ於テ熟知セラル、ヲ信ズ。本大臣ハ時局切迫セル目下ノ場合ニ於テ成ルベク時ヲ費サブラシコトヲ欲シ、船中ニ在テ豫メ必要ナル書類ヲ調整シ置キタリ。今貴覽ニ供スベキカ。

(此時伍聯閣全權大臣首肯シ、伊東全權辦理大臣ハ書類ヲ一齊シテ示サル)
公然ノ書類ハ和漢兩文ニテ足レリト思惟ス。英文ハ單ニ伍大臣閣下ノ參考ニ供スル爲メニ認メ置キタルモノナリ。批准交換ニ必要ナル書類ノ形式ハ、各國既ニ其例アルハ伍大臣閣下ノ能ク了知セラル、所、唯ダ其形式ノ一様ナラザル點ハ、貴國ニ受領セラルベキモノハ貴國名、年號、月日、及全權大臣ヲ上位ニ置キ、我々受領スベキモノ亦均シク我國名、年號、月日、及全權大臣ヲ上位ニ置クコト是レナリ。……普通手續ニ關スル商議ハ成ルベク本日中午ニ結了シ遅クモ明日正午マデニ本書ノ交換ヲ行ハザルベカラズ。休戰條約ハ明夜半ヲ以テ滿期トナレバ、其前ニ於テ速ニ批准交換ヲ行ハザレバ、馬關條約ハ竟ニ水池ニ屬シ、兩國ノ間ニ横ハル平和ノ空氣ハ一變シテ再ビ戰爭ノ慘害ヲ招クノ虞アリ。……

：別ニ貴方ノ爲ニ日本文交換證書ノ寫ヲモ作り置キタリ。

伍 貴意領セリ。猶ホ日本文ニ熟通スル者ニ就キ質シ、熟慮ヲ盡シ置キ度レバ、明日マデ一通ヲ携歸スルヲ許サル、カ。

伊東 閣下ノ熟慮ヲ煩スマデノ事モナシ、本大臣ノ全權委任狀ハ漢譯ヲ作り置キタレバ、今貴覽ニ供スベシ。就テハ兩閣下ノ帶有セラル、全權委任狀モ此席ニ於テ示メサル、ヲ得ルカ。
伍 否、唯今ハ携帶セズ。本日余等ガ參伺シタルハ一己ノ資格ヲ以テ敬意ヲ表スル爲ニ訪問シタルマデナリ。

伊東 厚意多謝ス。本大臣ハ閣下等ト同ク互ニ使命ヲ帯ビテ此地ニ會同シ、而カモ休戰ノ期目下ニ迫ルニ於テ、瞬刻モ猶豫スベキニアラズ。既ニ兩國皇帝陛下ノ批准ヲ經タル上ハ、苟モ兩國全權大臣タルモノ專心平和ノ克復ヲ圖ラザルベカラザルハ、敢テ論ヲ待タザル所ナリ。故ニ本大臣ハ今宵兩閣下ノ所在地ニ就キ、批准交換ニ關スル一切ノ豫備ノ手續ヲ結了シ、明早朝ハ正式ノ互換ヲ行フコト、爲シ、一刻モ早ク兩國ヲ蔽ヘル妖雲ヲ掃ハシコトヲ希フ。貴意果シテ如何。

伍 (聯ト密語シテ) 余等ノ居處ハ僅カニ五七町ヲ隔ツルニ過ギザレバ、閣下若シ枉駕ヲ勞トセラレズンバ、余等素ヨリ迎接スルヲ喜ブ。然レドモ途上警護等ノ準備ヲ要スレバ、批

准交換ハ明日一日ニテ終了シ得ル事ナレバ、整備ノ手續モ明朝マデ猶豫セラレテハ如何。

伊東 否、途上警護ノ事復タ尊慮ヲ煩スヲ欲セズ、本大臣ハ單身ニテモ閣下等ヲ訪問スルコトヲ辭セズ。素ヨリ豫備ノ手續ハ必ズ今宵ヲ過スベカラズ。若シ今宵中ニ之ガ結了ヲ見ザレバ、明日午前中ニ正式ノ交換ヲ執行スルヲ得ザルベシ。本大臣ハ明日午前中交換ヲ了リ、遅クモ午後一時マデニハ纜ヲ解テ旅順口ニ向ハンコトヲ欲ス。：：假ニ午後一時ニ解纜スルモノトセバ、(縷指ツ、)本大臣ノ乗船ハ明夜十一時ニアラザレバ旅順口ニ着到セザラン。本大臣ハ休戦期限内、成ルベク速ニ旅順口マデ兩國永遠平和ノ回復セラレタルノ報道ヲ齎シ、夫々軍隊ニ命令ヲ發スルニ付テノ訓命ヲモ帶ブルモノナルヲ以テ必ズ明日正午マデニハ一切ノ職務ヲ完結セザルベカラズ。

伍 閣下ガ批准交換ヲ急ガル、コト何故此ノ如ク切ナルカ。

伊東 屢々言ヘル如ク、兩國ノ休戦約條ハ明八日夜半ヲ以テ滿限トナレバ、永遠平和ノ回復セラレタルヲ各軍隊ニ通告スルニ足ルノ餘裕ヲ見込ミ、成ルベク速ニ永遠平和ノ回復ヲ立證スル批准交換ヲ執行セザレバ、假令此地ニ於テ交換ヲ行ヒタルモ、其事ヲ軍隊ニ通告スルノ猶豫ナキトキハ、遠隔ノ地ニ在ル兩國軍隊ノ間ニ何等ノ變故ヲ生ゼンモ知ルベカラズ。而シテ萬一此ノ如キコトアラバ、獨リ我國ノ不幸ノミナラズ、亦均シク貴國ノ不幸ナリ。是レ本大臣ガ批准交換ヲ以テ瞬刻モ遲タスベカラザル急務トスル所以ナリ。

伍 貴說一理アリト雖モ、明日中午一切ノ事ヲ結了セバ、敢テ晚キニアラザルベシ。

伊東 否、本大臣ガ批准交換ヲ旅順口ニ通報スルニハ、單ニ二様ノ方便ヲ有スルノミ。其一ハ當地ヨリ上海線ヲ經テ、東京若クハ京都ニ電報シ、更ニ旅順口ニ轉電セラル、モノニシテ、其時間ハ必ズ八九時間ヲ費サルヲ得ズ。又他ノ一ハ本大臣ガ乗船ヲ促シテ自ら旅順口ニ其報道ヲ齎スモノニシテ、是レ亦相均シキ時間ヲ要ストセバ、本大臣ハ午前中ニ正式ノ交換ヲ執行シ、遅クモ午後一時ニ解纜セザレバ、相當ノ時間内ニ於テ、旅順口ニ達スルヲ得ザルナリ。兩閣下幸ニ諒セヨ。

伍 能ク閣下ノ尊意ヲ了解セリ。

伊東 本大臣ノ實驗スル所ニ依レバ、京都ヨリ旅順口マデノ至急官報ニテモ、平均五六時間ヲ要スルモノト概算セザルベカラズ。其上當地ヨリ上海ヲ經由シテ、京都ニ達スルマデノ時間ヲ計算セバ、十分速達スルモノト假定スルモ、必ズ八九時間ヲ費スベシ。

伍 何故ニ京都ヲ經由セザルベカラザルカ。

伊東 京都ハ我 皇帝陛下ノ龍蹕ヲ駐メ玉フ所ナレバ、必ズ一切ノ事先ヅ京都ニ電報セザルヲ得ズ。其上京都ヨリ更ニ旅順口ヘ電報セラル、ナレバ、本大臣ガ前ニ云ヘル餘裕ハ是

非トモ見積ラザルヲ得ザルナリ。

伍 已ニ我皇帝陛下ノ批准ヲモ經タルナレバ、交換ハ形式上ノ手續ニ止リ、別ニ紛論アルベキ事由ナシ。

伊東 本大臣モ亦深ク貴説ノ如クナランコトヲ信ジテ疑ハズ。然レドモ公然ノ批准交換ヲ行ヒタル後ニアラザレバ、軍隊ニ向テ何等命令ヲ下スヲ得ズ。本大臣ハ既ニ旅順口ニ於テ貴國皇帝ノ批准ヲ經タルコトハ承知セシモ、未ダ交換執行セラレザル前ハ、素ヨリ官報ニ於テ發表スルヲ得ズ。又軍隊ニ對シテ何等ノ通報ヲ爲スコトヲ得ザルナリ。

伍 尊諭洵ニ然リ。

伊東 批准交換ヲ行ヒタル後ニアラザレバ、其條約ヲ公示セザルハ各國一般ノ事例ナリ。

伍 時トシテハ交換ヲ行フノ前ニ在テ其效果ヲ見ルコトアリ。

伊東 今回ノ平和條約ニ其ノ如キ異例ヲ以テ同一視スベカラズ。軍隊ニ向テノ命令ハ批准交換ヲ待テ發セラルベキモノニシテ、休戰條約ニ指定セル期限ノ猶十分ナル場合ニ於テハ、此ノ如ク交換ヲ急促スルヲ要セザルベシト雖モ、已ニ最終ノ時ニ迫リタレバ、遅クモ明日午前中ニハ執レカニ決定シテ、旅順口ニ歸ラザレバ、和戰就レニ決シタルカノ通報ヲ軍隊ニ與フルヲ得ザルヲ諒察セヨ。

伍 貴意領セリ。

伊東 博識老練ナル伍閣下ガ全權大臣トシテ此ニ來ラレタルナレバ、本大臣ハ必ず今宵ニ予準ノ手續ヲ結了スルノミナラズ、或ハ明日ノ日付ヲ以テ正式ノ交換マデモ行フ如キ敏捷ノ處置ヲ取ルヲ肯ゼラルベシト窃ニ信ジタリ。

伍 本日ハ此ノ如キ覺悟ヲ以テ參館シタルニアラザルヲ諒恕セラレタシ。批准交換ハ形式上ニ止マレバ、明日少時間ヲ以テ執行スルヲ得ベシ。

伊東 本大臣ハ素ヨリ貴意ノ在ル所ヲ疑ハズ。然レドモ豫備ノ手續ハ成ルベク前以テ決定スルヲ要ス。兩國全權大臣ノ職務ハ、單一ニ批准交換ノ事ニ止レバ、速ニ其職務ヲ全クシテ、兩國ノ永遠ノ平和ヲ回復スルニ盡力セザルベカラズ。

伍 閣下ハ今朝到着セラレタルニモ拘ラズ、速ニ上陸セラレザリシハ、何歟別ニ故障ニテモアリシヤ。

伊東 本大臣ハ此地ニ來着スルマデハ、何人ヲ以テ全權大臣トセラレタルカヲ承知セザルヲ以テ、午前八時半頃米國領事ヲ經由シテ、登岸會商ヲ要求スルコトニ關シ、照會ヲ道臺ニ發シタリ。然ルニ道臺ヨリハ午前二時頃マデ何等回答ニ接セズ。其事ハ盧永銘氏ガ來船セラレタル時ニ於テモ告ゲ、且同氏ヲ經テ道臺ノ回答ヲ促シタル程ナリ。而シテ二時過ニ

至リ、初メテ道臺ノ回答ヲ接受シ、其レヨリ急ニ上陸ノ準備ヲ促シタリ。

伍 (聯ト相顧ミテ) 其ハ案外ノ次第ナリ。必然何カ行違アラシ。

伊東 本大臣ハ一刻モ速ニ上陸會商センコトヲ欲シ、態々使ヲ米國領事ニ馳セ、又盧永銘氏ノ來訪ヲ便トシテ道臺ノ回答ヲ促シタルモ、何分何等回答ナキヲ以テ、上陸スルヲ得ザリシ。本大臣ハ何事カ貴方ノ都合ニ因ルコトナラント想像シ居タリ。

伍 余等ハ却テ何故閣下ガ速ニ上陸セラレザルカヲ怪シミタリ。然レドモ唯今上陸セラレ、急ニ余等ニ面晤ヲ求メラルト聞キ、匆忙駕ヲ促シテ訪問シタルニテ會見所ノ設備ノ如キ、劉道臺亦疾ク承知ノ筈ナリ。…回答ヲ遅延シタルハ不審ナリ。

伊東 本大臣ハ現ニ午後二時頃マデハ兩閣下ガ全權大臣タルコトヲ承知セザレバ、止ムヲ得ズ米國領事ヲ經テ劉道臺ニ照會シ、頸ヲ延テ其回答ノ至ルヲ待チタリ。本大臣ハ其漏刻ノ移ルヲ氣遣ヒ、米國領事代理ドンネリー氏ヲモ招キテ、道臺ノ回答ヲ催促セシメタリ。

伍 ドンネリー氏トハ閣下ノ乗船中ニ於テ面會セラレタルガ。
伊東 然リ。午前後兩度船中ニ於テ面會シタリ。

伍 ドンネリー氏が午前九時頃來訪シタル時、會見ハ準備シ置キタル場所ニテ差支ナキカ、又他ニ閣下ノ所望アルカ、時間ハ如何ニスベキカ、是レ等ノ點ニ付高教ヲ乞ヒ度キ旨、

同氏ニ傳言シ置キタリ。閣下承知セラレザリシカ。

伊東 ドンネリー氏ヨリモ其レ等ノコトニ付キ閣下ノ傳言ヲ承知セズ。但シ會見所ヲ準備セラレタルコト丈ハ私談中ニ之ヲ聞ケリ。兎ニ角伍大臣閣下ガ其全權タルヲ公然知ルコトヲ得タランニハ、本大臣ハ米國領事ヲ經由シテ、劉道臺ニ照會スルノ迂路ヲ取ラズシテ、直接照會セシナラン。本大臣ハ前ニモ述ル如ク、殆ンド午後二時半マデハ道臺ノ回答ヲ得ザリシヲ以テ、上陸スルノ機會ヲ有セザリキ。

伍 道臺ノ回答ノ遅延シタルハ如何ニモ不審ナリ。

伊東 貴國全權大臣ノ何人ナルカヲ知ラザル程ナレバ、米國領事ヲ經テ道臺ニ照會シ、公然其回答ヲ待テ進止ヲ定ムルハ本大臣ノ地位ニ於テ當然ナルヲ信ズ。

伍 閣下ハ此所ニ來着セラル、マデ余等ノ任命ヲ受ケシヲ知ラザリシカ。

伊東 然リ。閣下ガ全權大臣タルヲ知ラバ、本大臣ハ舊識タル閣下ヲ外ニシテ、道臺へ公然ノ照會ヲ爲シ、徒ニ其回答ヲ待ツコトヲセンヤ。

伍 盧永銘ヨリ暗號電信送達ノ事ニ付、閣下ノ御請求ニ對シ、速ニ應諾ノ意ヲ表シ置キタレバ、閣下ハ既ニ之ヲ承知セラレタルコトヲ信ズ。

伊東 本大臣ノ請求ヲ應諾セラレタルコトヲ承知セリ。又同時ニ盧永銘氏ヨリ道臺ノ回答ヲ受

取り、且兩閣下ガ換約全權大臣トシテ欽差セラレタルコトヲモ公然聞知シタルニ由リ、本大臣ハ今夕中ニ豫備ノ手續ヲ結了センコトヲ欲ス。幸ニ兩閣下ニ於テ同意セラル、ナラバ直ニ上陸會商セント盧永銘氏ニ向ヒ傳言ヲ囑託シタルニ盧氏之ヲ承諾シ、兩閣下ニ傳言ノ上、更ニ其返答ヲ致スベシト約シテ去レリ。

伍 盧永銘ハ其返答ヲ齎シタルカ。

伊東 然リ。本大臣ハ其返答ヲ得、五分時間以内ニ於テ準備ヲ整へ、小輪船ニ迎ヘラレテ上陸シタリ。

伍 電信ニ暗號ヲ用キラル、コトハ改メテ此ニ承諾ノ旨ヲ言明ス。

伊東 幸ニ承諾ヲ得便宜多シ。：：又此ノ如ク萬事鄭重ニ接迎セラル、ハ本大臣ノ深謝スル所ナリ。

伍 護衛兵モ付シアレバ幸ニ貴意安ンゼラレタシ。

伊東 途上警戒ノ嚴重ナルハ、親ク目撃スル所、本大臣ハ其注意周到ナルヲ謝ス。：：朝來往復ノ行違ナカリシナラバ、午後十時頃ニハ上陸會晤スルヲ得タリシナラン。

伍 想フニドンネリー氏ガ誤解シタルナルベシ。

伊東 ドンネリー氏ヨリ會見所ノ設備アルコトハ其私談中ニ之ヲ聞ケルモ、同氏ノ來船セルハ

兩閣下ヨリノ使命ヲ齎シタルモノナリトハ承知セザリシ。

伍 ドンネリー氏ノ誤解ニ職由スベシ。余等ハ閣下ヨリノ返答ヲ待チタルモ其事ナカリシカバ、別ニ事故アリテノ事ナラント想像シ却テ怪シミ居タリキ。

伊東 本大臣ハ只今述ブルガ如ク、凡ソ公然ノ回答ヲ得ルニ及ンデ、僅ニ五分時間内ニ於テ準備ヲ整へ、必要ノ書類ノミヲ携ヘテ上陸シタリ。

伍 使事了リタル後ハ當地ノ近傍ヲ遊覽セラレテハ如何。

伊東 此地ハ十年前ニ於テ一過シタルモ、未ダ山水ノ勝ヲ探ルニ暇アラザリシヲ以テ、一兩日ノ客遊ハ尤モ本大臣ノ希望スルト雖モ、如何セン此地ト旅順口トノ間、他ニ通信ノ道ナキヲ以テ、本大臣ハ使事了ルヤ否ヤ、直ニ其平和克復ノ詳報ヲ齎シテ旅順口ニ届ケ、之ヲ軍隊ニ傳フルノ手段ヲ取ラザルベカラザルニ由リ、今回交換執行次第、一刻モ速カニ旅順口ニ向ハンコトヲ欲ス。成ルベクハ明日午前中ニモ解纜シタシ。

伍 閣下ガ交換執行ノ報知ヲ齎サル、ハ旅順口ニ限ル乎。

伊東 當地ヨリスレバ旅順口ハ我軍隊ノ駐在スル最近ノ地ニシテ、各軍隊ヘノ命令ハ旅順口ヨリ發スルノ便アリ。本大臣ハ交換行フノ後ハ、其報知ヲ在旅順口我軍隊ニ告知スルノ命ヲモ受ケ居レリ。若シ即時直接ニ軍隊ヘ命令ヲ下スノ道アリト假定セバ、批准交換ハ明

夜半マデニ結局セバ差支ナシト雖モ、當然要スベキ時間ヲ計算セバ、實ニ一瞬時ヲモ争ハザルヲ得ズ。

伍 當地ヨリ旅順口マデ船便ヲ以テ報知スルコト、セバ凡ソ何時間ヲ費サバルベカラザルカ

伊東 先ヅ十分ニ見積ラバ十時間ヲ要スベシ。

伍 否、其ハ多ク見積リ過ギタラン。

伊東 芝罘旅順間ハ八十哩ト聞ク。而シテ本大臣ノ乗船ノ速力十節ニ過ギザレバ、十時間ト見積ルハ決シテ過多ニアラズ。但シ中途多少速力ヲ増スコトアリトスルモ、兩港ノ出入ノ爲ニ案外時間ヲ費サバルベカラザルヲ以テ、當地ノ埠頭ヲ離ル、トキヨリ旅順口ニ着岸スルマデニハ必ず十時間ヲ要スベシ。

伍 凡ソ五時間アラバ容易ニ旅順口ニ達スベシ。

伊東 水雷艇ナラバ貴説ノ如ク僅ニ五時間ニテ達スベシト雖モ、通常運送船ニ在テハ八時間ニテ航行シ得ルモ、只今述ブル如ク双方港灣出入ノ爲メニ二時間ヲ費スモノト假定セザルヲ得ザレバ、十時間ハ決シテ多キニ過ギズト愚考ス。

伍 兎ニ角十時間ハ過多ナリ。

伊東 旅順口マデハ軍艦ニ駕シテ來リタルモ、本大臣ノ使命ハ兩國平和ノ回復ノ爲メナレバ、軍艦ヲ乘リ入レテ耳目ヲ驚カサンヨリハ、寧ロ速力少キモ運送船ニ搭ズルニ如カズト思考シ旅順口ヨリ横濱丸ニ移リタリ。

伍 横濱丸ノ速力ハ幾許カ。

伊東 唯今モ述ブル如ク先ヅ十節ナリ。

伍 當旅館ハ貴意ニ適スルヤ否。

伊東 最モ好適ナリ：本大臣ハ今夜乗船ニ歸泊センコトヲ欲スルモ、若シ幸ニ兩閣下ニ於テ今宵中ニ豫備ノ手續ヲ結了スルコトヲ承諾セラル、ナラバ、此所ニ止マルベシ。本大臣ハ今夕食ノ後兩閣下ヲ居館ニ訪フモ可ナリ。明日ハ唯ダ正式ノ交換ヲ行フマデニ總テノ豫備ノ手續ヲ盡シ置カンコトヲ望ム。

伍 豫備ノ手續モ明朝ニ於テセバ可ナラン。如何。

伊東 否、明朝豫備ノ手續ヲ爲サバ或ハ書類ニ少許ノ異同生ゼンニ、改寫等ノ煩アリテ午後ニ跨ルベキハ必然ナリ。其批准交換ノ凝滞ナク執行セラルベキハ本大臣敢テ之ヲ疑ハズト雖モ、己ニ兩國皇帝陛下ニ於テ批准セラレタルモノハ、速ニ其交換ヲ執行シ、永ク兩國ノ平和ヲ克復スル爲ニ、全心全力ヲ盡スベキハ應ニ文官タル兩國全權大臣ノ任務タルベシ。休戰條約ニ據ル一時ノ休戰ト、平和回復セラレテ永ク鋒鏑ヲ收ムルトハ、固ヨリ同

日ノ論ニアラザルヲ念ハレ、兩閣下ニ於テモ速ニ本大臣ノ言フ所ニ同意セラレンコトヲ冀望ス。

伍 貴意間然スル所ナシ。然レドモ今ハ己ニ遅キヲ以テ明朝ニ讓ラバ如何。

伊東 今貴覽ニ供シタル書面ノ言句ハ、各國既ニ例アリ。伍大臣閣下一閱セラル、ナラバ直ニ了知セラルベシ。亦何ソ考案ヲ費スヲ要センヤ。

伍 署名銘印ハ貳通トモスルカ。

伊東 然リ。互ニ二通ヅ、署名銘印シテ交換スルナリ。固ヨリ其書面ハ異論ノ種子トナルベキモノナキ各國成例アルノ文章ナレバ、事務ノ進涉ノ爲メ悉皆調整シ置キタリ。

伍 署名銘印丈ナラバ猶更明朝ニテ可ナラン。

伊東 通常ノ手續ヨリ云ハ、今本大臣ノ全權委任狀ヲ兩閣下ニ示シタルヲ以テ、同時ニ兩閣下ノ全權委任狀ヲ査閲シ、其完全ナルヲ認メテ後商議ヲ開始セザルベカラズト雖モ、本大臣ハ兩閣下ヲ信ズルコト殊ニ厚キヲ以テ、其全權委任狀ノ照會ノ如キハ之ヲ後ニ讓リ、専ラ意ヲ事務ノ進涉ニ用キントス。兩閣下若シ今宵全權委任狀ヲ示サル、ナラバ、本大臣ハ同時ニ其帶有スル所ノ全權委任狀ノ漢譯ヲ兩閣下ニ致スベシ。

伍 貴意ヲ領ス。

伊東 本大臣ハ兩閣下ヲ信ズルコト深厚ナルヲ以テ、全權委任狀ノ照合ヨリスル普通ノ順序ヲ略シ、専ラ事務ノ進涉ニ期セントス。幸ニ今宵中ニ委任狀ノ互換丈ケヲモ結了スルヲ得バ双方ノ爲メ至便トス。若シ其文言中互ニ多少ノ異論ヲ生ズルガ如キコトアラバ、事務上ニ沮滯ヲ來スノ虞アルヲ以テ、本大臣ハ之ガ爲ニ兩閣下ノ在所ニ往訪スルヲ辭セズ。而シテ委任狀交換ヲ了ラバ其事丈ケヲモ本國政府ニ電報シ置キタシ。此ノ如ク今宵中ニ豫備ノ手續ヲ結了スルヲ得バ、本書ノ交換ハ明朝九時頃ヨリ爲スヲ得ベシト信ズ。

(此時伍聯密晤ス)

伍 本國政府ヘ電報スト云ハル、ハ京都ヘ向ケ電報セラル、ノ意カ。

伊東 然リ。今宵進涉セル事項丈ケヲ本國政府ニ電報シ置カバ多少安意スベシト思考ス。

伍 然ラバ閣下ハ余等ノ居處ニ枉駕セラル、カ……一時間後ニテハ如何。實ハ余等未ダ夕食ヲモ終ラザレバ……定メテ閣下モ同様ナラン。

伊東 承知セリ。本大臣等ハ兩國永遠ノ平和ノ爲メナレバ、假令一食ヲ廢スルモ何事カアラン。

伍 兎ニ角食後九時ヨリ會同スルコトトセンカ。

伊東 然ラバ九時ヲ期シテ參堂セン。

伍 拜承セリ……何事ニ拘ラズ不自由アラバ遠慮ナク告ゲラレタシ。

伊東 今朝來ノ行違ナケレバ、只今ニ至リ此ノ如ク急遽ニ商議スルヲ要セザリシナラン。
伍 實ニ然リ。

(談判此ニ終ル、時正ニ八時)

芝罘談判記要

第二

(第二回) 五月七日午後九時三十分公署廣仁堂ニ於テ

出席者

全權辦理大臣	伊東 己代治
隨員	龍 居 頼 三
同上	佐 藤 顯 理
同上	檜 原 陳 政
換約全權大臣	伍 廷 芳
同上	聯 芳

(互ニ禮畢リ着席ノ後伊東全權辦理大臣ヨリ批准書ノ漢譯ヲ示サレ伍聯兩全權大臣ヨリモ全權委任狀ヲ示シ彼レノ承諾ヲ得テ檜原陳政之ヲ膽寫ス)

伊東 本大臣ノ全權委任狀ハ即チ過般下ノ關談判ノ時ニ於ケル伊藤陸奧兩大臣ニ付與セラレタルモノト殆ド同一ニシテ、其官名亦異同ナシ。

伍 承知セリ。閣下ニ對スル貴國皇帝陛下ノ御信任ノ厚キヲ恐賀ス。

伊東 今回ノ批准交換ニ付テハ、我 皇帝陛下ハ殊ニ重キヲ置キ玉ヘリ。

伍 我皇帝陛下亦均シク此事ニ重キヲ置キ玉ヘルハ、余等二人ヲ以テ全權大臣トセラレタルニテモ明白ナリ。假令其方途ハ異ナルモ、其目的ニ於テハ同一ナリ：：尙ホ他ノ一證ハ總理衙門ヨリ特ニ批准互換ニ用キル爲ニ印章ヲ製シテ本大臣等ニ付與セラレタルニテ愈々明白トス。

(此時伍全權大臣ハ「大清欽差換約全權大臣關防」ト刻セル印ヲ伊東全權辦理大臣ニ示ス) 此印ハ批准交換ニ用キル爲ニ、特ニ彫刻付與セラレタルナレバ、其事終ルニ於テハ直ニ本大臣等ヨリ我皇帝陛下ニ返上スベキモノナリ：：書面ノミヲ以テ足レリトセズ。特ニ此印ヲ授ケラレタルナレバ、我皇帝陛下ノ換約ニ重キヲ置キ玉ヘルヲ諒察セラレタシ。

伊東 明日批准本書ヲ携帶スベシ：：本書ハ式ニ從ヒ尤モ鄭重ナル小箱ニ藏メアリ。明日本書ヲ互換スル時、兩閣下ノ全權委任狀ヲモ交換スルコト、セン。
伍 拜承。

伊東 今宵ハ單ニ兩閣下ノ全權委任狀ノ贖本ヲ受取ルベシ。

伍 閣下ハ本大臣ノ委任狀ヲ以テ満足セラレタルカ。

伊東 未ダ十分査閲セズ：「聽候諭旨」トアルハ更ニ經伺スベシトノ意カ。

伍 其ハ本大臣等ニ對シテノミノ命令ナリ。

伊東 然ラバ一應經伺セザレバ交換執行スルヲ得ラレザルカ。

伍 否、本大臣等ニ任ズルニ換約ノ全權ヲ以テセラレタルナレバ、若シ本大臣等ニ過失アラ

バ我皇帝陛下ハ本大臣等ヲ譴責シ玉フニ止マリ、敢テ外ニ涉ルコトナシ。

伊東 下ノ關談判ノ時ノ全權委任狀ハ之レヨリモ十分ナリシ。今兩閣下ノ帶有セラル、モノニ付テハ、少ク考慮スル所アリト雖モ暫ク言ハズ。

伍 然レドモ特ニ換約全權大臣ノ印章ヲ鈐用スルナレバ十分ニアラズヤ。

伊東 全權委任狀中ノ印章ノ意義ヲ尙ホ明白ニ加フルヲ當然トスト雖モ、本大臣ハ事ノ速決ヲ尙ビ、其レ等ノ點ハ責任ヲ負フテ敢テ異論セザルベシ。

伍 貴意ヲ領ス。

伊東 唯今貴覽ニ供シタルモノハ即チ批准書ノ漢譯ナリ。(全權委任狀ノ漢譯ヲ伍聯兩全權大臣ニ示シツ、)

是ハ本大臣ニ付與セラレタル全權委任狀ノ漢譯ナリ：批准ハ和約及別約包含セラレタルモノナリ。

伍 我國ノ例ハ單ニ國璽ヲ鈴スルニ止マリ、所謂批准書ナルモノナシ。

伊東 貴國ニ於テハ批准ヲ證スルニ唯ダ國璽ノミヲ以テセラル、カ。

伍 然リ閣下ハ前例ヲ熟知セラレン。唯ダ「皇帝之寶」ノ印璽アルノミ。其事ハ貴我兩國間ノ舊條約ヲ一閱セラル、モ立ドコロニ判明スベシ。

伊東 批准交換ハ即チ君主ノ御筆批准アル本書ヲ交換スルモノニシテ、各國共ニ同一ノ例ニ從フナレバ、貴國ト雖モ常規ノ外ニ踰逸セラレザルベシト信ゼリ。

伍 否、各國ニ在テハ貴説ノ如シト雖モ、我國ハ如何ナル場合ニ於テモ國璽ヲ鈴スルノミ。

伊東 批准交換ノ時ハ必ず批准書アリテ更ニ印璽ヲ鈴スルハ一般ノ通例ナリ：参考ノ爲メ貴國皇帝ノ批准ヲ經タル本書ヲ一閱スルヲ許サレザルカ。

伍 本書ハ特別ニ保管スルノ官吏アリテ、嚴重鎖鑰ヲ施シ、且今其人不在ナレバ目下貴覽ニ供スルヲ得ズ。

伊東 貴國皇帝陛下ハ條約ヲ批准セラレタルニ付特ニ勅令ニテモ發セラレタルカ。

伍 否、勅令ハ發セラレズ。然レドモ軍機大臣ヨリ天津ナル李鴻章ノ許へ批准ヲ經タル旨電

アリタリ：李鴻章ヨリ伊藤伯へ電報セザリシカ。

伊東 李伯ヨリ伊藤伯へ電報アリシコトハ、既ニ旅順ニ繫泊中ニ本國政府ノ通報ヲ得タリ。

伍 (一書ヲ開示シツ) 此書ハ我皇帝陛下ヨリ李鴻章ニ下付セラレタル批准文トシテ見ルベキモノナリ。

伊東 此文書ハ李鴻章へノ訓令ナルガ如シ。批准書ハ必ず「朕下ノ關ニ於テ締結調印シタル和約及別約ヲ嘉納ス」ト云フノ意義ヲ以テスベキモノナリ。

伍 否、李鴻章へノ訓令ニアラズ却テ李鴻章ノ奏聞スル所ヲ聽許セラレタルノ書面ナリ。(此ノ時伍全權大臣ハ來書ヲ接手シ、伊東全權辦理大臣ノ許諾ヲ得テ暫ク缺席ス)

聯 此書面中ノ「依議」ノ二字ハ即チ批准ト同義ナリ。

伊東 批准書ニハ必ず「下ノ關係約ヲ以テ満足ス」トノ文字ナカルベカラズ。

聯 然リ「依議」ノ字ハ其奏スル所ノモノニ照シテ嘉納スルノ義ニ當レバ即チ批准ノ意ナリ。

(此時伍全權大臣復席ス)

伊東 此書面ハ何分下ノ關係約ヲ批准セラレタルモノト思ハレズ如何。

伍 兎ニ角我國璽ノ鈴シタルモノヲ一覽セラルルニ於テ、定メテ満足ナルベシ：但シ後文ニ付テハ多少ノ異議アルカ。

伊東 然リ。後文ニ付テモ異議アリ。

伍 異議ノ點ハ俄法德三國云々ニアルカ。

伊東 最モ然リ。

伍 三國ヨリ平和條約ニ關シ貴國政府ニ提議スル所アリシカ。

伊東 假令ヒ三國ノ提議アリトスルモ、批准交換ト何ノ干涉スル所ナシ。若シ三國提議ノ結果

ヨリシテ貴我兩國政府ノ間ニ更ニ商議ヲ要求スルコトアリトスルモ、其事ハ自ラ別問題

ニ屬シ、本大臣ノ使命ハ單ニ下ノ關ニ於テ締結調印セラレタル條約ノ批准ヲ交換スルニ

外ナラズ。其他ニ涉リテ商議スルハ本大臣委任ノ範圍ヲ踰越スルモノナリ。故ニ本大臣

ハ此書面ニシテ三國云々以下ヲ除カバ、他ノ細故ニ拘ラズ満足セントス。

伍 此書面ハ皇帝陛下ヨリ下サレタルモノナレバ恣ニ加筆スルヲ得ズ。

伊東 其全文ノ儘ニテハ本大臣之ヲ受領スルコトヲ得ズ。然レバ到底批准交換ノ任務ヲ完クス

ルコト能ハザリナリ。

伍 其事ニ付テハ既ニ李伯ヨリ伊藤伯ニ電報シ、伊藤伯ヨリモ返電アリタルコトハ閣下了知

セラレザルカ。

伊東 假令伊藤伯ト李伯トノ間ニ何等ノ交通アルモ、本大臣ノ使命ハ單純ニ下ノ關係約ノ批准

ヲ交換スルノ一事ニシテ、若シ三國提議ノ結果トシテ、日清兩國間ニ新ニ商議スルニ至

ルモ、素ヨリ別事ニ屬シ、本大臣ノ使命ニ關スル事項ト混同セラルルニ於テハ、到座批

准交換ヲ行フコトヲ得ザルベシ。批准交換果シテ行ハレザランカ。兩國間ノ戰爭止息ス

ベカラズ。仍テ本大臣ハ下ノ關係約ハ其儘ニ批准交換ヲ行ヒ、其他ニ涉リテハ別ニ議ス

ベキ事アラバ、宜ク異日兩國間ニ商議スベキモノナリト思考ス。

伍 貴説詢ニ然リ。然レドモ清國政府ハ如何ナル地位ニアルカヲ閣下ハ知ラルルカ。

伊東 貴國政府ガ如何ナル地位ニアルニモセヨ。本大臣ノ使命ハ下ノ關係約ヲ其儘ニ批准交換

スルニ在リ。三國ノ關係ヨリシテ更ニ兩國間ニ商議スルコトニ付テハ、本大臣ハ何等權

限ヲ有セズ。仍テ三國云々以下ハ本大臣ニ於テ飽マデ承認スルヲ得ザル所ナリ。若シ事

ノ進涉ヲ尙ブナラバ、此レ等ノ文字ハ寧ロ本大臣ニ示サバ爾ヲ可トス。

伍 閣下ハ全權ヲ帶有セラルルヲ以テ貴閣ニ供シタルナリ。

伊東 本大臣ノ全權ハ批准ニ付テノ全權ナリ。故ニ條約ハ條約トシテ其儘ニ批准交換セラルル

ヲ捷徑ナリト信ズ。

伍 條約ハ其儘批准スルモ、將來更ニ會商ヲ要スベキモノニ付テハ別ニ文書ヲ以テ閣下マデ

通知スルコトトセバ如何。

伊東

本大臣ノ委任權限ハ屢々述ブルガ如ク、下ノ關係約ヲ其儘批准交換スルニ在レバ、苟モ其他ニ渉ルモノハ、本大臣ノ權限以外ナルコトヲ諒知セラレタシ。此事本大臣ノ地位ヨリ然ラザルヲ得ザルハ貴國政府モ熟知シ居ラルベキ筈ナリ。仍テ下ノ關係約ノ批准交換以外ニ涉リテ、我政府ニ向ヒ議スベキコトアラバ、更ニ相當ノ手段ヲ取ラルルヲ當然トス。

伍

若シ三國政府ヨリ貴國政府ニ迫リ、條約變更ヲ求ムルトキハ閣下ハ如何セントスルカ。

伊東

我政府ノ諾否如何ニ依リテ相當ノ處置ヲ取ラルルコトナラン。本大臣ハ御筆批准ノ事ニ付テハ一ノ意見ヲ提出セン。乃チ兩閣下ノ言ハルル如ク、批准書ヲ付セズシテ單ニ國璽ヲ鈴スルヲ以テ貴國ノ例ナルニ於テハ、別ニ兩閣下ヨリ公然ノ照會ヲ發シ、以テ批准ヲ立證セラレテハ如何。然ラバ種々法理上ノ問題ヲ生セズシテ圓滑ニ進涉スベキナリ。本大臣ハ果シテ三國ヨリ如何ナル提議アリ、如何ナル返答ヲ我政府ヨリ三國ニ與ヘタルカハ素ヨリ本大臣關知スル所ニ非ズ。今ノ時ニ當リ飽マデ其事ヲ主張セラル、ナラバ、批准交換行ハレ難クシテ、兩國ノ交戦止息スル時ナキヲ諒察セヨ。

(此時侍者伍全權大臣ニ電文ヲ與ス。按ズルニ伍ガ前ニ缺席セシハ此電文ヲ譯サシムル爲メナリシナラン)

伍

唯今接手シタル電訓ニハ俄國政府ハ批准交換並ニ休戦ノ期ヲ遷延スベキコトヲ日本政府

ニ要求シ、米國公使コロネルデンビーモ亦其事ヲ日本政府ニ電報シタリ。我總理衙門ハ現休戦期ノ滿ル前ニ、日本政府ノ返答ニ接スルコト能ハザル、ヲ恐ルニ由リ、其地ニ在ル日本全權辦理大臣ニ依頼シテ、日本政府ニ其事ヲ電報セシムベシ。三國ノ干涉ニ由リ、日本政府ハ批准交換ノ期ヲ猶豫センコトヲ希望ストアリ。事情此ノ如クナレバ、日本政府ハ既ニ承諾ヲ與ヘラレタルナラント信ズ。然ラバ今直ニ批准交換ヲ執行スルモ、直チニ其條約中ノ條項ノ變更ヲ來シ、却テ兩國ノ體面ニ關係スルモノアレバ、暫ク見合スノ外ナカルベシ。閣下ニ於テモ貴國政府ニ打電シ、實否問合サレンコト本大臣等ノ殊ニ切望スル所ナリ。

伊東

貴說ノ如クナラバ、本國政府ヨリ本大臣ヘ特ニ訓令アルベキ筈ナルニ、今ニ至ルマデ然ルコトナシ。又俄國政府ノ提議ナルモノアラバ、我政府ニ於テハ俄國政府ニ對シ應答スル所アルベシ。本大臣既ニ使命ヲ奉ジテ此地ニ來ル。俄國政府ノ提議ト批准交換トハ何ノ關涉スル所ナキヲ諒知セラレタシ。尙ホ他ニ一考ヲ要スベキハ、休戦條約ハ明夜半ヲ以テ滿限トナルコトナリ。是ハ俄國政府ニ於テモ知ラザル筈ナケレバ、我國ヨリ批准交換ノ延期ヲ申入ル、ハ其故ナキヲ信ズ。本大臣ハ閣下ガ接手セラレタル電文ヲ疑フモノニアラズト雖モ、前後ノ情勢ヨリ推考スルニ於テ、我國ガ此ノ如キ請求ヲ爲スノ甚ダ謂レ

ナキヲ知ル。

伍 閣下何日ヲ以テ貴國ヲ出發セラレタルカ。

伊東 本大臣ハ二日宇品ヲ發シ、途ニ旅順ニ寄り、滯留二日ニシテ十分我政府ト交通シタル後六日夜此地ニ向ヘリ。

伍 我國政府ヨリ北京政府ニ向ヒ、批准交換ハ暫ク延期スベシト通告シ、在北京米國公使コロネル、デンビー氏ヨリ貴國政府ニ通ズルニ此事ヲ以テシタリ。批准交換ハ兩國全權大臣ノ任務ナレバ、獨リ閣下ノミナラズ、本大臣亦速ニ之ヲ完結センコトヲ欲スルモ、己ニ北京ヨリ此ノ如キ電訓ヲ得タル以上ハ如何トモスベカラズ。尙ホ此訓電ニ依レバ此事ニ關シ十分閣下ト商議スベシトノコトナリ。

伊東 延期ノコトハ前キニ一タビ李伯ヨリ伊藤伯ヘ請求アリシヤニ承知スルモ、己ニ當時伊藤伯ハ之ヲ謝絶シ、且今日ノ要ハ唯タ速ニ下ノ關係約ヲ其儘ニ批准交換シ、隨テ兩國兵ヲ解テ平和ノ收局ヲ結ブニ在リトノ意ヲ以テ、李伯亦之ニ同意セラレタリト云フコトヲ聞ケリ。故ニ我國ガ明日休戦ノ期滿ツルヲ知リナガラ、批准交換ノ延期ヲ申入レタリトハ本大臣ノ信ズル能ハザル所ナリ。然レドモ貴囑ニ應ジ閣下等ノ言説ヲ報道スル爲、一應本國政府ニ打電スベシト雖モ、本大臣ハ更ニ我政府ニ對シ何等訓令ヲ請フガ爲ニ非ズ。

明朝ニ至ルマデ何等返電ナキニ於テハ、本大臣ハ過刻來請求シタル通りニ、明朝交換ノ實行ヲ閣下等ニ求メザルヲ得ズ。

(此時伍全權大臣ハ伊東辨理大臣ノ求メニ應ジテ訓電文ヲ一讀ス)

伍 此ノ如キ訓電ヲ得タル以上ハ本大臣等ニ於テモ迷惑至極ナリ。

伊東 果シテ此ノ如キ事實アラバ、是非トモ本國政府ヨリ急電アルベキ筈ナリ。然ルニ此電文中第一ノ不審ハ休戦ハ兩國全權大臣ノ會商ヲ經ザレバ成立スベカラザルモノナルニ、敢テ其事ヲ言ハザルコトナリ。貴國政府ハ本大臣トノ間ニ於テモ休戦ヲ延期シ得ベシト思惟セラル、モ知ルベカラズト雖モ、本大臣ノ帶ブル所ハ單ニ批准ノ交換ニ止ルヲ以テ、目下ノ場合ニ於テ休戦延期ノ成立スベキ經路ナシ。

伍 然レドモ我政府ヨリ請求シ、貴國政府許諾セラル、ニ於テハ成立スベキニアラズヤ。

伊東 兩國政府ガ會同スルノ經路ナリ、隨テ立約ノ方便ナキトキハ如何、一タビ其期滿ツルニ於テハ兩國ノ關係此ニ絶ユベシ。

伍 兩國政府間ニ於テ電信往復セバ自ラ延期ノ効力ヲ生ズルコト、思考ス。

伊東 本大臣ハ電信ノ往復ヲ以テ成約ノ効アルモノト同一視スルコトヲ得ズト信ズルモノナリト雖モ、固ト使命ノ外ニ涉レバ、更ニ論議スルノ權能ヲ有セズ。此事ハ素ヨリ本大臣等

ノ議スベキ適當ノ問題ニ非ズ。本大臣ハ十分兩閣下ノ困難ナル地位ニ居ラル、ヲ推察シ、貴需ニ應ジ、一面我政府ニ向テ照會スベシト雖モ、他ノ一面ニ於テハ、必ズ明日批准交換スルコトヲ期シ、豫備ノ手續丈ケハ悉ク今宵中ニ終了センコトヲ望ム。

伍 豫備ノ手續ヲ盡スコト敢テ異議ナシト雖モ、既ニ此ノ如キ訓電ヲ得タル以上ハ、追テ更ニ訓令セラル、マデハ、其他ニ渉ルヲ得ザルコトハ諒察セラレタシ。

伊東 本大臣ハ今宵我政府ニ向テ一應照會スベキモ、豫備ノ手續丈ケハ盡シ置カザルベカラズ。尤モ兩閣下ガ新ニ訓令ヲ受ルマデハ、交換ヲ執行スルヲ得ズト云ハル、ヲ諒スト雖モ、何時ニテモ交換執行ニ差支ナキマデニ、準備シ置クコトハ、即チ兩國全權大臣ノ刻下ノ任務ナリ。

伍 準備ノコトハ貴説ニ同意スベシト雖モ、既ニ「コロネル、デンビー氏」ヨリ貴國政府ニ電知シタリト云ヘバ、閣下ヨリモ至急照ノ電報ヲ發セラレタシ。本大臣等ハ更ニ訓令ヲ得バ何時ニテモ直ニ其任務ヲ果スコトヲ得ン。

伊東 然リ豫備ノ手續中ニ於テ、更ニ明日批准交換スベシトノ命令アランモ知ルベカラザレバ兎ニ角明日交換スルモノトシテ當然盡スベキノ事務ハ引續キ進行セザルベカラズ。
伍 素ヨリ批准交換ハ本大臣等ノ希望スル所ナレバ、速ニ交換スベシトノ命令ニ接セバ、直

ニ閣下ニ通知スベキコトヲ約ス。

伊東 我 皇帝陛下ヨリハ批准書ヲ付セラレタルニ、貴國皇帝陛下ヨリハ是ヲ付セラレズ。形式上其宜ヲ失フノ嫌アレバ貴國ヨリハ外交的公文ヲ發シ單ニ國璽ヲ鈐用セルノミナルモ正ニ批准ヲ經タルコトヲ明白表彰セラレタシ。

伍 承知セリ。
伊東 本大臣ヨリ法理上ノ問題ヲ提出セバ、決シテ僅少ニアラズト雖モ、外交的公文ヲ以テ貴國皇帝陛下ガ批准セラレタルコトヲ證言セラル、ニ於テハ、本大臣ハ責任ヲ負フテ之ニ満足シ、瞬刻モ早ク其局ヲ結バンコトヲ望ム。

伍 盛意威佩ス。

伊東 伍大臣閣下ハ久ク英國ノ法學院ニ修業セラレタルナレバ、本大臣ガ更メテ喋々セザルモ、本大臣ガ凡ソ如何ナル問題ヲ提起シ得ベキカ、又何ノ點ガ其當ヲ得ザルカハ熟知セラレシ。然レドモ本大臣ハ務メテ細故ノ爲ニ事體ノ困難ニ陥ルヲ遅ケ、苟モ力ノ及ブ限りハ、責任ヲ負フテ圓滑ニ大事ノ結局ヲ見ントスルニ殷切ナルヲ諒セヨ。

伍 閣下ノ厚意眞ニ謝スル所ヲ知ラズト雖モ、清國ハ歐洲ノ常規ヲ以テ律スルベカラザル特別ノ國柄ナルヲ推察セラレタシ。歐洲ニ於テ容易ニ行ハルベキコトニシテ、清國ニ於テ

行ハレ難キコトノ多々ナルハ(檜原ヲ顧ミテ)多年我國ニ客遊シテ、其習致ニ通曉セル
檜原氏ノ熟知セラル、所ナリ。

伊東 批准交換證書ニ付テハ異議ナキカ。

伍 格別異議ナシ。

伊東 本大臣ハ成ルベク小事ノ爲ニ阻滯ヲ避クベキヲ以テ、閣下ニ於テモ十分同様ノ意見ヲ懷
テ事ニ當ラレタシ。

伍 勿論同感ナリ。

伊東 畢竟英譯ノ意義ニ外ナラズ：追テ唯今ノ訓電ヲ打消スベキ訓電來ルカ、又ハ直チニ交
換ヲ執行シ得ベキ場合ニ臨マバ、閣下ガ現ニ進行スル所ノ豫備ノ手續ニ對シ、全然同意
ヲ表セラルルカ。

伍 交換執行ノ命令ヲ得バ、刻下ノ豫備手續ヲ以テ直ニ交換ヲ行フヲ得ルカト問ハルルカ。

伊東 然リ唯今マデ取極メ來リタル手續ヲ以テ、何時ニテモ交換ヲ執行スルヲ肯ゼラル、カ、
念ノ爲メ一應承リタシ。

伍 大體異論ナキモ、愈々交換ノ場合ニ際シテハ、照會文ヲ閣下ニ送ルコトヲ必要トスルモ
ノアラン：我政府ハ必ず其事ヲ命ズベシト思考ス。

伊東 貴説ノ所謂三國ノ提議ニ關スル照會文ナラバ、即チ本大臣權限ノ外ニ涉ルヲ以テ、本大
臣ハ之ヲ受領スルヲ得ザルコトヲ豫メ此ニ明言ス。但シ李伯ト伊藤伯トノ間ニハ直接交
通ノ道アルヲ以テ、李伯ヨリ別ニ伊藤伯ヘ文通セラルレバ可ナリ。兩閣下ニ於テモ能ク
本大臣ノ地位ヲ察シ、徒ニ事端ヲ滋スヲ避ケラレンコトヲ深ク希望ス。

伍 了解セリ。

伊東 批准證言ノ公文ハ、明朝マデニ本大臣立案シテ兩閣下ノ意見ヲ叩カン。尤モ十分兩閣下
ノ地位ヲ察シ、兩閣下ニ於テ同意シ能ハザル如キ案文ハ提出セズ。此事ハ豫メ兩閣下ニ
於テ諒察セラレタシ。

伍 寧ロ本大臣等ニ一任セラレテハ如何。

伊東 急ニ交換執行スル時ニ際シ不都合ナキ爲ニ準備シ置マデナレバ安意アレ(微笑シツ、)
半バ兩閣下ノ書記官ノ勞ヲ省ク爲ニ(交換證書ノ漢文ヲ指シ)是等ノ書類ヲモ調整シ置
キタリ。

(伍聯兩權大臣ハ交換證書和文ノ冒頭ニ「下名」トアルノ義ヲ疑ヒ、伊東全權辦理大臣
ハ「undersigned」ナリト説明シ、交換證書和漢文及英譯ヲ伍全權大臣ノ手ニ止メ、批准
書委任狀ノ漢譯ハ伊東全權辦理大臣再ビ懷ニセラル)

伊東 兩國全權辦理大臣が樽俎折衝幾辛苦ノ結果タル平和條約ヲ實際ニ有効ナラシメ、一刻モ早ク戰爭ノ慘禍ヲ免レ、兩國永遠ノ平和ノ爲ニ相當ノ手續ヲ盡スハ、即チ兩閣下及本大臣ノ任ナレバ、互ニ成ルベク丈ケ困難ヲ避ケテ此名譽アル職務ヲ完クセザルベカラズ。

伍 眞ニ然リ。本大臣等亦速ニ任務ヲ完結センコトヲ望ム。

伊東 本大臣ハ念ノ爲メ本國政府ニ電報シテ其事實ヲ究ムルモ、之レニ拘ラズ兩閣下ハ其任務ヲ盡シ得ベキ場合ニ至ラバ、速ニ結局スル爲メニ充分準備セラレンコトヲ望ム。萬一貴國政府ニ於テ、今ニ及ビ批准交換ヲ躊躇セラル、ノ實跡ヲ認ムルコトアラバ、本大臣ハ寸刻モ猶豫セザルコトヲ諒セラレタシ。

伍 本大臣等ノ希望スル所モ亦同一ナレバ、尙微力ヲ盡スコトヲ懈ラザルベシ。

(談判此ニ終ル時午後十一時三十分)

芝罘談判記要

第三

(第三回) 五月八日午前十一時三十分「ビーチ、ホテル」ニ於テ

出席者	官氏名
全權辦理大臣	伊東 巳代治
隨員	龍居 賴三
同上	佐藤 顯理
同上	檜原 陳政
換約全權大臣	伍廷芳
同上	聯芳

(例ノ如ク握手禮終リ着席ノ後)

伊東 昨夜ハ深更マデ貴館ヲ煩シ、痛悚ノ至リニ堪ヘス。其節述ベタル如ク長文ノ電信ヲ本國

政府ニ發シ置キタリ。

伍 其後訓電ニ接セラレザルカ。

伊東 然リ。事實果シテ貴説ノ如クナラバ或ハ行違ヒニ訓電ヲ接受スベキヲ豫約シタルニ、今朝只今ニ至ルマデモ何ノ電報モナシ。想フニ本大臣ヨリ發シタル電報ハ已ニ外務大臣ノ手ニ達シタラント雖モ、是ハ念ノ爲メニ發シ置キタルニ過ギザレバ、我政府ニ訓令ヲ請ヒタルニ非レバ、本大臣ハ返電ニ接スルト否トニ拘ラズ、昨日來要求シ置キタル通り益々其前程ヲ急ニセザルベカラズ。

伍 電信局ハ夜間發信セザル筈ナリ。閣下ハ何時頃差立ラレタルカ。

伊東 至急官報ハ夜間ト雖モ發信スルコト、何レノ國ニ於テモ同一ナリ：：本大臣ヨリ差立タル電報ハ今曉二時頃當館ヨリ送致セシメタリ。

伍 至急官報ニテモ我國ニ於テハ夜間發信セザルノ例ナレバ、今朝マデハ其儘電信局ニ留メ置キシナラン：：閣下ヨリ送致セラレタルトキ電信局ハ閉鎖シアラザリシカ。

伊東 否、電信局ハ閉鎖シアラザリシ。現ニ受信シタルノ證左本大臣ノ手ニ存ス：：假令今朝ニ發信シタリトスルモ最早京都ニ到達シタルナラン。
伍 如何ニ計算スルモ猶五六時間ヲ經ルニ過ギザレバ恐クハ未ダ京都ニ到達セザルベシ。

伊東 或ハ未達ナルヤモ知ルベカラズト雖モ、本大臣ハ念ノ爲メニ照會シタルナリ。若シ貴説ノ如ク我政府ニ於テ承諾シタルナランニハ、遅クモ本大臣ヨリノ電報ト行違ヒニ何トカ電報アルベキ筈ナリ。然ルニ未ダ其事ナシ。又昨日午後四時旅順口ヲ發シタル運送船肥後丸ハ今曉着到シタルモ、一ノ電報ダモ齎サズ。元來同船ハ本大臣ニ宛テタル内地ヨリノ通信ヲ轉致スルノ用ニ備ヘタルヲ以テ、果シテ俄國政府ヨリ交換ノ延期ヲ要求シ、我政府之ヲ承諾シタランニハ同船ガ旅順口ヲ發スル時マデニハ、本國政府ヨリ本大臣ニ對シ相當ノ電報ナキ筈ナシ。

伍 肥後丸ノ到着ハ尙ホ早カリシニハアラザルカ。

伊東 否、今曉二時半頃ニ到着シタリ。其事ハ閣下ヨリ港長ニ試問セラル、ニ於テ判然タラン同船ハ批准交換執行次第、本大臣ノ乗船ヨリ一時間ニテモ二時間ニテモ速カニ其報道ヲ旅順口ニ齎ス爲ニ回航セシメタルモノナリ。

伍 肥後丸ハ數日前ニ旅順口ヲ發シタルニハアラザルカ。

伊東 否、昨日午後五時批准交換ノ報道ヲ齎スベシトノ命ヲ啣ヘテ旅順口ヨリ回航セシメタルモノナリ。

伍 旅順口ヨリ直航シタルカ。

伊東 素ヨリ然リ。本大臣ハ我政府ヨリノ最後ノ報知ヲ齎ラサシムル爲メ、故ラニ最後ノ時機
マデ旅順口ニ止メ置キ、乃チ昨日午後五時同所ヲ拔錨セシメタリ。

伍 然ルニ肥後丸開帆ノ後ニ閣下ヘノ訓電達シタルニハ非リシカ。

伊東 貴説ノ時間ヲ以テ算スレバ、肥後丸開帆前ニ於テ必ズ電報ハ旅順口ニ達スベキ筈ナリ。
然ルニ同船ハ何等報道ヲ齎サザリシ。

伍 然ラバ閣下ハ昨日日本大臣等ノ接受シタル電報ヲ疑ハル、カ。

伊東 否、敢テ疑フニアラズト雖モ、若シ本日ノ交換ヲ延期スルナラバ、遅クモ昨日午後五時
マデニ旅順口ヘ向ケ訓電至ラザル所以ナシト思考スルノミ。本大臣ハ未ダ何等電報ニ接
セザルニ於テハ、約ノ如ク交換セラル、カ。將タ交換ヲ拒絶セラル、ナラバ公然ノ書面
ヲ得テ此地ヲ去ルカ、二者其一ニ居ラザルベカラズ。過刻樞原ヲ貴方ニ差出シ途中ニ於
テ面晤セシメタルモ畢竟之ガ爲メナリ。

伍 豫メ誤解ヲ防グ爲メニ一言シ置カン。昨夜ノ電報ハ昨日付ヲ以テ米國公使デンビー氏ヨ
リ貴國政府ヘ電報シ、本日貴國政府ヘ云々トアルヨリ觀レバ、恐クハ肥後丸ガ旅順口ヲ
發シタリト云フ午後五時頃マデニハ、貴國政府ヨリノ訓電ハ同地ニ到達セザリシナラン
。：：昨夜閣下ノ云ハル、所ト、今朝樞原氏ヨリ聞ク所トハ少ク異同アルガ如シ。

伊東

今朝樞原ヨリ述べタル所ト、昨夜本大臣ノ言フ所トハ全く同一ノ意味ナリ。肥後丸ノコ
トハ今本大臣ヨリ述べル如キ事實ナレバ、最早争フヲ要セズ。閣下モ知ラル、如ク、肥
後丸ニ拘ラズ本大臣ハ上海線ヲ經テ本國政府ヨリノ電報ヲ接受スルヲ得レバ、果シテ貴
説ノ事實アラバ、特別ナル他ノ方途ヲ外ニスルモ、上海線ヲ經テ疾ク何分ノ訓電達セザ
ル筈ナシ。況ンヤ現外務大臣ハ敏捷ヲ以テ聞ユル人ナレバ、今日只今マデ電報セラレザ
ルノ理ナシ。而シテ最後ノ瞬刻マデ止リテ、本國政府ヨリノ報道ヲ齎スベシト命ジ置キ
タル肥後丸ガ空手ニシテ到着シタルニ於テハ、兩閣下ノ接手セラレタル電報ヲ疑フニア
ラズト雖モ、亦直チニ確信スルヲ得ザルハ當然ニアラズヤ。故ニ本大臣ハ最後ノ瞬刻ト
認ムル時機マデ交換行ハレザレバ、遺憾ナガラ拒絶ノ文書ヲ要求シテ歸途ニ上ラザルヲ
得ザルナリ。

伍

然レドモ幸ニ昨夜本大臣等ノ地位ヲ諒察セラレ、長文ノ電報ヲ發セラレタルナレバ、其
回答ノ到ルマデハ猶豫セラレタシ。本大臣等ハ昨夜此事ハ許諾セラレタルコト、承知セ
リ。然ルニ今朝ニ至リ、俄然促迫セラル、ハ少ク不穩ニハアラザルカ。本大臣等閣下ノ
交渉シタル所ヲ以テ北京ニ電報シタルニ、回電未ダ達セザルニ、早ク已ニ閣下ノ此地ヲ
去ラル、如キコトアラバ、本大臣等ハ如何ナル地位ニ陥ルベキカ、希クバ假リニ本大臣

等ニ代リテ其困難ヲ想像セラレンコトヲ。

伊東 其ハ兩閣下ノ誤解ニ屬セリ。本大臣ハ決シテ休戰期限ノ滿ツルニモ介意セズシテ、回電ノ到ルヲ待ツベシトハ言ハズ。一面ニ於テ本大臣ノ電報シタルハ、唯ダ兩閣下ノ依頼ニ應ジタルマデニシテ、即チ念ノ爲メニ閣下等ノ言説ヲ我政府ニ報道シタルニ過ギズ。又他ノ一面ニ於テ、回電ノ如何ニ拘ラズ、豫備ノ手續ヲ盡シテ最後ノ瞬刻ヲ待チ、以テ進止ヲ決スベキハ敢テ喋々ヲ要セザル所ナリ。而シテ今ハ最後ノ瞬刻ナルヲ信ズレバ、直チニ交換ヲ執行セラル、カ、將タ交換ヲ拒絕スル旨ノ公文ヲ付與セラル、カ、其撰擇ハ一ニ兩閣下ニ在リ。本大臣ハ此上多言スルノ要ナシト思考ス。

伍 閣下乞フ少ク氣ヲ平ニシテ聽ケ。凡ソ事ヲ處スル公平ナラザルベカラズ。今本大臣等ガ如何ナル困難ノ地位ニアルカヲ公平ニ諒察セラル、ナラバ、亦本大臣等ノ懇請スル所ノ無理ナラザルヲ了解セラレンカ。

伊東 昨夜兩閣下ノ地位ヲ諒察シタレバコソ、本大臣ハ一刻モ速ニ交換ヲ執行シ一刻モ速ニ旅順口ニ歸報センコトヲ欲スルニ拘ラズ、兩閣下ガ彼ガ如キ訓電ヲ接受セラレタルニ於テハ此ノ當初ノ希望ヲ抑へ、兎ニモ角ニモ本大臣ノ猶豫シ得ベキ最後ノ瞬刻ト認ムル時期マデハ待受クベシト云ヒタリ。而シテ之レト同時ニ豫備ノ手續ヲ盡スコトヲ促シタルナ

リ。本大臣ハ兩閣下ノ地位ヲ諒察スルコト此ノ如ク切ナリト雖モ、休戰期限ノ滿ツルヲモ意トセズ、空ク返電ノ到ルヲ待チテ、職責ヲ曠クスルコト能ハザルハ勿論ナリトス。兩國ノ全權大臣タル伊藤伯陸奥子ト李中堂トノ間ニ締結調印セラレ、而モ既ニ兩國皇帝陛下ノ批准ヲ經タル平和條約ヲ交換セズシテ止ムハ千秋ノ恨事ト雖モ、最後ノ瞬刻マデ猶豫シテ事成ラズンバ其儘去ラザルベカラザルハ、本大臣ノ職務ニ於テ亦洵ニ止ムヲ得ザルモノノルヲ諒察セラレタシ。本大臣ハ飽マデ兩閣下ノ地位ヲ察シタレバ、兩閣下ニ於テモ本大臣ノ地位ヲ察セラレヨ。

伍 最後ノ瞬刻トハ何時ヲ指シテ云ハル、カ。

伊東 本大臣ハ昨夜中ニ豫備ノ手續ヲ了シ、本日午前ニ於テ正式ノ交換ヲ行ハンコトヲ希望シタルモ、既ニ兩閣下ハ昨夜ノ如キ訓電ヲ接受セラレタル以上ハ如何トモスベカラズト雖モ本大臣亦徒ラニ返電ヲ待ツ爲ニ適當ノ時機ヲ過スベカラザルハ勿論ナリ。本大臣若シ十分兩閣下ニ友誼ヲ表セズンバ今朝八九時マデ猶豫シタル後ハ、斷然進止自ラ決セザルベカラザルノ地位ニアルモノナリ。而シテ最後ノ瞬刻ト認ムベキ時期ハ目下ニ切迫シテ、兩閣下ハ何等訓電ニ接セラレズ、本大臣亦何等訓電ニ接セザルニ於テハ、諾否ノ決答ヲ兩閣下ニ促スヨリ外ナシ。兩閣下幸ニ本大臣ノ地位ヲ諒察シ、必ズシモ嚴酷ヲ以テ

視ルコト莫レ。

伍 貴意領セリ。然レドモ本大臣ヲシテ貴大臣ノ地位ニアラシメバ、本國ノ返電ヲ待テ後去就ヲ決セン。

伊東 兩閣下請フ靜考セヨ。本大臣ハ昨夜來屢々述ブル如ク、豫備ノ手續ヲ昨夜中ニ終リ、今朝早ク交換ヲ執行シ、一時間ニテモ二時間ニテモ速ニ平和回復ノ吉報ヲ旅順口ニ齎サンコトヲ期シタルニ、圖ラズモ昨夜會晤中、意外ノ電報兩閣下ノ手ニ達シタレバ、本大臣ハ十分兩閣下ノ地位ヲ察シテ暫ク交換ノ事ヲ言ハズ、一面ハ豫備ノ手續ヲ盡シテ、何時ニテモ正式ノ交換ヲ行フニ便シ、他ノ一面ハ本國政府ニ打電シテ照會スル所アリシモ、固ヨリ本大臣ハ其啣ム所ノ使命アレバ、適當ノ時限内ニ於テ訓電ニ接セザル限リハ、夫レ是レニ拘ラズ、斷然進止ヲ決スベキコトハ明白ニ兩閣下ニ告ゲタリト記憶ス。尙詳言スレバ、兩閣下ノ地位ヲ諒察シテ、本大臣ノ希望ノミヲ主張セズト雖モ、最後ノ時刻ニ至ラバ可否ヲ論セズ本大臣ハ本大臣ノ使命ヲ盡スニ於テ、聊モ猶豫スルヲ得ザルコトヲ了知セラレタシ。(此時伍全權大臣ハ語ヲ挿テ最後ノ時刻トハ先ヅ何時ヲ指シテ云ハルルカト問フ)本大臣ハ本日正午ヲ以テ最後ノ時刻トスベシトノ訓令ヲ受ケタリ。仍テ此間尙誤解ナカラシムル爲メ、今朝特ニ檜原ヲ遣ハシタルニ、兩閣下ハ不在ナリシ爲メ、

同人ハ轉ジテ兩閣下ノ出先ニ就キテ注意ヲ與ヘタリ。本大臣ハ今朝兩閣下へ更ニ交換執行スベシトノ訓電至ルベシト豫期シタルニ、其事ナク又本大臣へハ延期：：若シ事實ナラバ：：ノ電報アルベシト思考シタルニ、唯今マデハ何等消息ナシ。然レバ本大臣ハ本來ノ使命ヲ盡ス爲ニ相當手段ヲ取ラザルベカラザル地位ニ在ルモノナリ。又兩閣下ハ批准交換セラレザルニ於テは、休戰條約ハ同時ニ其効力ヲ失フモノナルヲ承知セラレタシ。

伍 昨日ハ午後一時ヲ以テ最後ノ時刻ト認メラル、ヤニ承知シタリト覺ユ如何。

伊東 否、午後一時マデニハ必ズ拔錨セザルヲ得ズト述ベタリ。交換ハ成ルベク午前中ニ終了シ、遅クモ午後一時マデニ此地ヲ去ラザレバ、適當ノ時期ニ於テ旅順口ニ達スルヲ得ザルコトヲ告ゲタルニテ、決シテ午後一時ヲ最後ノ時刻トハ言ハズ：：本大臣ハ外務大臣ノ訓令ニ從ヒ、正午マデ猶豫セバ足レリト信ズ。

伍 (此時伍全權大臣懷ヲ探テ時辰機ヲ見ルニ、針頭ハ十二時五分ヲ指ス頗ル狼狽ノ體アリ) 既ニ正午ヲ過ギタリ。若シ昨夜中ニ其事ヲ明白承知セバ此ノ如キ行違ヒナカリシナランニ：：今朝ニ至リ突然逼迫セラル、ニ於テハ本大臣等困却ニ堪ヘズ：：唯ダ願クバ一應北京ニ電報スル丈ゲノ猶豫ヲ與ヘラレンコトヲ。

伊東 其ハ甚ダ迷惑ナリ。併シ北京ニ電報セラル、ニハ凡ソ何時間ヲ要スルカ。

伍 (聯全權大臣ト密語ノ後) 返電ノ到來スルハ早クモ今夜十一時頃ナラン。

伊東 迎モ許諾シ難シ：十一時マデハ休戦ノ期ト僅ニ一時間ヲ隔ツルノミナレバ、何ノ命令ヲ下スノ猶豫モナシ。

伍 然ラバ如何セバ可ナルカ。本大臣等ノ地位ニ代リ賢慮セラレタシ。

伊東 昨夜來屢々詳述シタル如ク、本大臣ハ遅クモ午後一時マデニ此地ヲ去ラザレバ休戦期内ニ於テ、何等命令ヲ軍隊ニ下スヲ得ザルコトナレバ、今更考案ノ道ナキヲ諒セラレタシ。

伍 更ニ訓電ノ到來スルマデハ猶豫セラル、コトニ昨夜承諾ヲ得タルヤニ記憶スルモ：唯ダ此上ハ本大臣等ノ地位ノ困難ナルヲ憐察セラレンコトヲ望ム。

伊東 本大臣ガ遅クモ午後一時マデニ出發セザルベカラザルコトハ、昨來再三陳述シ置キタリ決シテ突然ニアラズ。

伍 閣下ガ貴國政府ニ電報スルコトヲ承諾セラレタル以上ハ、自然ニ其返電ヲ待タル、コトヲ意味スルモノナリト承知セリ。

伊東 否、本大臣ヨリノ電報ハ必ズシモ返電ヲ待ツノ趣意ニアラズ。唯ダ其事ヲ報知シ念ノ爲メ聞キ合セタルノミ。

伍 昨夜ハ返電ノ到來スル前ニ於テ、豫備ノ手續ヲ結了セントノ貴意ナリシヤニ承知シタリ。

伊東 否、豫備ノ手續ハ更ニ兩閣下ニ訓電達スルカ、又ハ最後ノ瞬刻ノ前ニ於テ結了シ、何時ニテモ交換ヲ行ヒ得ルマデ爲シ置カント述ベタルナリ。

伍 然ラバ昨夜閣下ハ返電ノ到來スルト否トニ拘ラズ、最後ノ瞬刻ニ至ラバ必ズ交換セント云ハレタルカ。

伊東 固ヨリ本大臣ノ使命ハ批准交換ニ在リ。決シテ事ノ破裂ヲ望マズ。昨夜來述ベタル所ニ交換ヲ促スニアリ。

伍 然ラバ必ズ交換ヲ行フベキヲ以テ、最後ノ電報ヲ北京ニ發スル間ノ猶豫ヲ與ヘラレザルカ。

伊東 時宜ニ依リ多少ノ猶豫ヲ與ヘザルニアラズト雖モ、迎モ午後十一時マデハ猶豫シ難シ：約束ニ依リテハ四時若クハ五時頃マデナラバ本大臣責任ヲ負フテ許諾セン。

伍 休戦期限ハ今夜半ニテ滿ツルナラバ、左程嚴ク迫ラレザルモ可ナランカ。

伊東 否、其時マデ猶豫シテ事ノ破裂ヲ見ル場合アラバ如何トモスベカラズ。

伍 併シ其前北京ヨリ速ニ交換スベシトノ電報アランモ知ルベカラズ。

伊東 若シ軍隊へ下スベキ命令ノ遲達シタル爲メ、何等ノ衝突ヲ來スモ貴國ハ全然其責任ヲ取
ラルルカ。

伍 軍隊へノ通知ノ時間丈ケアラバ衝突ノ虞ナカルベシ。

伊東 兎ニ角本大臣ハ午後四時マデ猶豫セン。而シテ四時マデニ交換セラレザレバ遺憾ナガラ
乗船歸途ニ就クベシ。此事ハ確ニ承知セラレタシ。

伍 (時辰機ヲ脉メツ、) 目下ノ一瞬時ハ實ニ貴重無比ナレバ、北京へ發電ノ後再ビ訪問ス
ルコト、シ是レニテ辭別シタシ。

伊東 承知セリ。後刻尙ホ十分商議セン：：何時頃再訪セララル、カ。

伍 參時頃參堂スベシ。

伊東 二時半頃當旅館ニ於テ面晤センコトヲ望ム。

伍 承知ス。

伊東 尙ホ豫メ商議ヲ要スベキコトアリ。

伍 就レハ後刻參堂ノ時承ラン。

(談判此ニ終ル午後零時四十分)

芝罘談判記要

第四

(第四回) 五月八日午後四時「ビーチホテル」ニ於テ

出席者官氏名

全權辦理大臣	伊東 巳代治
隨員	龍 居 賴 三
同上	佐 藤 顯 理
同上	檜 原 陳 政
換約全權大臣	伍 廷 芳
同上	聯 芳

(例ノ如ク互ニ禮了リ着席ノ後)

伊東 接客中ニテ缺禮シタリ、唯今ヨリ直ニ開談セン

伍 敬承：今特閣下ニ懇願セントスルハ本大臣天津ヲ去ルニ臨ミ、李中堂ヨリ一箇ノ箱ヲ託セラレタリ。是ハ即チ此目錄（目錄ヲ示シツ、）ニ記スル如ク、石黒佐藤ノ兩國手ヲ始メ中堂負傷ノ節厚配ヲ蒙リタル諸氏ニ贈ラントスル勳章及絹布ニテ、閣下ニ乞フテ携歸願呈セラルル様中堂ヨリ囑セラレタリ。

伊東 委細承知、必ズ高囑ノ如ク取計フベシ：：目錄ハ披見スルヲ得ルカ。

伍 幸ニ高覽アリタシ。

伊東 李中堂ヨリノ囑託ナレバ必ズ預リ歸ルベシ。

伍 厚意ハ多謝ス。

伊東 過刻ハ匆忙ノ際辭別シタルガ、畢竟其ノ因縁スル所ハ貴我全權大臣ノ過失ニアラズ：：貴國政府ヨリ昨夜ノ如キ訓電到達シタル爲メ、兩閣下ニ於テモ午前中ニ交換ヲ行フヲ得ザルコト、ナレリ。本大臣亦何等電報ヲ接受セザルニ於テハ、最後ノ瞬間マデ猶豫シテ其効ヲ見ザレバ、斷然タル處措ニ出デザルヲ得ザルヲ諒察セラレタシ：：其後貴國政府ヨリハ別ニ電報ナキカ。

伍 過刻拜別後直チニ北京政府へ電報シ置キタレバ、本大臣等ハ唯ダ其回答ノ到ルヲ待ツ、アリ。尤モ休戦期限ノ滿ツル前ニ於テ必ズ返電アルベキ筈ナリ。

伊東 當地ヨリ總理衙門ニ達スル直線アルヲ以テ、凡ソ一時間内ニ返電到達スルコト、ナリ居レリト承知ス、果シテ然ルカ。

伍 電信ノコトハ本大臣ノ詳知セザル所ナルヲ以テ今確答スルヲ得ズト雖モ、兎ニ角五ヶ所ノ局ヲ經ルニ相違ナシ。

伊東 今朝本大臣ノ聞ク所ニ依レバ中繼ギノ局ナク一直線ニ總理衙門ト往復スル特別ノ線アリト云フ如何。

伍 否、本大臣ハ信ゼズ：：五ヶ所ノ局ヲ經由スルコト丈ケハ事實ナリ。併シ何故ニ五ヶ所ノ局ヲ經由セザルベカラザルカニ至ツテハ本大臣ノ能ク電務ニ通ゼザルヲ以テ答フルヲ得ズ。

伊東 普通ノ電信ナラバ貴説ノ如シト雖モ、至急官報ハ直接總理衙門ニ達スル由ニ聞ク、又幾箇所ノ中繼局アルモ、機械ノ作用ニ由リ必ズシモ中繼局ヲ經由スルヲ要セザルナリ。

伍 本大臣電務ニ通ゼザレバ明カニ答復スルヲ得ズト雖モ、兎ニ角必ズ五ヶ所ノ中繼局ヲ經ザルベカラザルコトハ昨夜確メ得タル所ナリ。又我國ノ電信ハ分チテ三種トナリ居リ、第一ノモノハ即チ至急ナルコトヲモ昨夜承知シタリ。

伊東 其ハ各國何レモ同様ノコトナリ。本大臣ガ今曉二時ニ發シタル電信ノ如キモ即チ至急ナ

レバ特別ノ取扱アリシヲ疑ハズ。然ルニ今ニ至ルマデ何等返電ナシ。故ニ我政府ハ今仍ホ本大臣ガ旅順口ヲ去ル時ト同一ノ地位ニアルコトヲ固信ス。

伍

本大臣ハ必ず休戦期限ノ満ツル前ニ於テ、更ニ訓電ニ接スベキヲ信ズ。

伊東

然レドモ昨日來屢々述ブル如ク、休戦滿限マデ猶豫スルコトハ到底本大臣ニ於テ肯諾スルヲ得ザルナリ。我軍ノ駐屯スミ最近ノ地即チ旅順口マデ批准交換ノ結果ヲ特報スルニハ、昨日來云フ如ク多時ヲ費スコトハ兩閣下ノ記憶ニ存スベシ。貴國皇帝陛下ニ於テ批准セラレザルナラバ則チ止ムト雖モ、已ニ批准ヲ經タル上、唯ダ交換ノ爲メニ休戦滿期マデ猶豫スルハ其謂レナキ所、本大臣ハ兩國軍隊ノ間ニ行違ヒヲ生ゼシメザル爲ニ、適當ノ時限内ニ何分ノ報知ヲ爲ス丈ケノ猶豫ヲ見込ムノ必要ニシテ且當然ナルヲ信ズルモノナリ。

伍

然レドモ休戦期間ニ於テ速ニ交換スベシトノ訓電ヲ得バ、本大臣等ハ直ニ交換執行スルコトヲ望ムモノナリ。而シテ其期限ハ今夜半ナレバ、期限後ニ於テハ閣下ノ言ハル、所至理ト雖モ、其前ニ於テハ仍ホ期限内ニ屬スレバ、道理上ノ遲速ニ拘ルベキモノニアラズト思惟ス。過刻拜別後至急ヲ以テ北京ニ打電シ置キタレバ、無論休戦期間ニ回電ニ接スベキヲ疑ハザルナリ。今本大臣等ノ困難ナル地位ニ在ルコトハ想フニ閣下ノ諒察セラレ、所ナラン。萬一適當ノ時機ニ於テ回電ナキトキハ、本大臣等ハ換約ノ全權ヲ帶有スルモノナルヲ以テ、斷然責任ヲ負フテ交換スルノ外ナキコトハ過刻既ニ本大臣等ノ間ニ協議成リ居レバ、願クハ、最後ノ時刻マデ猶豫セラレタシ……本大臣等ハ必ず其前ニ回電ノ到ルヲ確信スルモノナリ。若シ今夜十一時マデニ回電ナキトキハ本大臣等責任ヲ負フテ斷然交換スベケレバ聊カ貴意ヲ安ンゼラレヨ。是レ本大臣等力ノ及ブ限り最後ノ手段ニシテ、下ノ關ニ於ケル兩國全權ノ辛苦ノ結果ヲ水泡ニ歸セシムルニ忍ビズ。却テ兩國ノ友誼ノ回復ヲ希フノ熱心ヲ認メラレンコトヲ望ム。

伊東

貴意ヲ領ス。併シ兩閣下ニ於テモ當初以來ノ事實ニ就キ熟慮セヨ。我ハ二回マデ貴國ニ於テ果シテ和ヲ求ムルノ誠實アルヤ否ニ付テ疑ヒタリ。而シテ最後ニ至リ李中堂老體ヲ以テ使命ヲ奉ジテ下ノ關ニ來リ、談判ノ席ニ於テ清國政府ノ和ヲ求ムルニ切實ナルハ自分ヲシテ其使事ニ當ラシムルノ一事ヲ以テモ亦清國政府ノ誠實ヲ證明スルニ足ルベシトテ、縷々陳辨セラレタルコトハ今猶ホ伍大臣閣下ノ耳底ニ存スベク、本大臣モ亦其席末ヲ汚シ能ク之ヲ記憶セリ。之ニ因リ我政府ハ貴國ガ講和ニ切ナルヲ認メ、乃チ伊藤陸奥ノ兩全權大臣出デ、下ノ關ニ會商スルコト、ナリ、其後貴我ノ間數回ノ談判ヲ重ネテ其間我ハ李中堂ニ暗號電信送受ノ權ヲ特許シ、日々ニ數回ノ電信往復ヲ北京政府ト爲スノ

便ラ與ヘタレバ、下ノ關ニ於テ調印セラレタル條約ハ李中堂一己ノ意見ニ成リタルモノト認メラレズ、其重要ノ事項ハ必ズ北京政府ニ旨ヲ請フテ我全權ト應答セラレ、而テシ後始メテ成約ノ功ヲ見ルニ至リタレバ、平和條約ハ已ニ兩國皇帝陛下ノ批准ヲ經、殊ニ貴國ヨリハ特ニ批准ヲ經タルコトヲ通知セラレ、マデニ進行シタルナレバ、交換ハ單ニ形式上ニ止ムベキ筈ナリ若シ貴國ニシテ皇帝陛下ガ批准シ玉ヒタル當時、及李中堂ガ其事ヲ我政府ニ通知セラレタル當時ノ誠實アラバ、何故ニ今ニ及デ交換ヲ躊躇セラレ、カ、千思萬考スルモ故ラニ交換ヲ最後ノ時刻マデ延引スルノ理由アルヲ見ズ。而シテ我政府ニ在テハ本大臣ニ授クルニ全權ヲ以テシ、貴國亦兩閣下ニ任スルニ換約全權大臣ヲ以テセラレ、昨夜一見シタル如キ印璽マデモ授與セラレタルナレバ、貴國ノ意ハ批准交換ヲ行フニ在ルヤ明白ナリトス。我ニ於テ最後マデ猶豫スルノ不利益ナルハ兩閣下ニ於テモ既ニ十分識認セララルベシ。幸ニ交換セララルナラバ或ル時期マデハ猶豫スルヲ拒マズト雖、若シ事破裂スル場合ニ至ラバ旅順口マデ其報ヲ齎サシムルノ餘裕ナキコトハ昨日來縷陳スル如クニシテ、兩閣下ガ最後マデ延引セラレントスルハ何等事由ナク、徒ニ本大臣ヲシテ益々困難ノ地位ニ陥ラシムルノミ：：貴國ノ意到底交換拒絕ニアラバ唯ダ其一言ヲ聞テ今ヨリ此地ヲ去ラン：：若シ又交換ヲ行フノ誠實今ホ存スルナラバ尙即時交換セ

伍

ラレザル筈ナシ。本大臣ハ最早此時ニ於テハ兩閣下ノ斷乎タル確答ヲ得ンコトヲ欲ス。閣下ノ言一々至當ナリ。唯ダ本大臣等ノ地位ヲ憐察セラレタシ。併シ最後ニ至ラバ必ズ責任ヲ負フテ交換スベシ。若シ本大臣等ニ於テ此決心ナクンバ之ヲ明言スルヲ得ザルハ勿論ナルヲ以テ、暫ク察ヲ垂レテ猶豫セラレントヲ望ムノ外ナシ。

伊東

閣下ノ其一言ニ於テ本大臣ハ無論兩閣下ガ何時ニテモ交換シ得ラル、コトヲ信ズ。果シテ然ルナラバ何故唯今交換ヲ躊躇セラレ、カ：：何等理由ナクシテ最後マデ延引スルハ双方ノ不利益ヲ來スモノナリ：：苟モ兩閣下ハ交換シ得ルノ全權ヲ有シナガラ交換ヲ實行セズ、左程マデニ遅延セラレ、ニ至テハ本大臣ハ實ニ兩閣下ノ所爲ヲ疑ハザルコトヲ得ズ。否貴國政府ノ眞意ノ存スル所頗ル怪訝ニ堪ヘザルモノアリ。

伍

(頗ル困却ノ體アリ) 若シ地位ヲ換テ閣下ガ昨夜貴覽ニ供シタル如キ訓電ヲ接受セラレタルナラバ如何。少ク本大臣等ノ地位ニ代リテ憐察セラレタシ。本大臣等更ニ訓電ヲ得テ交換スルナラバ重責ヲ取ルヲ要セザルナレバ、其訓電ノ到ルマデ猶豫ヲ乞フナリ。併シ萬一己ムヲ得ザル場合ニ迫レバ、斷然意ヲ決シテ交換ヲ行フベシト云フナレバ、夫レマデノ猶豫ヲ改メテ懇請スル譯ナリ：：唯今ノ内ハ互ニ必要ナル書類ヲ調整シ、記名調印スルマデニ準備シ置クコト、セバ、時間ヲ空費スルノ悔ナク、乃チ閣下ノ庇護ニ依リ

本大臣モ重責ヲ取ルニ及バザルナレバ幸甚シ。

伊東

兩閣下ノ地位ニ代リテ憐察セヨト云ハル、モ、我政府ハ貴言ノ如キ訓令ヲ發セズ。其命ズル所廟議ノ一定ト共ニ動クコトナシ。或ハ交換スベシ或ハ交換スベカラズト云フ如ク、明々白白タル訓令ヲ出シ最後マデ曖昧糝稜ノ間ニ彷徨スルヲ許サザルナリ。但シ一タビ交換ノ全權ヲ授ケタル後、貴國政府ノ命令トシテ暫ク見合スベシトノ訓令アリト假定スルモ、休戰滿期マデ猶豫スルコトハ到底對方ニ於テ承諾シ得ラルベキコトニアラズ。即チ對方ニ於テ不同意ナレバ貴國ニ在テハ斷然交換スルカ拒絶スルカ二者其一ヲ擇バザルヲ得ザルベシ。

伍

然レドモ本大臣ノ見ニ依レバ既ニ條約ノ期限モ存スレバ徒ラニ一方ニ於テ他ノ承諾ヲ待タズ時刻ヲ短縮スルノ權利ナシ。

伊東

其一言ハ尤モ驚クニ堪ヘタリ。若シ民事上ノ訴訟ニ於テ狀師ガ法廷ニ論争スルノ場合ニ於テハ、或ハ貴説ノ如キ論鋒ヲ用ユルコトアラント雖モ、今回ノ事タル貴國請和ノ切實ヲ認メテ成立シタル平和條約ノ批准交換ナレバ、果シテ貴國皇帝陛下ト貴國政府ニシテ日本ノ誠實アリテ而カモ兩閣下全權ヲ帶有セラル、ニ於テ、約期ノ極度マデ遲緩セラルルハ本大臣ノ殊ニ怪訝スル所ナリ。法律上ノ語ヲ以テセバ、本大臣ハ乗船内ニ於テ今後

十二時マデハ猶豫センモ知ルベカラズト雖モ、苟モ貴國ニ於テ批准交換スルノ誠實存スルナラバ何等事由ナクシテ極度マデ本大臣ヲ困苦セシムルヲ要セズ。却テ今少シク厚遇セラレテ當然ナリト思フ。閣下ハ十一時マデ猶豫セヨト云ハル、モ、僅カニ一時間ヲ以テ當地ヨリ旅順口ニ達スルコト能ハザル勿論ノコトナリ。貴國果シテ平和ノ回復ニ殷切ナラバ、本大臣ヲ苦メテ極度ニ陥ラシムルニ及バザルベシ。本大臣ハ永遠平和回復ノ爲メノ使命ヲ奉ズルモノナレバ、其爲メニハ十分責任ヲ負フテ事ヲ斷ズル覺悟ナリ。併シ十一時マデ猶豫スルコトハ到底承諾スル能ハズ。兩閣下ニ於テモ東洋永遠ノ平和ノ爲メナルヲ念ヒ、本大臣ニ於テ承諾シ得ラルベキ考案ヲ提出セラレタシ。徒ニ細微末節ニ涉リテ議論ヲ鬪ハセバ際限アルベカラズ。本大臣ハ伍全權大臣トハ十年來ノ知己ナリ。今日握手シテ平和回復ノ使命ヲ全クシ、將來永ク東洋ノ舞臺ニ立タントスルノ政治家ヲ以テ互ニ自任スルモノニアラズヤ。本大臣ニ於テモ事ノ破裂ニ至ラザル爲メニ重責ヲ負フヲ辭セザレバ、兩閣下亦宜ク更ニ重責ヲ負フテ事ノ圓滿ヲ期セラレザルベカラズ。他日肘ヲ取テ一堂ニ會スルトキハ此ノ如キ不愉快ナル事柄ヲ以テセザルコトヲ望ム。兩閣下ハ本大臣ヲ視ルニ友人ヲ以テシ今少ノ厚意ヲ表明セラレタシ。

伍

高義深ク感銘ス。只今休戰期限ハ夜半ナレバ一方ニ於テ時刻ヲ限ルベカラズト云ヒタル